

開設年度	2026年度	科目名	統計分析法			科目コード	DN121025
評価責任者	晴佐久 悟 ※各回の担当教員は授業計画にて確認してください					授業回数	15回
授業方法	演習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	2年・前期		
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○ -7 看護専門職として研鑽し続けるために必要な課題探究能力を有し、自己の課題を明確にできる。					

授業の目的とねらい

保健統計データを利用し、データリテラシーとしての「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンスの基本的な活用法に関する基礎知識を修得する。ソフトウェアを用いたデータの図示および統計学的検定方法を学習する。

到達目標

- 1.全体像の理解 知識
- 1) 統計学の活用方法について述べることができる。
- 2) 統計データのまとめ方について述べることができる。
- 3) 確率、推定について理解し看護学に必要な検定方法を述べることができる。
- 2.態度形成 態度
- 1) データの意味を知り、統計を活用する積極的な態度を養う。
- 2) 情報社会におけるデータの取り扱いに関する基本的な態度を養う。
3. スキル形成
- 1) 度数分布表が作成できる。
- 2) 図示法を活用し、データを表すことができる。
- 3) t検定、U検定、3群以上の標本の検定、相関関係の分析ができる。

準備学修

講義前にシラバスの学習項目ならびに行動目標を理解した上で、教科書の指定された項目（予習の項目）に目を通しておくこと。学生は課せられる課題や、その他学習活動に約15時間を費やすこと。
講義後は、教科書の図表を中心に、講義内容を復習すること。

成績評価基準

筆記試験（70%）、授業態度・課題内容（30%）とし、総合100点で評価する。課題の締め切りに遅れた場合は、減点されるので、締め切り日に注意する。授業態度には、授業に臨む姿勢、プレゼンテーション、グループ討議などのディスカッションが含まれる。

課題等に対するフィードバック

評価後に返却し解説を行う。

教科書・参考書など

教科書：
高木晴良著 『系統看護学講座基礎分野 統計学』医学書院

参考書：
牧本清子著 『標準保健師講座別巻 2 疫学・保健統計学』医学書院
中野正博著 『看護・保健・医療のための新楽しい統計学』

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	吉田大悟	ユニット1 統計学の活用方法 1) 統計学の定義 2) 医療・看護学・健康科学と統計学の関係 3) 健康指標
2	吉田大悟	ユニット2 統計データのまとめ方 1) データの種類 2) データの入力 3) 度数分布表
3	吉田大悟	ユニット2 統計データのまとめ方 4) 分割表の作成 5) 図示法を活用したデータ表示
4	吉田大悟	ユニット2 統計データのまとめ方 6) 平均、分散と標準偏差など集団を表す代表的な 数値の算出
5	吉田大悟	ユニット3 確率分布 1) 確率分布 2) 正規分布 3) 正規分布以外の分布
6	吉田大悟	ユニット4 推定 1) 母集団と標本 2) 推定
7	秋永和之	ユニット5 検定 1) 帰無仮説、有意水準、両側検定・片側検定
8	秋永和之	ユニット5 検定 2) パラメトリック検定とノンパラメトリック検定 3) t 検定
9	秋永和之	ユニット5 検定 4) χ^2 検定
10	秋永和之	ユニット5 検定 5) U 検定（マン - ホイットニー法）
11	秋永和之	ユニット5 検定 6) 3 群以上の標本の検定
12	秋永和之	ユニット6 相関 1) 相関関係の分析法。
13	晴佐久悟	ユニット7 単変量、多変量分析 1) 単回帰分析
14	晴佐久悟	ユニット7 単変量、多変量分析 2) ロジスティック回帰分析 3) 重回帰分析
15	晴佐久悟	ユニット8 数理・データサイエンス 1) 看護における数理・データサイエンスの基本的な活用法

開設年度	2026年度	科目名	医療における情報通信技術			科目コード	DN121030
評価責任者	吉田 大悟 ※各回の担当教員は授業計画にて確認してください					授業回数	8回
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期		2年・前期	
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○ -1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。					
		○ -3 科学的根拠に基づく対象者の個別性に応じた最適な生活（well-being）に向けた看護を計画的に実践できる。					
		○ -7 看護専門職として研鑽し続けるために必要な課題探究能力を有し、自己の課題を明確にできる。					

授業の目的とねらい

本講義ではスライドを用いた講義とレポート作成を通して、インターネット通信技術について学び、医療・保健・福祉の現場で進んでいる情報通信技術（ICT：information communication technology）を用いた取り組みについて理解を深める。また将来、看護師・保健師・助産師として病院等で診療情報を適正に取り扱えるように、医療情報を取り扱う際の注意点や現場の問題点、さらに医療に携わる人材が知っておくべき倫理観や法律について理解することを目指す。

<アクティブ・ラーニングおよびICTを取り入れた教育>

本講義では、ICTを用いた取り組みについて理解するだけではなく、実際に情報の検索を行い、医療情報を取り扱う際の注意点や課題についてグループワークの中で体験しながら学びを深める。

<実務経験を生かした教育内容>

講義では、医療現場でICTを用いた取り組みの経験がある講師が、事例を紹介しながら実施する。

到達目標**1. 全体像の理解 知識**

- 1) 情報通信技術の仕組みについて理解し、説明できる。
- 2) コンピューターウイルスの驚異について理解し、説明できる。
- 3) データベースの基本的な仕組みについて理解し、説明できる。
- 4) ネットワークを活用した医療・健康管理システムについて理解し、説明できる。
- 5) サイバー攻撃による情報漏洩について理解し、説明できる。
- 6) 診療情報を取り扱う医療者の倫理について理解し、説明できる。
- 7) 既存のICTを使った医療システムやサービスについて概要を理解し、説明できる。
- 8) 人工知能（AI）の発展によってもたらされる医療倫理の課題について説明できる。

2. 態度形成 態度

- 1) 講義に興味を持ち、グループワークに積極的に参加して自分の意見を述べることができる。

3. スキル形成

- 1) 学内や実習先で利用しているICT機器を適切に利用できる能力を身につける。
- 2) 情報モラルと情報セキュリティを守る能力を身につける。

準備学修

学生は、参考書を用いた事前学習と講義の復習に約29時間を費やすこと。また、授業で配布するプリントは予習、復習に活用すること。

成績評価基準

筆記試験（80%）、課題レポート（20%）の合計点で評価を行う。

授業の参加状況や課題レポート提出状況も加味して総合的に評価する。

課題等に対するフィードバック

課題レポートは、講義時に適宜フィードバックを行う。

教科書・参考書など

教科書：太田 勝正 編 『エッセンシャル看護情報学』 医歯薬出版株式会社

参考書：保健医療福祉情報システム工業会 編 『医療情報システム入門 2020』 社会保険研究所
山下 秀二 発行 『情報モラル&情報セキュリティ 改訂3版』 富士通FOM出版 2020

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	吉田大悟	看護情報学の重要性について ・看護情報学とは ・情報とは ・看護におけるデータ・情報の特徴 講義内容についての調査学習とグループによるディスカッションの実施
2	吉田大悟	インターネットの仕組みについて ・インターネットで通信をする仕組み（IP アドレスや URL の仕組み） ・利用者認証の仕組み（特にパスワードと定期変更の重要性など） ・コンピューターウイルスの特徴と感染経路、感染対策、感染時の対応 講義内容についての調査学習とグループによるディスカッションの実施
3	吉田大悟	医療情報の種類と特徴について ・医療情報の種類について ・医療情報の特徴について 講義内容についての調査学習とグループによるディスカッションの実施
4	吉田大悟	病院の業務支援システムと診療情報管理システムについて学ぶ ・病院における医療業務支援システムの仕組み ・情報端末を利用した患者情報の管理 ・医療従事者の情報リテラシー、情報管理教育 講義内容についての調査学習とグループによるディスカッションの実施
5	吉田大悟	病院の業務支援システムと診療情報管理システムについて ・病院における医療業務支援システムの仕組み ・情報端末を利用した患者情報の管理 ・医療従事者の情報リテラシー、情報管理教育 講義内容についての調査学習とグループによるディスカッションの実施
6	吉田大悟	病院の診療情報管理と医療者の倫理について ・病院の診療情報管理のガイドライン ・個人情報の匿名化とは ・医療従事者の守秘義務と診療情報の閲覧制限、アクセス制限 講義内容についての調査学習とグループによるディスカッションの実施
7	吉田大悟	ICTネットワークを活用した医療・健康管理システムについて ・地域医療連携システムや電子お薬手帳などの仕組み ・運動や健康管理システムの仕組み ・デジタルヘルスへの期待と課題 講義内容についての調査学習とグループによるディスカッションの実施
8	吉田大悟	人工知能（AI）と医療倫理について学ぶ ・人工知能とはどのようなものか ・ディープラーニングの仕組みについて ・人工知能の進化と医療応用に関する倫理的課題 講義内容についての調査学習とグループによるディスカッションの実施

開設年度	2026年度	科目名	医療英語			科目コード	DN122035
評価責任者	学生部長 ※各回の担当教員は授業計画にて確認してください					授業回数	15回
授業方法	演習	単位・必選	1・選択必修	開講年次・開講期	2年・前期		
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○	-1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。				
		○	-2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。				
		○	-3 科学的根拠に基づく対象者の個性に応じた最適な生活（well-being）に向けた看護を計画的に実践できる。				
		○	-7 看護専門職として研鑽し続けるために必要な課題探究能力を有し、自己の課題を明確にできる。				

授業の目的とねらい

英語コミュニケーションⅠ・Ⅱで学習した英語力をさらに高め、円滑なコミュニケーション・スキルの基礎としての表現力や英語文献を読むための応用力を向上させることを目的とする。ここでは、日常の医療・看護の場面を取り上げて慣用表現を身につけ、正確な発音を用いた英会話に必要な能力を養い、時間の余裕があれば、医療関連の短い英語論文等を教材として取り上げる。

到達目標

全体の到達目標
円滑なコミュニケーション・スキルとして基礎的な英語での読解と会話ができ、日常の医療・看護の場面における英語力を身に付ける。

知識
医療・看護の場面に使われる基本的な英単語や英語表現を記述できる。

態度・技能形成
1) 日常の看護場面での多様な英語表現を正確に聞き取り理解した上で（英語および日本語で）説明できる。
2) 看護場面でのコミュニケーションに役立つ基本的かつ応用的な英語慣用表現を身につけることができる。

準備学修

テキストや配布資料をもとに予習・復習をする。予習・復習に必要な時間は全体で 15 時間とする。

成績評価基準

受講態度の積極性、会話力（10%～ 20%）、中間テストおよび定期試験：英文の理解力、英語表現力（80%～ 90%）として総合 100 点で評価する。

課題等に対するフィードバック

課題は特に予定していない。

教科書・参考書など

（教科書）
Peter Vincent 他『Speaking of Nursing』（NAN'UN-DO）

（参考書）
Japanese-English dictionary, English-Japanese dictionary（出版社等は問わない）

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	ニールセン・ピーター	Unit 1 Asking Basic Questions
2	ニールセン・ピーター	Unit 2 A Patient's First Visit
3	ニールセン・ピーター	Unit 3 Where's Internal Medicine?
4	ニールセン・ピーター	Unit 4 Admission to the Hospital
5	ニールセン・ピーター	Unit 5 Giving Information
6	ニールセン・ピーター	Unit 6 Symptoms
7	ニールセン・ピーター	Unit 7 Injuries and Emergencies
8	ニールセン・ピーター	まとめと解説
9	ニールセン・ピーター	Unit 8 How Are You Feeling?
10	ニールセン・ピーター	Unit 9 A Patient's Medical History
11	ニールセン・ピーター	Unit 10 Medicine
12	ニールセン・ピーター	Unit 11 I'm Going to Give You an IV
13	ニールセン・ピーター	Unit 12 Congratulations! You're Having a Baby Girl
14	ニールセン・ピーター	Review Units 1-6, etc.
15	ニールセン・ピーター	Review Units 7-12, etc.

開設年度	2026年度	科目名	保健医療経済論			科目コード	DN121210
評価責任者	宮園 真美 ※各回の担当教員は授業計画にて確認してください					授業回数	8回
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	2年・前期		
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○	-2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。				
		○	-3 科学的根拠に基づく対象者の個別性に応じた最適な生活（well-being）に向けた看護を計画的に実践できる。				
		○	-4 保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実際について説明できる。				
		○	-5 在宅高齢者の健康支援ニーズに対応するために必要な包括的な支援活動を理解し、看護実践への探究心を示すことができる。				

授業の目的とねらい

日本経済の低成長と高齢化社会の進展を背景に医療費の適正化をはじめ、医療資源の効率的運用と、これからの時代における看護・医療サービスの充実にむけた課題について学ぶ。現代社会と保健医療の間にある諸問題や動向について、「健康」「経済」「医療」「福祉」の視点で学ぶ。授業は配布資料をもとにすすめる。

到達目標

全体の到達目標

日本の医療保険制度、診療報酬制度、介護保険制度について理解し、医療制度が抱える問題について再考するとともに、地域包括ケアシステムへの理解を深める。

知識

1. 日本の医療制度が抱える問題について理解し、述べる（記述する）ことができる。
2. 医療保険制度について理解し、述べる（記述する）ことができる。
3. 医療提供体制を再考しなければならない理由について理解し、述べる（記述する）ことができる。
4. 診療報酬制度と介護保険制度について理解し、述べる（記述する）ことができる。

態度

5. 地域医療構想策定の歴史的背景や考え方を学び、地域包括ケアシステムについて考えを示すことができる。

準備学修

講義で取り扱う内容についてシラバスで確認し、これら内容に対する新聞記事やwebでの情報、関連書籍による情報を集めて授業に臨む。そのための時間は、講義全体に対し29時間程度とする。

成績評価基準

筆記試験100 点で評価する。社会保障制度や医療財政問題などの知識への理解と、地域医療構想に関する自分の意見が示されているかどうかを評価のポイントとする。

課題等に対するフィードバック

課題やグループワークディスカッションへの評価については適宜フィードバックする。

教科書・参考書など

（教科書）

特に指定しない。講義資料を配布する。

（参考書）

授業の中で随時紹介する。

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	中畑高子	ユニット1：社会保障制度の概要 1. 社会保障制度の現状について 2. 医療提供体制の現状と課題について 3. 医療財政の特徴および課題について
2	中畑高子	ユニット2：医療提供体制と疾病構造の変化 1. 医療の提供体制と疾病構造の変化 2. 医療保険制度の種類や概要について
3	中畑高子	ユニット3：人口動態と医療財政問題 1. 人口推計から見えてくる未来にどう対応するべきかについて
4	中畑高子	ユニット4：医療保険制度と診療報酬 1. 診療報酬制度の仕組みと現状について 2. 診療報酬について
5	中畑高子	ユニット5：介護保険制度と介護報酬 1. 介護保険制度の理念、仕組み、現状と課題について 2. 介護報酬について 3. 地域別人口推計から見えてくる未来にどう対応するべきかについて
6	中畑高子	ユニット6：地域医療構想と医療計画 1 1. 医療計画の医療法上の位置づけと歴史的経緯について 2. 医療計画の概要について 3. 医療計画と医療従事者について
7	中畑高子	ユニット6：地域医療構想と医療計画 2 1. 地域医療構想の考え方、めざすところについて 2. 地域医療構想の概要について 3. 医療計画と地域医療構想の関連について
8	中畑高子	ユニット6：地域医療構想 1. 地域包括ケアシステムについて 2. 地域包括ケア病棟の役割と課題について

開設年度	2026年度	科目名	社会制度と法律			科目コード	DN122205
評価責任者	学生部長 ※各回の担当教員は授業計画にて確認してください					授業回数	15回
授業方法	講義	単位・必選	2・選択必修	開講年次・開講期	2年・前期		
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○	-1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。				
		○	-2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。				
		○	-3 科学的根拠に基づく対象者の個性に応じた最適な生活（well-being）に向けた看護を計画的に実践できる。				
		○	-4 保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実際について説明できる。				

授業の目的とねらい

人間は、社会的動物であると言われるように、人は単体で生きることではできず、社会の中で人間性や人格を磨き、社会の中で人となって行く。人が社会の中で生きて行く上で、社会が人の集まりである以上、大なり小なり、人と人との紛争（ここで言う紛争とは、戦争や内乱のような武力紛争だけでなく、個人同士のトラブルである民事紛争も含む）が生じることは、不可避である。このような紛争を社会から完全になくすことはできないが、有史以来、人は紛争を解決するために様々な方法（戦争、決闘、神に判断をゆだねる「神判」等）を試みてきた。このような紛争解決方法の中で、最も合理的で、かつ正義と公平に適った方法が「法」であり「裁判制度」である。東洋では、古代中国の秦が、法家思想によって国を統治することで、中原を統一した。西洋では、古代ローマ帝国の法大系（ローマ法）が、今日につながるヨーロッパ大陸法の基礎となっている。国や社会を円滑に統治する方法として、法による統治が有効であり且つ有用なのである。このような法と裁判制度に関して、法とは何か、公法、私法、刑事法の諸観点において、現代社会のトピックスを取り上げて、現代社会における紛争とその解決を概観する。

到達目標

【全体像の理解・知識】 法と憲法、統治および裁判に関する基礎知識を理解し説明することができる。	
【態度形成 態度】 学生は講義に興味を持ち積極的に参加することができる。	
【技能】	
1) 社会における法律の役割を理解し説明できる。	2) 法律の種類を理解し説明できる。
3) 法とは何かを理解し説明できる。	4) 憲法とは何かを歴史に即して理解し説明できる。
5) 人権とは何かを理解し説明できる。	6) 私法とは何かを理解し説明できる。
7) 私法上の権利主体について理解し説明できる。	8) 所有権等の財産権について理解し説明できる。
9) 契約自由の原則とその制限について理解し説明できる。	10) 契約の拘束力と債権者の救済について理解し説明できる。
11) 権利の実現について理解し説明できる。	12) 不法行為について理解し説明できる。
13) 契約責任と不法行為責任の関係について理解し説明できる。	14) 罪刑法定主義とは何かを理解し説明できる。
15) 刑事法上、犯罪とは何かを理解し説明できる。	

準備学修

講義前に、講義レジュメ・教科書の該当箇所をよく読んで予習の上で講義に出席して下さい。講義レジュメ・教科書を活用し、また講義中に採った講義ノートを講義後に整理する等、予習・復習につき、毎週4時間を費やすこと。

成績評価基準

筆記試験（100％）。

課題等に対するフィードバック

課題は特になし。

教科書・参考書など

（教科書）
永井和之他『法学入門 第4版』中央経済社

（参考書）
必要に応じて講義の中で紹介する。

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	前越俊之	ユニット1：法の世界への招待
2	前越俊之	ユニット2：近代市民社会における法体系
3	前越俊之	ユニット3：法とは何か 法の存在形式（法源）
4	前越俊之	ユニット4：公法入門（1） 憲法とは何か？ 主権と統治機構
5	前越俊之	ユニット5：公法入門（2） 憲法と人権
6	前越俊之	ユニット6：私法入門（1）私法とは何か
7	前越俊之	ユニット7：私法入門（2）私法上の権利主体
8	前越俊之	ユニット8：私法入門（3）所有権等
9	前越俊之	ユニット9：私法入門（4）契約①契約自由の原則とその制限
10	前越俊之	ユニット10：私法入門（5）契約②契約の拘束力と債権者の救済
11	前越俊之	ユニット11：私法入門（6）契約③権利の実現（強制履行の手続き）
12	前越俊之	ユニット12：私法入門（7）不法行為①過失責任主義
13	前越俊之	ユニット13：私法入門（8）不法行為②契約責任と不法行為責任の交錯
14	前越俊之	ユニット14：刑事法入門（1）罪刑法定主義
15	前越俊之	ユニット15：刑事法入門（2）犯罪とは何か

開設年度	2026年度	科目名	栄養・代謝機能			科目コード	DN121445
評価責任者	荒川 満枝 ※各回の担当教員は授業計画にて確認してください					授業回数	15回
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	2年・前期		
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○ -3 科学的根拠に基づく対象者の個性に応じた最適な生活（well-being）に向けた看護を計画的に実践できる。					

授業の目的とねらい

人間が発育・成長し、生命を維持するためには、糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラルなどの栄養素が必要であり、看護の対象となる人々の健康を維持する「食」や「栄養」を学ぶことは非常に重要である。
この科目では、これらの物質の生化学的特徴と生体内での役割を学ぶ。また、それらが過剰、もしくは欠乏の際に起こる生体の変化、疾患、特に代謝異常症と総称される病気を理解できるようになることがこの科目の目的の一つである。
科目の後半では、もう一つの目的である看護に必要な栄養学について学ぶ。例えば、食品別の栄養素の特徴や、それぞれの疾患の療養に適した食事などを理解できるようになることがねらいである。
板書やパワーポイント、またプリントなどを使用しての講義形式で行う。
〈実務経験を生かした教育内容〉
臨床における看護経験を活かし、看護の対象となる人々の健康を維持する「食」や「栄養」の看護実践を指導する。

到達目標

- 1.全体像の理解 知識
1) 栄養・代謝機能について学び、療養に必要な栄養について説明できる。
2.態度形成 態度
1) 看護に必要な栄養学を身につけ、食事による療養を考えることができる。
3. スキル形成
1) 食品に含まれる栄養素について説明できる。
2) 消化・吸収・栄養代謝について説明できる。
3) 生体に必要な栄養素について説明できる。
4) 食品成分表によるエネルギー・栄養素の算出ができる。
5) 治療食について理解し、栄養アセスメントができる。
6) 治療食が必要となる疾病別に、望ましい食生活について説明できる。
7) 栄養サポートチーム（NST）における看護師の役割について説明できる。

準備学修

学生は、予習、復習の学習活動に全体で約15時間を費やすこと。また、授業で配布するプリントなどについても予習、復習に活用すること。事前に、「看護のための生物学・化学」を受講しておくことが望ましい。

成績評価基準

試験90%およびレポート・態度10%の割合で100点とする。
課題レポート等については、学習量と理解度で判定する。

課題等に対するフィードバック

課題については、模範解答や模範的な説明をフィードバックし、振り返りを行わせる。

教科書・参考書など

教科書：
青山洋右・島野仁他 著『新体系 看護学全書 人体の構造と機能2栄養生化学』第6版 メヂカルフレンド社
關戸 啓子 編『疾病の成り立ちと回復の促進<4> 第6版 臨床栄養学』ナースিং・グラフィカ

参考書：
齊藤邦明 著 『わかりやすい生化学―疾病と代謝・栄養の理解のために』 ニューヴェルヒロカワ
中村美和子・長谷川恭子 著 『わかりやすい栄養学第5版 臨床・地域で役立つ食生活指導の実際』 ニューヴェルヒロカワ
香川明夫 監修 『八訂 食品成分表』 女子栄養大学出版社

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	北尾洋之	コースオリエンテーション ユニット1 栄養生化学 1) 食品に含まれる栄養素について学ぶ。 2) 生体に必要な栄養について学ぶ。
2	北尾洋之	ユニット2 栄養代謝障害 1) 消化・吸収・栄養代謝について学ぶ。 2) 酵素と補酵素の役割について学ぶ。
3	北尾洋之	ユニット2 栄養代謝障害 3) 糖質の役割および代謝障害について学ぶ。
4	北尾洋之	ユニット2 栄養代謝障害 4) エネルギー産生系について学ぶ。
5	北尾洋之	ユニット2 栄養代謝障害 5) 脂質の役割と代謝障害について学ぶ。
6	北尾洋之	ユニット2 栄養代謝障害 6) タンパク質の役割と代謝障害について学ぶ。
7	北尾洋之	ユニット2 栄養代謝障害 7) ビタミン、ミネラル、無機質などの役割と代謝障害について学ぶ。
8	北尾洋之	ユニット2 栄養代謝障害 8) 核酸、ヌクレオチド代謝障害について学ぶ。
9	中園栄里	ユニット3 病気を持つ人々の栄養 1) 臨床における食品成分表の使用方法について学ぶ。
10	中園栄里	ユニット3 病気を持つ人々の栄養 2) 食品成分表によるエネルギー・栄養素の算出方法について学ぶ。
11	中園栄里	ユニット3 病気を持つ人々の栄養 3) 栄養素を過不足なく取り込むための工夫について学ぶ。
12	中園栄里	ユニット3 病気を持つ人々の栄養 4) 治療食について学ぶ。
13	中園栄里	ユニット3 病気を持つ人々の栄養 5) 病気を持つ人の栄養アセスメント方法について学ぶ。
14	中園栄里	ユニット3 病気を持つ人々の栄養 6) 治療食が必要となる疾病別に、望ましい食生活について学ぶ。
15	荒川満枝	ユニット4 生化学・栄養学を学んだ意義 1) ライフステージ別に必要な栄養について学ぶ。 2) 栄養サポートチーム（NST）における看護師の役割について学ぶ。 3) 看護職が、生化学・栄養学を理解する必要性について考えをまとめる。

《専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進》

開設年度	2026年度	科目名	病態疾病論Ⅲ			科目コード	DN121450
評価責任者	秋好 久美子 ※各回の担当教員は授業計画にて確認してください					授業回数	15回
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・前期		
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○ -3 科学的根拠に基づく対象者の個別性に応じた最適な生活（well-being）に向けた看護を計画的に実践できる。					

授業の目的とねらい

病態疾病論Ⅲでは、内分泌、代謝系疾患や、腎泌尿器疾患、運動器疾患、皮膚科疾患、眼科疾患で、臨床で扱うことが多い病気の特徴や検査・診断、そして治療法について学ぶ。

看護実践に生かせるように、各ユニットの終わりには主な疾患と看護とのつながりを学ぶ回を設けており、病気の理解をした後に、それに対してどのような看護を展開していけばよいかがセットで学べる構成になっているのが特徴である。

この科目の受講によって、臨地実習時に患者さんを受け持った際に、対象者の疾患の特徴の理解や、それに対する看護実践へ取り組みが十分にできるようになることにつながる知識の修得を目指している。

板書、パワーポイント、プリントを使用した教育を行う。

この科目では、生物学、生理学や解剖学の知識が必要となる。

〈実務経験を生かした教育内容〉

国公立病院や大学付属病院における臨床経験を活かした看護実践方法や思考方法を教授する。

到達目標

- 1.全体像の理解 知識 ：主な疾患の特徴、検査・診断、治療法、それらに対する看護の関わりを理解できる。
- 2.態度形成 態度 ：臓器の働きと疾患、疾患とそれに対する看護を考えることなど、それぞれの関連を応用できるようになる。
3. スキル形成 技能：
- 1) 主な内分泌・代謝系疾患の検査・診断・治療について、病態と関連させて説明できる。
 - 2) 内分泌・代謝系疾患と看護のつながりについて考えることができる。
 - 3) 主な腎・泌尿器系疾患の検査・診断・治療について病態と関連させて説明できる。
 - 4) 腎・泌尿器系疾患と看護のつながりについて考えることができる。
 - 5) 主な運動器疾患の検査・診断・治療について病態と関連させて説明できる。
 - 6) 運動器疾患と看護のつながりについて考えることができる。
 - 7) 主な皮膚科疾患の検査・診断・治療について病態と関連させて説明できる。
 - 8) 主な眼科疾患の検査・診断・治療について病態と関連させて説明できる。

準備学修

授業前にシラバスで学習項目と到達目標を確認し、教科書の該当する部分に目を通しておく。

事前学習、事後学習を含む合計60時間程度の学習活動をする。

授業で配布するプリントや返却された小テストなどについても予習、復習に活用すること。

成績評価基準

筆記試験100点にて評価する。

課題等に対するフィードバック

課題については、模範解答や模範的な説明をフィードバックする。

教科書・参考書など

教科書

山内豊明（編集）『ナースィング・グラフィカ【疾病の成り立ちと回復の促進】①病態生理学』メディカ出版

永井由巳（編集）『ナースィング・グラフィカ【EX 疾患と看護】⑥眼／耳鼻咽喉／歯・口腔／皮膚』メディカ出版

萩野 浩 他（編集）『ナースィング・グラフィカ【EX 疾患と看護】⑦運動器』メディカ出版

繪本正憲 他（編集）『ナースィング・グラフィカ【EX 疾患と看護】⑧腎／泌尿器／内分泌・代謝』メディカ出版

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	岡田賢司	ユニット1：内分泌系疾患 1) 内分泌系疾患の主な症状や障害を学ぶ 主な症状や障害：メタボリックシンドローム、肥満、脂質異常、高血糖、低血糖、二次性の意識障害、代謝性アシドーシス
2	岩本利恵	ユニット7：疾患と看護とのつながり 1) 内分泌・代謝疾患と看護とのつながりを学ぶ
3	西崎晶子	ユニット3：代謝系疾患 1) 代謝系疾患の主な症状や障害を学ぶ 主な症状や障害：メタボリックシンドローム、肥満、脂質異常、高血糖、低血糖、二次性の意識障害、代謝性アシドーシス
4	得能智武	ユニット6：腎・泌尿器疾患 1) 腎・泌尿器系疾患の主な症状や障害の病態・診断・治療を学ぶ 主な症状や障害：多尿・乏尿・無尿・蛋白尿・血尿・浮腫・貧血・高血圧・排尿障害
5	西崎晶子	ユニット3：代謝系疾患 2) 代謝系の主な疾患の病態・診断・治療を学ぶ 主な疾患：内分泌系腫瘍、耐糖能異常、糖尿病、脂質・高尿酸血症、痛風
6	得能智武	ユニット6：腎・泌尿器疾患 2) 腎・泌尿器系の主な疾患の病態・診断・治療を学ぶ：急性腎炎、慢性腎炎、急性腎不全、慢性腎不全、尿管結石症、腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎、前立腺肥大症、前立腺炎
7	得能智武	ユニット6：腎・泌尿器疾患 3) 腎・泌尿器系の主な腫瘍の病態・診断・治療を学ぶ：腎癌、膀胱癌、前立腺癌
8	岩本利恵	ユニット7：疾患と看護とのつながり 2) 腎・泌尿器疾患と看護とのつながりを学ぶ
9	西尾淳	ユニット4：運動器疾患 1) 運動器系疾患の主な症状や障害の病態・診断・治療を学ぶ 主な症状や障害：脊髄の障害、運動麻痺・失調、関節痛) 2) 運動器系の主な疾患の病態・診断・治療を学ぶ 主な疾患：骨・関節・骨髄疾患
10	古村南夫	ユニット2：皮膚科疾患 1) 皮膚の構造と機能を学ぶ 2) 皮膚科疾患の主な病態・診断・治療を学ぶ ユニット6：皮膚科疾患 1) 皮膚の構造と機能を学ぶ 2) 皮膚科疾患の主な病態・診断・治療を学ぶ
11	西尾淳	ユニット4：運動器疾患 1) 運動器系疾患の主な症状や障害の病態・診断・治療を学ぶ 主な症状や障害：脊髄の障害、運動麻痺・失調、関節痛) 2) 運動器系の主な疾患の病態・診断・治療を学ぶ 主な疾患：骨・関節・骨髄疾患
12	大島裕司	ユニット5：眼科疾患 1) 眼球の解剖と各組織の生理機能を学ぶ 2) 眼科疾患の主な病態・診断・治療を学ぶ
13	西尾淳	ユニット4：運動器疾患 1) 運動器系疾患の主な症状や障害の病態・診断・治療を学ぶ 主な症状や障害：脊髄の障害、運動麻痺・失調、関節痛) 2) 運動器系の主な疾患の病態・診断・治療を学ぶ 主な疾患：骨・関節・骨髄疾患
14	岡田賢司	ユニット1：内分泌系疾患 2) 内分泌系の主な疾患の病態・診断・治療を学ぶ 主な疾患：間脳・下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎皮質・髄質疾患
15	岩本利恵	ユニット7：疾患と看護とのつながり 3) 運動器疾患と看護とのつながりを学ぶ

開設年度	2026年度	科目名	病態疾病論Ⅳ			科目コード	DN121455
評価責任者	秋好 久美子 ※各回の担当教員は授業計画にて確認してください					授業回数	15回
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・前期		
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○ -3 科学的根拠に基づく対象者の個別性に応じた最適な生活（well-being）に向けた看護を計画的に実践できる。					

授業の目的とねらい

病態疾病論Ⅳでは、主な消化器疾患、小児科疾患、耳鼻科・口腔咽頭科疾患、歯科疾患の特徴や検査・診断、そして治療法について学ぶ。

看護実践に生かせるように、各ユニットの終わりには主な疾患と看護とのつながりを学ぶ回を設けており、病気の理解をした後に、それに対してどのような看護を展開していけばよいかセットで学べる構成になっているのが特徴である。

この科目の受講によって、臨地実習時に患者さんを受け持った際に、対象者の疾患の特徴の理解や、それに対する看護実践へ取り組みが十分にできるようになることにつながる知識の修得を目指している。

板書、パワーポイント、プリントを使用した教育を行う。

この科目では、生物学、生理学や解剖学の知識が必要となる。

〈実務経験を生かした教育内容〉

国公立病院や大学付属病院における臨床経験を活かした看護実践方法や思考方法を教授する。

到達目標

- 1.全体像の理解 知識 ：主な疾患の特徴、検査・診断、治療法、それらに対する看護の関わりを理解できる。
- 2.態度形成 態度 ：臓器の働きと疾患、疾患とそれに対する看護を考えることなど、それぞれの関連を応用できるようになる。
3. スキル形成 技能：
- 1) 主な消化器疾患の検査・診断・治療について病態と関連させて説明できる。
- 2) 主な歯科疾患・歯周疾患の検査・診断・治療について説明できる。
- 3) 口腔を含む消化器系疾患患者の疾患と看護のつながりを考えることができる。
- 4) 主な耳鼻科疾患、口腔咽頭科疾患の検査・診断・治療について病態と関連させて説明できる。
- 5) 主な小児疾患の検査・診断・治療について病態と関連させて説明できる。
- 6) 小児疾患と看護のつながりを考えることができる。

準備学修

授業前にシラバスで学習項目と到達目標を確認し、教科書の該当する部分に目を通しておく。

事前学習、事後学習を含む合計60時間程度の学習活動を行うこと。

授業で配布するプリントや返却された小テストなどについても予習、復習に活用すること。

成績評価基準

筆記試験100点にて評価する。

課題等に対するフィードバック

課題については、模範解答や模範的な説明をフィードバックする。

教科書・参考書など

教科書

水田祥代・窪田恵子 監修 『看護で教える最新の口腔ケア-授業・演習、臨床・在宅現場でも、すぐに使える！-』 大道学館出版部

中野綾美他 『ナースিং・グラフィカ 小児看護学（1）小児の発達と看護』 メディカ出版

中野綾美他 『ナースিং・グラフィカ 小児看護学（2）小児看護技術』 メディカ出版

中野綾美他 『ナースিং・グラフィカ 小児看護学（3）小児の疾患と看護』 メディカ出版

三原 弘 他（編集）『ナースিং・グラフィカ【EX 疾患と看護】③消化器』 メディカ出版

永井由巳 他（編集）『ナースিং・グラフィカ【EX 疾患と看護】⑥眼／耳鼻咽喉／歯・口腔／皮膚』 メディカ出版

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	山野貴史	ユニット1：耳鼻咽喉科系疾患 1) 耳鼻科、口腔咽喉科系の主な症状や障害の病態・診断・治療を学ぶ 主な症状：難聴、嚥下障害等 2) 小児・成人・高齢者における主な耳鼻科、口腔咽喉科疾患の病態・診断・治療を学ぶ
2	岡田賢司	ユニット2：小児疾患 主な小児疾患、病態、検査と診断、症状と予後、治療 1) 呼吸器疾患（気管支炎、肺炎、喘息、クループ症候群等） 2) 循環器疾患（チアノーゼ性心疾患、非チアノーゼ制心疾患、川崎病、ファロー四徴症等）
3	岡田賢司	ユニット2：小児疾患 主な小児疾患、病態、検査と診断、症状と予後、治療 3) 消化器疾患（口唇口蓋裂、肥厚性幽門狭窄症、ヒルシュスプルング病、肛、腸重積症、胆道閉鎖症、急性胃腸炎等）
4	岡田賢司	ユニット2：小児疾患 主な小児疾患、病態、検査と診断、症状と予後、治療 4) 腎・泌尿器疾患（先天性腎尿路異常、ネフローゼ症候群、腎障害等） 5) 内分泌・代謝性疾患（1型糖尿病、成長ホルモン分泌障害等）
5	岡田賢司	ユニット2：小児疾患 主な小児における疾患や障害の病態、検査と診断、症状と予後、治療について学ぶ 6) 神経・精神疾患（けいれん、発達障害等）
6	岡田賢司	ユニット2：小児疾患 主な小児における疾患や障害の病態、検査と診断、症状と予後、治療について学ぶ 7) 悪性腫瘍
7	森田浩光	ユニット3：主な歯科疾患 1) 歯周疾患について、病態・診断・治療を学ぶ
8	園田英人	ユニット4：消化器疾患 1) 消化器疾患の主な症状や障害の病態・診断・治療を学ぶ 主な症状や障害：悪心・嘔吐、腹痛、腹部膨満、排便障害、イレウス、消化管出血、黄疸、腹水、門脈圧亢進症等
9	飯野英親	ユニット5：疾患と看護とのつながり 小児疾患と看護とのつながりを学ぶ
10	森田浩光	ユニット3：主な歯科疾患 2) 他の主な歯科疾患の病態・診断・治療を学ぶ
11	中司悠	ユニット4：消化器疾患 1) 消化器疾患の主な症状や障害の病態・診断・治療を学ぶ 主な症状や障害：悪心・嘔吐、腹痛、腹部膨満、排便障害、イレウス、消化管出血、黄疸、腹水、門脈圧亢進症等
12	園田英人	ユニット4：消化器疾患 2) 消化器内科系の主な疾患の病態・診断・治療を学ぶ 主な疾患：肝臓・胆嚢・膵臓系、消化管の炎症性疾患、消化管腫瘍
13	園田英人	ユニット4：消化器疾患 2) 消化器内科系の主な疾患の病態・診断・治療を学ぶ 主な疾患：肝臓・胆嚢・膵臓系、消化管の炎症性疾患、消化管腫瘍
14	中司悠	ユニット4：消化器疾患 3) 消化器外科系の主な疾患の病態・診断・治療を学ぶ 主な疾患：腹壁・腹膜・横隔膜疾患、消化管腫瘍、消化管ストーマ
15	内田荘平	ユニット5：疾患と看護とのつながり 口腔を含む消化器系疾患患者の疾患と看護とのつながりを学ぶ

開設年度	2026年度	科目名	病態疾病論Ⅴ			科目コード	DN121460
評価責任者	秋好 久美子 ※各回の担当教員は授業計画にて確認してください					授業回数	15回
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・前期		
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○ -3 科学的根拠に基づく対象者の個別性に応じた最適な生活（well-being）に向けた看護を計画的に実践できる。					

授業の目的とねらい

病態疾病論Ⅴでは、臓器別だけでなく、女性を対象とした妊娠、分娩などに関する経過や特徴と女性特有の疾患、および主な脳神経疾患や精神疾患について学ぶ。

看護実践に生かせるように、各ユニットの終わりには主な疾患と看護とのつながりを学ぶ回を設けており、病気の理解をした後に、それに対してどのような看護を展開していけばよいかがセットで学べる構成になっているのが特徴である。

この科目の受講によって、臨地実習時に患者さんを受け持った際に、対象者の疾患の特徴の理解や、それに対する看護実践へ取り組みが十分にできるようになることにつながる知識の修得を目指している。

板書、パワーポイント、プリントを使用した教育を行う。

この科目では、生物学、生理学や解剖学の知識が必要となる。

〈実務経験を生かした教育内容〉

国公立病院や大学付属病院における臨床経験を活かした看護実践方法や思考方法を教授する。

到達目標

- 1.全体像の理解 知識 ：主な疾患の特徴、検査・診断、治療法、それらに対する看護の関わりを理解できる。
- 2.態度形成 態度 ：臓器の働きと疾患、疾患とそれに対する看護を考えることなど、それぞれの関連を応用できるようになる。
3. スキル形成 技能：
- 1) 妊娠、分娩の経過や胎児・新生児について説明できる。
- 2) 主な女性生殖器疾患の検査・診断・治療について、病態と関連させて説明できる。
- 3) 女性生殖器疾患と看護のつながりを考えることができる。
- 4) 主な脳神経疾患の検査・診断・治療について、病態と関連させて説明できる。
- 5) 脳神経疾患と看護のつながりを考えることができる。
- 6) 主な精神疾患の検査・診断・治療について、病態と関連させて説明できる。
- 7) 精神疾患と看護のつながりを考えることができる。

準備学修

授業前にシラバスで学習項目と到達目標を確認し、教科書の該当する部分に目を通しておく。

事前学習、事後学習を含む合計60時間程度の学習活動をする。

授業で配布するプリントや返却された小テストなどについても予習、復習に活用すること。

成績評価基準

筆記試験100点にて評価する。

課題等に対するフィードバック

課題については、模範解答や模範的な説明をフィードバックする。

教科書・参考書など

教科書

永廣 信治 他（編集） 『ナースিং・グラフィカ【EX 疾患と看護】⑤脳・神経』メディカ出版

苛原 稔 他（編集） 『ナースিং・グラフィカ【EX 疾患と看護】⑨女性生殖器』メディカ出版

小林 康江 他（編集） 『ナースিং・グラフィカ 母性看護学② 母性看護の実践』メディカ出版

出口 禎子 他 （編集） 『ナースিং・グラフィカ【精神看護学】①情緒発達と精神看護の基本』メディカ出版

出口 禎子 他 （編集） 『ナースিং・グラフィカ【精神看護学】②精神障害と看護の実践』メディカ出版

参考書：萱間真美他編「精神看護学 こころ・からだ・かかわりのプラクティス」南江堂 2020

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	京極幸子	ユニット1: 脳神経疾患 1) 主な脳神経内科疾患の病態、検査と診断、症状と予後、治療について学ぶ。 主な疾患: 脳血管障害、神経変性疾患、中枢神経の脱髄疾患、脳炎、髄膜炎、末梢神経・神経筋接合部・筋の疾患、てんかんなど
2	京極幸子	ユニット1: 脳神経疾患 1) 主な脳神経内科疾患の病態、検査と診断、症状と予後、治療について学ぶ。 主な疾患: 脳血管障害、神経変性疾患、中枢神経の脱髄疾患、脳炎、髄膜炎、末梢神経・神経筋接合部・筋の疾患、てんかんなど
3	京極幸子	ユニット1: 脳神経疾患 2) 主な脳神経外科疾患の病態、検査と診断、症状と予後、治療について学ぶ。 主な疾患: 脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍、てんかん・三叉神経痛の外科、頭痛の臨床など
4	京極幸子	ユニット1: 脳神経疾患 2) 主な脳神経外科疾患の病態、検査と診断、症状と予後、治療について学ぶ。 主な疾患: 脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍、てんかん・三叉神経痛の外科、頭痛の臨床など
5	原やよい	ユニット4: 疾患と看護とのつながり 脳神経疾患と看護のつながりを学ぶ。
6	河村英彦	ユニット3: 女性生殖器疾患 主な女性特有の良性疾患の病態・診断・治療を学ぶ。 主な疾患: 子宮筋腫、卵巣嚢腫など
7	柴田舞欧	ユニット2: 精神疾患 主な精神疾患の病態、検査と診断、症状と予後、治療について学ぶ。 主な疾患: 統合失調症、気分障害、産後うつ、神経症性障害、ストレス関連障害、摂食障害、発達障害、パーソナリティ障害、様々な依存症、認知症
8	城戸咲	ユニット3: 女性医学 1) 女性の性周期やライフサイクル各期における健康課題を学ぶ。 2) 妊娠に伴う生理的变化、健康課題を学ぶ。 3) 妊娠経過（正常・異常）を学ぶ。
9	城戸咲	ユニット3: 女性医学 4) 分娩に伴う母体の変化を学ぶ（正常・異常）。 5) 胎内から胎外生活となる新生児の変化を学ぶ。 6) 出生前診断でわかる疾患やその病態について学ぶ。
10	柴田舞欧	ユニット2: 精神疾患 主な精神疾患の病態、検査と診断、症状と予後、治療について学ぶ。 主な疾患: 統合失調症、気分障害、産後うつ、神経症性障害、ストレス関連障害、摂食障害、発達障害、パーソナリティ障害、様々な依存症、認知症
11	浅野間和夫	ユニット3: 女性生殖器疾患 2) 主な女性特有の悪性疾患の病態・診断・治療を学ぶ。 主な疾患: 子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がんなど
12	柴田舞欧	ユニット2: 精神疾患 主な精神疾患の病態、検査と診断、症状と予後、治療について学ぶ。 主な疾患: 統合失調症、気分障害、産後うつ、神経症性障害、ストレス関連障害、摂食障害、発達障害、パーソナリティ障害、様々な依存症、認知症
13	原やよい	ユニット4: 疾患と看護とのつながり 精神疾患と看護のつながりを学ぶ。
14	柴田舞欧	ユニット2: 精神疾患 主な精神疾患の病態、検査と診断、症状と予後、治療について学ぶ。 主な疾患: 統合失調症、気分障害、産後うつ、神経症性障害、ストレス関連障害、摂食障害、発達障害、パーソナリティ障害、様々な依存症、認知症
15	中西真美子	ユニット4: 疾患と看護のつながり 女性生殖器疾患と看護のつながりを学ぶ。

開設年度	2026年度	科目名	ヘルスアセスメント演習			科目コード	DN121630
評価責任者	松尾 和枝 ※各回の担当教員は授業計画にて確認してください					授業回数	15回
授業方法	演習		単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	2年・前期	
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力			○	-1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。			
			○	-2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。			
			○	-3 科学的根拠に基づく対象者の個性に応じた最適な生活（well-being）に向けた看護を計画的に実践できる。			
			○	-4 保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実際について説明できる。			
			○	-5 在宅高齢者の健康支援ニーズに対応するために必要な包括的な支援活動を理解し、看護実践への探究心を示すことができる。			
			○	-6 対象者に応じた口腔の援助技術を修得し、QOL向上に向けた口腔を起点とした全身の健康支援のあり方を探求できる。			
			○	-7 看護専門職として研鑽し続けるために必要な課題探究能力を有し、自己の課題を明確にできる。			

授業の目的とねらい

〈授業のねらい〉本科目は、看護過程展開に必要な対象を理解するための系統的アセスメント能力を修得するものである。具体的には、ヘルスアセスメントで得られたデータを、ゴードンの機能的健康パターンに沿って、対象者の健康状態をアセスメントする能力を養うことを目的とする。この学修は、人体の構造や機能、各疾病論、フィジカルアセスメントなどの既習の知識を統合し活用することが求められる。

〈教育方法・学修方法〉適宜、事例を用いて、ゴードンの機能的健康パターンに沿って解説およびグループワークを行う。事前に個人でシラバスに記載してある項目を確認し、既習知識の復習をしておくことが肝要で、疑問をもって講義に臨むことが大前提である。グループワークでは、疑問点を解決するために積極的に参加をすることが期待される。

〈実務経験を生かした教育内容〉大学附属病院や公立病院等における看護師の実務経験を生かして、看護過程の展開に必要なアセスメントについてゴードンの機能的健康パターンを用いて教授する。

到達目標

- 全体像の理解 知識
 - 看護過程におけるヘルスアセスメントの意義と重要性について説明できる。
 - ゴードンの機能的健康パターンに沿ったフィジカルのアセスメントの視点を説明できる。
 - ゴードンの機能的健康パターンに沿った検査データのアセスメントをする方法を述べることができる。
- スキル形成
 - ゴードンの機能的健康パターンに沿って、フィジカルアセスメントができる。
 - ゴードンの機能的健康パターンに沿って、検査データのアセスメントができる。
- 態度形成 態度
 - 自己のアセスメント力を向上できるように積極的に課題に取り組むことができる。
 - 不明な点は積極的に質問をし、理解に努めることができる。
 - 今後の臨地実習を視野に入れた学習姿勢を習得できる。

準備学修

講義での事例展開の共有と発表にあたり、各アセスメントの個人学習を含め15 時間以上の学習を必要とする。この時間は、既習知識の習得状況によって個人差が著しいことが予想されるため、あくまでも目安として示している。

成績評価基準

筆記試験および、授業態度を含む課題の実施・提出状況（80点）、アセスメントガイド（20点）などを総合100 点で評価する。但し、課題提出率が80%未満の学生は、再試験時、素点から10点を減点する。課題の提出日に遅れた場合は、評価シートに記載の通り減点となる。筆記試験内容や方法については、授業初回に提示する。筆記試験時は、授業資料、自分が作成したアセスメントガイド、ノート、シラバス掲載の教科書・参考書の持ち込みを許可する。授業態度は、積極的な授業参加や発言、グループワークの参加態度など、授業に臨む姿勢が含まれる。課題レポートは、各授業後のmoodleに入力する学びも含む。各単元の教員から評価ポイントを含めた事例の追加・事前課題が提供される。提出期限に遅れた場合には、減点対象とする。また、課題レポート提出日まで質問を受け付ける。

課題等に対するフィードバック

授業の中で事前課題に対しての解説を行う。

教科書・参考書など

＜教科書＞
三上れつ 小松万喜子編『ヘルスアセスメント 臨床実践能力を高める』南江堂
浅野嘉延 著 『アセスメントができるようになる 検査まるわかりガイド』照林社
＜参考書＞
阿部俊子監修 山本則子編『エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図』中央法規
池西静江 小山敦代 西山ゆかり編『アセスメントに使える 疾患と看護の知識』照林社

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	松尾和枝	コースオリエンテーション ユニット1 看護過程とヘルスアセスメント ・ヘルスアセスメントとは ・ヘルスアセスメントの基本技術
2	荒川満枝、松尾和枝、門司真由美、加峯奈々、橋本真弥	ユニット2 検査データとゴードンの機能的健康パターン1 ・一般検査（尿検査，便検査，喀痰検査） ・血液学検査（末梢血血球検査，ヘモグロビン，凝固線溶系検査）
3	荒川満枝、松尾和枝、門司真由美、加峯奈々、橋本真弥	ユニット2 検査データとゴードンの機能的健康パターン2 ・血液生化学検査（電解質，血清タンパク）
4	荒川満枝、松尾和枝、門司真由美、加峯奈々、橋本真弥	ユニット2 検査データとゴードンの機能的健康パターン3 ・血液生化学検査（血清酵素，窒素化合物，ビリルビン）
5	荒川満枝、松尾和枝、門司真由美、加峯奈々、橋本真弥	ユニット2 検査データとゴードンの機能的健康パターン4 ・血液生化学検査（糖質） ・血液生化学検査（脂質：コレステロール，中性脂肪）
6	荒川満枝、松尾和枝、門司真由美、加峯奈々、橋本真弥	ユニット3 フィジカルアセスメントとゴードンの機能的健康パターン1 ・呼吸のフィジカルアセスメント
7	荒川満枝、松尾和枝、門司真由美、加峯奈々、橋本真弥	ユニット3 フィジカルアセスメントとゴードンの機能的健康パターン2 ・循環のフィジカルアセスメント
8	荒川満枝、松尾和枝、門司真由美、加峯奈々、橋本真弥	ユニット2 検査データとゴードンの機能的健康パターン5 ・画像検査（X線検査，CT検査，MRI検査，超音波検査）
9	荒川満枝、松尾和枝、門司真由美、加峯奈々、橋本真弥	ユニット2 検査データとゴードンの機能的健康パターン6 ・生理検査（心電図，呼吸機能検査）
10	荒川満枝、松尾和枝、門司真由美、加峯奈々、橋本真弥	ユニット3 フィジカルアセスメントとゴードンの機能的健康パターン3 ・体温のフィジカルアセスメント ・意識のフィジカルアセスメント
11	荒川満枝、松尾和枝、門司真由美、加峯奈々、橋本真弥	ユニット3 フィジカルアセスメントとゴードンの機能的健康パターン4 ・外皮系のフィジカルアセスメント ・特殊感覚のフィジカルアセスメント
12	荒川満枝、松尾和枝、門司真由美、加峯奈々、橋本真弥	ユニット3 フィジカルアセスメントとゴードンの機能的健康パターン5 ・消化器系のフィジカルアセスメント
13	荒川満枝、松尾和枝、門司真由美、加峯奈々、橋本真弥	ユニット3 フィジカルアセスメントとゴードンの機能的健康パターン6 ・筋・骨格系（運動器系）のフィジカルアセスメント
14	荒川満枝、松尾和枝、門司真由美、加峯奈々、橋本真弥	ユニット2 検査データとゴードンの機能的健康パターン7 ・血液生化学検査（炎症マーカー，腫瘍マーカー）
15	松尾和枝、荒川満枝、門司真由美、加峯奈々、橋本真弥	ユニット4 検査データを活用したアセスメント（事例） ・循環器疾患 ・呼吸器疾患

開設年度	2026年度	科目名	治療援助論演習			科目コード	DN121645
評価責任者	門司 真由美 ※各回の担当教員は授業計画にて確認してください					授業回数	15回
授業方法	演習		単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	2年・前期	
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力			○	-1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。			
			○	-2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。			
			○	-3 科学的根拠に基づく対象者の個性に応じた最適な生活（well-being）に向けた看護を計画的に実践できる。			
			○	-7 看護専門職として研鑽し続けるために必要な課題探究能力を有し、自己の課題を明確にできる。			

授業の目的とねらい

〈授業のねらい〉
2年生の前期にある本科目では、検査や治療を受ける対象者の安全と安楽に配慮した診療援助技術について、基礎的な知識・技術・態度を修得する。検査や治療を受ける対象者が、健康状態から逸脱した何らかの健康上の問題を抱えていることを前提として、対象者の身体的・精神的な状態を理解するとともに、検査や治療の目的、危険性、観察点および援助方法などを、講義を通して学習し、正確性・安全性・安楽性に基づいた診療援助技術を、演習を通して修得する。また、本科目は、1年次の「基礎看護技術論演習」での既習知識・技術を応用した診療援助技術を学ぶため、基本技術の習得は必須である。
〈アクティブ・ラーニングおよびICTを取り入れた教育〉
グループワークによるディスカッションを通じた学習方法を取り入れる。
〈実務経験を生かした教育内容〉
大学附属病院や公立病院等における看護師の実務経験を生かして、対象者の安全と安楽に配慮した診療援助技術について、基礎的な知識・技術・態度を教授する。

到達目標

1. 全体像の理解 知識
 - 1) 検査や治療を受ける対象者の身体的・精神的な状態について述べるができる。
 - 2) 検査や治療の目的、危険性、観察点および援助方法について説明することができる。
 - 3) 検査や治療の内容を理解し、正確性・安全性・安楽性に基づいた援助における留意点について、述べるができる。
2. 態度形成 態度
 - 1) 援助を受ける患者の思いを考え、真摯に学習や技術習得に取り組むことができる。
 - 2) 不明な点は積極的に質問をし、自己学習や自己練習に取り組むことができる。
 - 3) 今後の臨地実習を視野に入れた学習姿勢を習得できる。
3. 技能
 - 1) 治療に伴う診療援助技術について、正確性・安全性・安楽性の視点を踏まえた看護技術を習得できる。
 - 2) 設定された課題および条件に合わせて適切な看護技術を習得できる。

準備学修

講義前にシラバスで学修項目と行動目標を確認し、該当する部分の教科書に目を通し、事前課題に取り組んでおく。また、解剖生理・病態生理等の既習知識から、検査・治療を受ける患者の状況を理解しておくことが望ましい。演習項目については、事前に配布する演習課題を元に動画視聴を行い、要点を整理し、技術の目的・根拠・手順の概要を把握しておく。力学などの物理学の知識を活用し、必要物品に関する構造や取扱上の注意事項を理解しておく。さらに、数学の知識を活用し、単位の意味や換算、計算できるように準備しておく。技術習得については、自己練習を反復し、生命の危険性についても想定し、必要な判断・対応を踏まえた一連の行為ができるように練習する。予習・復習に必要な時間は全体で15時間以上とする

成績評価基準

筆記試験（70点）、授業態度を含む課題の実施・提出状況（30点）などを総合100 点で評価する。但し、課題提出率が80%未満の学生は、再試験時、素点から20点を減点する。
課題レポートは、各授業後のmoodleに入力する学びも含む。課題レポートは、形態機能学に関する事前課題や各単元で学修する演習の演習課題など、演習前の予習や演習後の看護技術の振り返りの記録が主となる。課題レポートの提出期限に遅れた場合は、減点対象とする。
筆記試験は、安全な診療援助技術を行うための知識と、看護師国家試験で出題される診療援助技術に伴う基本的な知識を問う。

課題等に対するフィードバック

課題レポート等は、必要時コメントをつけ、適宜返却する。

教科書・参考書など

<教科書>
深井喜代子 編 『新体系 看護学全書 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ』 メヂカルフレンド社
任和子、井川順子 編 『根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術』 医学書院
浅野嘉延 著 『アセスメントができるようになる 検査まるわかりガイド』 照林社
福岡看護大学『看護過程実習 実習要項』
福岡看護大学『共通編実習要項』
福岡看護大学『看護技術経験録』
<参考書>
竹尾恵子監修 『看護技術プラクティス』 学研
佐藤和良 著 『看護学生のための物理学』 医学書院

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	門司真由美	ユニット1 治療援助論演習を学ぶ姿勢 治療援助論演習の取り組み方について学ぶ。 ユニット2 感染予防技術 -無菌操作
2	門司真由美	ユニット3 診察および検査に伴う技術 検査における看護師の役割と主な検査の目的、援助方法について学ぶ。
3	門司真由美	ユニット3 診察および検査に伴う技術 検査における看護師の役割と主な検査の目的、援助方法について学ぶ。
4	門司真由美、松尾和枝、荒川満枝、橋本真弥、加峯奈々	ユニット2 感染予防技術 -無菌操作 滅菌手袋の装着（演習）
5	加峯奈々	ユニット4 与薬に関する技術 各与薬法について学ぶ。
6	加峯奈々	ユニット5 採血 採血の方法について学ぶ。 検体検査について学ぶ。
7	加峯奈々、松尾和枝、荒川満枝、門司真由美、橋本真弥	ユニット4 与薬に関する技術演習（演習） 滅菌物の取り扱い方法と点滴静脈内注射の滴下調整について学ぶ。
8	加峯奈々、松尾和枝、荒川満枝、門司真由美、橋本真弥	ユニット4 与薬に関する技術演習（演習） 滅菌物の取り扱い方法と点滴静脈内注射の滴下調整について学ぶ。
9	加峯奈々、松尾和枝、荒川満枝、門司真由美、橋本真弥	ユニット4 与薬に関する技術演習（演習） 採血の方法と与薬の方法（筋肉内注射）について学ぶ。
10	加峯奈々、松尾和枝、荒川満枝、門司真由美、橋本真弥	ユニット4 与薬に関する技術演習（演習） 採血の方法と与薬の方法（筋肉内注射）について学ぶ。
11	門司真由美	ユニット6 体温・呼吸・循環調整の技術 体温・呼吸・循環を整える技術について学ぶ。
12	門司真由美	ユニット6 体温・呼吸・循環調整の技術 体温・呼吸・循環を整える技術について学ぶ。
13	門司真由美、松尾和枝、荒川満枝、橋本真弥、加峯奈々	ユニット6 呼吸・循環を整える技術演習（演習） 呼吸・循環を整える技術（酸素療法）について学ぶ。
14	橋本真弥	ユニット7 輸血 輸血の目的と副作用、その対処法について学ぶ。
15	橋本真弥	ユニット8 創傷管理に関する技術 包帯法を含む創傷管理に関する技術について学ぶ。

開設年度	2026年度	科目名	看護過程論			科目コード	DN121650
評価責任者	松尾 和枝 ※各回の担当教員は授業計画にて確認してください					授業回数	15回
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	2年・前期		
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○	-1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。				
		○	-2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。				
		○	-3 科学的根拠に基づく対象者の個性に応じた最適な生活（well-being）に向けた看護を計画的に実践できる。				
		○	-4 保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実際について説明できる。				
		○	-5 在宅高齢者の健康支援ニーズに対応するために必要な包括的な支援活動を理解し、看護実践への探究心を示すことができる。				
		○	-7 看護専門職として研鑽し続けるために必要な課題探究能力を有し、自己の課題を明確にできる。				

授業の目的とねらい

看護を必要とする人々（個・家族・集団）に対して、看護者の看護観を基盤とし、観察力、分析力、判断力を駆使して効果的な看護を実践するための看護のプロセスについて理解する。
〈教育方法・学修方法〉
紙上事例を用いて、情報収集、情報分析・解釈・統合、健康上の問題の明確化および看護計画立案、実施後の効果に対する評価、評価を踏まえたフィードバックに至る一連の思考過程を修得する。
（実務経験を生かした教育内容）
大学附属病院や公立病院等における看護師の実務経験を生かし、対象者を全人的に捉え、最適な生活（well-being）に向けた看護のプロセスについて教授する。さらに、事例を活用し、対象者を生活者として捉え、最適な生活（well-being）を目指し、個別性に応じた看護の方法について指導する。

到達目標

- 1.理解 知識
- 1) 看護過程とは何か、説明できる。
 - 2) 看護過程における、アセスメント・全体像・健康上の問題の明確化およびその優先順位・看護計画の立案・看護の実施・看護の評価と修正について説明できる。
- 2.技能
- 1) 事例患者の看護過程の展開のためにアセスメントガイドや、関連図書の活用方法を修得できる。
 - 2) 事例患者のアセスメント・看護診断（健康上の問題の明確化）・看護計画の立案・看護の実施・看護の評価について、判断した結果を記述できる。
 - 3)看護過程における各段階における判断の根拠について説明できる。
3. 態度
- 1) 事例患者のwell-beingを踏まえた看護の方向性について自身の考えを述べることができる。

準備学修

予習・復習に必要な時間は全体で15時間以上とする。看護過程実習要項に掲載している、心不全の事前学習内容を熟読しておく。

成績評価基準

筆記試験（70点）、授業態度・課題内容（30点）などを総合して評価する。定期試験には、授業中に提示する演習問題の類似問題を
出題するため、十分理解できるように学修しておく。
評価基準についてはレポート提出前に提示する。
課題の提出率が80%未満の場合は、10点の減点とする。

課題等に対するフィードバック

課題レポートなどは、講義前後の予習・復習課題、事例展開課題に関するものが主となる。
提出されたレポートは評価後、各単元教員が定期試験前までに返却する。また、必要時講義の中で解説を行う。

教科書・参考書など

教科書：深井喜代子 編 『新体系 看護学全書 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ 第6版』 メヂカルフレンド社
三上れつ・小松万喜子・小林正弘 編 『ヘルスアセスメント 臨床実践能力を高める』 南江堂
参考図書：阿部俊子監修 山本則子編 『エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図』 中央法規
池西静江 小山敦代 西山ゆかり 編 『アセスメントに使える疾患と看護の知識』 照林社

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	松尾和枝	ユニット1 看護過程概説 ・看護過程とは何か ・看護過程における問題解決思考，リフレクション
2	松尾和枝	ユニット1 看護過程概説 ・看護過程の変遷 ・看護理論との関連
3	松尾和枝	ユニット2 アセスメント1 ・看護情報の収集 ・情報の分類・整理
4	松尾和枝	ユニット2 アセスメント1 ゴードンの11の機能的健康パターンを使ったアセスメントを理解する1 ゴードンの11の機能的健康パターン：健康知覚－健康管理パターンについて
5	橋本真弥	ユニット2 アセスメント2 ゴードンの11の機能的健康パターン：栄養－代謝パターン
6	加峯奈々	ユニット2 アセスメント3 ゴードンの11の機能的健康パターン：排泄パターン
7	荒川満枝	ユニット2 アセスメント4 ゴードンの11の機能的健康パターン：活動－運動パターン
8	橋本真弥	ユニット2 アセスメント5 ゴードンの11の機能的健康パターン：睡眠－休息パターン ゴードンの11の機能的健康パターン：認知－知覚パターン
9	加峯奈々	ユニット2 アセスメント6 ゴードンの11の機能的健康パターン：自己知覚－自己概念パターン ゴードンの11の機能的健康パターン：役割－関係パターン
10	加峯奈々	ユニット2 アセスメント7 ゴードンの11の機能的健康パターン：セクシャリティー生殖パターン ゴードンの11の機能的健康パターン：コーピング－ストレス耐性パターン ゴードンの11の機能的健康パターン：価値－信念パターン
11	松尾和枝	ユニット3 全体像 各パターンのアセスメントの結論から患者の全体像へ
12	加峯奈々	ユニット4 健康上の問題の明確化と優先順位
13	加峯奈々	ユニット5 看護目標の立案と看護計画立案1
14	加峯奈々	ユニット5 看護目標の立案と看護計画立案2
15	松尾和枝	ユニット6 看護の実施と看護計画の評価・修正

開設年度	2026年度	科目名	小児看護学概論			科目コード	DN121655
評価責任者	飯野 英親 ※各回の担当教員は授業計画にて確認してください					授業回数	8回
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	2年・前期		
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○	-1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。				
		○	-2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。				
		○	-3 科学的根拠に基づく対象者の個性に応じた最適な生活（well-being）に向けた看護を計画的に実践できる。				
		○	-4 保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実践について説明できる。				
		○	-6 対象者に応じた口腔の援助技術を修得し、QOL向上に向けた口腔を起点とした全身の健康支援のあり方を探求できる。				

授業の目的とねらい

この科目では、小児看護学概論で学んだ子どもと家族への看護に関する知識が必要となる。その知識を踏まえ、小児看護の専門性と看護機能等について学び、小児の成長発達の特徴と小児保健についての理解を通して、小児および家族への援助内容の概要に関する基礎的知識を修得することを目指す。

小児看護の特徴を理解し、子どもの成長発達についての理解を基本に、子どもの生活環境、感染症、子どもの健康障害が家族に与える影響、手術を受ける子どもと家族の看護、慢性疾患を有する子どもと家族への支援、発達障害児への支援などについて学修する。

本科目の学修成果は、主に筆記試験で確認する。

〈実務経験を生かした教育内容〉

大学附属病院等での小児臨床看護経験をいかし、子どもの療養生活支援と診療助技術に関する知識・技術を、こどもの発達に応じて、臨床で経験した事例を基に教授する。また、家族・親族・学校との対応等、医療者間の連携に関しても実務で経験した事例を基に教授する。

到達目標

1. 全体像の理解 知識
- 1) 子どもの権利条約、社会システムがどのように子どもや家族を保護する対策を講じているかについて説明することができる。
- 2) 小児流行性ウイルス感染症と感染対策について説明することができる。
- 3) 小児各期の身体的・生理的・社会的な成長・発達の特徴について説明することができる。
- 4) 子どもが入院する体験によって、子どもとその家族に及ぼす影響と看護介入について説明することができる。
- 5) 手術を受ける体験によって、子どもとその家族に及ぼす影響と看護介入について説明することができる。
- 6) 慢性疾患を有する子ども、発達に障害のある子どもとその家族に及ぼす影響と必要な看護について説明することができる。
2. 態度形成 態度
- 1) 小児看護を学ぶ積極的な学修態度を養う。
- 2) 講義後は、講義中の指定した教科書の項目や図を中心に、講義内容を復習する。
3. スキル形成 (技能)
- 1) 子ども、家族に関連する統計情報が示す意味を読み取ることができる。
- 2) 小児看護における事例や話題を基に、課題探求力を身につけることができる。

準備学修

小児、家族に関する既習の科目について復習を行っておく。授業前にシラバスの該当する部分の教科書を読んでおく。予習・復習に必要な時間は全体で29時間とする。

成績評価基準

筆記試験（100％）で評価する。授業に対するコメントなど、提出物の期限が守れなかった場合は減点対象とする。

課題等に対するフィードバック

授業に対するコメントは返却し、今後の学習に生かすことができるよう解説を行う。

教科書・参考書など

教科書：
中野綾美他 『ナースিং・グラフィカ 小児看護学（1）小児の発達と看護』メディカ出版
中野綾美他 『ナースিং・グラフィカ 小児看護学（2）小児看護技術』メディカ出版
中野綾美他 『ナースিং・グラフィカ 小児看護学（3）小児の疾患と看護』メディカ出版
参考書：
筒井真優美監修 『パーフェクト臨床実習ガイド小児看護』 照林社
山元恵子監修 『写真でわかる小児看護技術アドバンス』 インターメディア
その他適宜提示する

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	飯野英親	ユニット1 小児看護の特徴と子どもの権利条約 子ども観や小児看護の変遷を知り、小児看護の理念や目的・目標、子どもの権利条約について学ぶ。
2	青野広子	ユニット2 子どもと環境 子育て中の家族を取り巻く社会環境を理解し、社会システムがどのように子どもや家族を保護・支援するための対策を講じているかについて、法的、社会統計的、保健福祉行政的側面から学習する。
3	飯野英親	ユニット3 子どもと感染症 小児流行性ウイルス感染症と学校感染症で問題となりやすい感染症の特徴と感染対策について学ぶ。
4	飯野英親	ユニット4 子どもの成長・発達 小児各期の身体的・生理的・社会的な成長・発達の特徴について学ぶ。
5	青野広子	ユニット5 健康障害が子どもと家族に及ぼす影響と看護（子どもと入院） 子どもが病院へ入院する体験によって、子どもとその家族に及ぼす影響と、その時の看護の役割について学ぶ。
6	飯野英親	ユニット6 健康障害が子どもと家族に及ぼす影響と看護（手術を受ける子どもと家族） 子どもが手術を受ける体験によって、子どもとその家族に及ぼす影響と、その時の看護の役割について学ぶ。
7	青野広子	ユニット7 健康障害が子どもと家族に及ぼす影響と看護（慢性疾患をもつ子どもと家族） 慢性疾患を有する子どもとその家族に及ぼす影響と、看護の役割について学ぶ。
8	飯野英親	ユニット8 健康障害が子どもと家族に及ぼす影響と看護（発達に障害のある子どもと家族） 発達に障害のある子どもとその家族に及ぼす影響と、看護の役割について学ぶ。

開設年度	2026年度	科目名	母性看護学概論			科目コード	DN121675
評価責任者	田出 美紀 ※各回の担当教員は授業計画にて確認してください					授業回数	8回
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	2年・前期		
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○	-1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。				
		○	-2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。				
		○	-3 科学的根拠に基づく対象者の個性に応じた最適な生活（well-being）に向けた看護を計画的に実践できる。				
		○	-4 保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実践について説明できる。				
		○	-7 看護専門職として研鑽し続けるために必要な課題探究能力を有し、自己の課題を明確にできる。				

授業の目的とねらい

母性看護の基盤となる概念を理解するとともに、母性看護の現状と課題を学ぶことで、母性看護における対象の特性を理解する。女性のライフサイクルを通して、セクシュアル・リプロダクティブヘルスに関する健康の保持・増進や、主要な健康問題を理解する。加えて、「母性」を取り巻く環境との関連から母性看護の対象者とその健康問題を理解し、支援の方法について述べるができる。さらに、母性看護の対処を取り巻く社会の変遷と現状について多角的に学び、母性看護とは何かを考察することができることを目的とする。

<実務経験を生かした教育内容>

本科目の担当教員は、母性看護学分野において大学附属病院・国立病院機構・総合病院での助産師としての職務経験、開業助産師として育児支援、行政での母子保健事業経験、中学校等への性教育の経験を有している。母性看護の現状や課題、対象の特性について実務経験を通して得た知見についても教授し、母性看護における多様な対象者の個別性を踏まえた最適な生活（well-being）について考察でき、実践につながるよう支援する。

到達目標

1. 知識
- 1) 母性看護の基盤となる概念について述べるができる。

2) 女性のライフサイクル各期のリプロダクティブの特性と健康問題をふまえ、well-beingに向けた看護を説明できる。

3) 母性の対象やそれを支える関係法規、母性保護や健康支援の現状を通して、母性看護の役割や課題について説明することができる。
2. 態度
- 1) 指定された事前学修を行って授業に臨むことができる。

2) 講義に積極的に参加し、チームディスカッションの内容や自分の意見を発表することができる。
3. 技能
- 1) 資料、文献の内容を読み取り、グループワークによってまとめ、チームメンバーや全体に対してプレゼンテーションができる。

2) プレゼンテーションをもとにチームディスカッションを行うことができる。

3) 講義やディスカッションの内容を通してポートフォリオに整理し、自己学習を深めることができる。

準備学修

2回目以降は該当時間のシラバスを確認し、授業内容に関するニュースや書籍等から新旧問わず知見・情報を得て、現代の母子保健の動向や課題についてエビデンスにもとづいた自分の考えを整理し、授業に臨む反転学習を行う。授業開始時にチーム内でプレゼンテーションし、ディスカッションした内容や自身の課題を整理して学修支援システムMoodleのポートフォリオに各回の期限までに提出する。その他、各時間の内容に沿って学修課題を提示するので学修して臨む。学修内容はポートフォリオに提出する。予習・復習に必要な時間は、全体で29時間とする。

成績評価基準

定期試験60%、準備学修課題15%、課題レポート15%、授業の参加状況10%
授業の参加状況(チームでのディスカッションへの参加態度、発表、リアクションペーパーの提出)、課題レポート提出(事後学修課題)状況からも総合的に評価する。
提出物の提出期限に遅れた場合には減点対象とする。

課題等に対するフィードバック

提出された課題やレポートについては次以降の授業内で全体にコメントし、フィードバックする。

教科書・参考書など

教科書：中込さと子他『ナースングラフィカ 母性看護学①概論・リプロダクティブヘルスと看護 第3版』メディカ出版
参考書：苛原稔他『ナースングラフィカ 疾患と看護⑨ 女性生殖器 第2版』 メディカ出版

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	田出美紀、中西真美子	ガイダンス 母性看護の基盤となる概念と理論(グループディスカッション) 1) 母性看護の中心概念 2) 母性看護実践を支える概念
2	田出美紀、緒方裕美	セクシャル・リプロダクティブヘルス(グループディスカッション) 1) リプロダクティブヘルス/ライツとは 2) セクシュアリティとジェンダー 3) 包括的セクシュアリティ教育 4) プレコンセプションケア
3	田出美紀、中西真美子	統計からみる女性の性と生殖に関する諸問題(グループディスカッション) 1) 人口動態 2) 家族形態 3) 性行動 4) 性感染症
4	中西真美子、田出美紀	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と支援のための法律や施策 1) 母性看護の変遷 2) 母子保健施策からみた現状と課題を解決するための支援 3) 就労と子育ての両立の現状と課題を解決するための支援 4) ダブルケア
5	田出美紀、緒方裕美	性と生殖に関する生理(グループディスカッション) 1) 男女の生殖器の形態と機能、乳房の形態と母乳分泌のメカニズム 2) 性意識の発達と性欲・性反応 3) 性周期（第二次性徴～更年期・老年期）のホルモンの変化と特徴
6	田出美紀	ライフサイクル各期における発達課題と健康問題① 1) 思春期、更年期、老年期(グループディスカッション) 2) 月経異常 3) ホルモン補充療法 4) 性感染症
7	田出美紀	ライフサイクル各期における発達課題と健康問題② 5) 不妊症・不育症 6) 生殖補助医療 7) 出生前診断 8) 不妊治療後の妊産婦の支援(グループディスカッション)
8	田出美紀	特殊なニーズを持つ妊産婦と家族への看護(グループディスカッション) 1) ドメスティックバイオレンス、性暴力 2) 予期せぬ妊娠・流産・死産・人工妊娠中絶 3) 特定妊婦・社会的ハイリスク妊婦と生まれた子 4) 外国人妊産婦の抱える諸問題

開設年度	2026年度	科目名	高齢者看護学概論			科目コード	DN121705
評価責任者	宮園 真美 ※各回の担当教員は授業計画にて確認してください					授業回数	8回
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	2年・前期		
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		☐	-1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。				
		☐	-2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。				
		☐	-3 科学的根拠に基づく対象者の個性に応じた最適な生活（well-being）に向けた看護を計画的に実践できる。				
		☐	-4 保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実際について説明できる。				
		☐	-5 在宅高齢者の健康支援ニーズに対応するために必要な包括的な支援活動を理解し、看護実践への探究心を示すことができる。				
		☐	-6 対象者に応じた口腔の援助技術を修得し、QOL向上に向けた口腔を起点とした全身の健康支援のあり方を探求できる。				

授業の目的とねらい

授業の目的とねらい

この科目では老化を踏まえて対象者を理解する視点を養うとともに、ライフサイクルにおける老年期の特徴、老年期における対象者および家族にとっての最適な生活（well-being）に向けた高齢者看護の役割を理解することを目指しています。高齢者看護に関する基本的な、生理的老化と病的老化の違い、老化と疾患の関連性、主な疾患、症状と看護、高齢者の安全、倫理についても概論的に学修します。

事例や社会背景を基に視聴覚資料を活用しながら講義します。

〈実務経験を生かした教育内容〉

病院等での成人および高齢者を対象とした看護師としての実務経験を生かし、看護の対象となる人びとの理解や看護の役割と機能について具体的な事例をもとに教授する。

到達目標

1．知識

- ① 高齢者看護学が社会的動向の中で求められている背景を説明できる。
- ② 高齢者の生理的老化、病的老化、特徴的な疾患、および看護について説明できる。
- ③ 高齢者を取り巻く家族や社会背景について説明できる。
- ④ 介護保険に関連するサービスについて説明できる。

2．態度

講義に積極的に参加し自分の意見をレポートにまとめ発表できる

3．技能

資料、文献を通して自己学習を深めることができる。

準備学修

学生は、毎回の事前課題を実施し講義に臨むこと。事前学習と復習を含めて学習活動に各回 4 時間程度を費やすこと。また、授業で配布するプリントや返却された小テストなどについても予習、復習に活用すること。

成績評価基準

資料として配布する各回のレスポンスレポート評価を行い、授業態度・課題内容（20点）とする。筆記試験およびレポート（80点）によって総合100点で評価する。

課題の締め切りに遅れた場合は減点対象となる。

課題等に対するフィードバック

事前学習課題、各レポートは、評価したうえで返却する。

教科書・参考書など

（教科書）

堀内ふき 他『ナースিং・グラフィカ 老年看護学<1> 第8版 高齢者の健康と障害』メディカ出版

（参考書）

講義中に提示します

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	宮園真美	ユニット1 高齢者を取り巻く社会背景への理解 超高齢社会の現状と高齢者を支える保健・医療・福祉について
2	宮園真美	ユニット2 高齢者の身体，心理，社会的な特徴の理解 1.加齢による身体的変化と，関連する老年症候群
3	宮園真美	ユニット2 2.加齢による精神的変化と，関連する情緒病理
4	宮園真美	ユニット2 3.加齢による精神的変化， 関連する情緒病理高齢者疑似体験（INTO AGING）， 高齢者の身体的心理的变化
5	宮園真美	ユニット2 4.高齢者疑似体験（INTO AGING），ライフステージとしての老い， 高齢者をとりまく社会
6	宮園真美	ユニット3 高齢者の健康状態を保持・促進し，疾病を予防するための看護支援 1.高齢者看護の特徴およびコミュニケーション 在宅高齢者の例を通して
7	宮園真美	ユニット3 2.高齢者特有の症状，徴候と看護
8	宮園真美	ユニット3 3.高齢者の安全と倫理的課題，死生観，高齢者看護の展望

開設年度	2026年度	科目名	周術期・回復期看護論			科目コード	DN121710
評価責任者	内田 莊平 ※各回の担当教員は授業計画にて確認してください					授業回数	15回
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	2年・前期		
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○	-1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。				
		○	-2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。				
		○	-3 科学的根拠に基づく対象者の個性に応じた最適な生活（well-being）に向けた看護を計画的に実践できる。				
		○	-4 保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実践について説明できる。				
		○	-6 対象者に応じた口腔の援助技術を修得し、QOL向上に向けた口腔を起点とした全身の健康支援のあり方を探求できる。				
		○	-7 看護専門職として研鑽し続けるために必要な課題探究能力を有し、自己の課題を明確にできる。				

授業の目的とねらい

周術期・回復期看護論では、手術を受ける対象者の身体的・心理的・社会的特徴を学び、実践するための基礎的知識を養うことを目的としている。

1年後期に学んだ病態疾病論・成人看護学概論を基盤とし、周術期・回復期における医療・看護を学ぶ。
周術期・回復期看護論は、原疾患、適応術式、麻酔侵襲、手術体位等により対象者の変化が著しいため、周術期の各期イメージ化できるように、疾患別の手術適応事例、必要により動画をを用い術前・術中・術後の各期における医療・看護の特徴について教授する。学生は周術期・回復期看護についてイメージ化しつつ既習の知識を整理し、学習を深めて欲しい。また、この科目では手術事例を使用しながら、グループディスカッション、発表による学習を実施するので、積極的な学習態度が求められる。

〈実務経験を生かした教育内容〉
大学病院や急性期病院においての急性期・クリティカル看護の経験を活かし、疾病や障害とともに生きる対象者および家族の最適な生活（well-being）を目指した看護の実践を指導する。

到達目標

1. 知識
- 1) 周術期・回復期看護の基本概要を理解できる。
 - 2) 周術期・回復期な状態にある対象の特徴を理解できる。
 - 3) 事例を通して、周術期・回復期な状態にある人の看護をアセスメントできる。
 - 4) 周術期・回復期な状態にある人に対する優先順位を踏まえた看護を説明できる。
 - 5) 手術に伴う検査・処置等を受ける人への看護を説明できる。
 - 6) 手術合併症の種類、発症時期、メカニズムについて説明できる。
 - 7) 周術期にある対象の反応を理解し、安全・安楽を守る看護を説明できる。
2. 態度
- 1) 周術期看護・回復期看護について学ぶ力を身につける。
 - 2) 周術期看護・回復期看護への積極的な学修態度を養う。
3. 技術
- 1) 周術期・回復期な状態にある患者の事例に取り組み、看護への課題探求力を身につけることができる。
 - 2) 周術期・回復期における医療の課題について発表することができる。

準備学修

1年後期に学んだ病態疾病論・成人看護学概論、2年前期に学んだ急性期・クリティカル看護論の学習内容を整理しておく。さらに、予習や課題などの学習活動に約60分／週を費やすこと。また、授業で配布するプリントや返却された小テストなどについても予習、復習に活用すること。全体として15時間程度の予習復習時間を要する。
事前学習課題は、福岡学園（福岡看護大学）e-Learningシステム内に提示している「講義資料」を活用する。
<https://moodle.student.fdcnet.ac.jp/course/index.php?categoryid=3>

成績評価基準

筆記試験による期末テスト（90％）、学習態度および課題点（10％）で、総合100点で評価する。

課題等に対するフィードバック

e-Learningシステムを活用した課題レポート等は、評価後に返却し、解説をその都度行う。

教科書・参考書など

- （教科書）
林直子 他 編集『看護学テキスト 成人看護学 急性期看護Ⅰ 概論・周術期看護 改訂第3版』南江堂
武内登美子 編集『講義から実習へ 高齢者と成人の周術期看護（術前編）第4版』医歯薬出版
武内登美子 編集『講義から実習へ 高齢者と成人の周術期看護（術中術後編）第4版』医歯薬出版
（参考書）
武内登美子 著「高齢者と成人の周術期看護（消化器編）第4版」医歯薬出版
武内登美子 編集『高齢者と成人の周術期看護（運動器疾患で手術を受ける患者の看護）第2版』医歯薬出版
三原 弘、他著『ナースিং・グラフィカ 疾患と看護(3)：消化器 第2版』メディカ出版
永井 由巳、他著『ナースিং・グラフィカ 疾患と看護(6)：眼/耳鼻咽喉/歯口腔/皮膚 第2版』メディカ出版
萩野 浩、他著『ナースিং・グラフィカ 疾患と看護(7)：運動器 第2版』メディカ出版

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	内田荘平、秋永和之、吉田あや	ユニット1 周術期看護・回復期看護の概念、特徴 ・急性期医療の構造と急性期看護の特徴と概念 ・救急医療と集中治療および手術医療の現状 ・周術期看護とは（周術期の定義と周術期管理の目的） ・手術侵襲による生体反応とそれに対する生体反応
2	吉田あや、内田荘平、秋永和之	ユニット2 術前の看護 ・手術を受ける対象者の特徴とケアを学ぶ。 ・周手術期に求められる看護師の役割と心理的援助を学ぶ。 ・術前の身体的・心理的・社会的準備について学ぶ。 ・他職種や他部門（周術期管理センター、他）との連携について学ぶ。
3	内田荘平、秋永和之、吉田あや	ユニット3 術中の看護 ・手術室におけるチーム医療の重要性と看護師の役割を学ぶ。 ・手術室の清浄環境と設備を理解し、環境を考慮した看護の要点を学ぶ。 ・清潔域や滅菌物を維持するための留意点を学ぶ。 ・周術期の安全管理を学ぶ。
4	内田荘平、木下惣太、秋永和之、吉田あや	ユニット3 術中の看護 ・麻酔の種類と特徴を学ぶ。 ・術中合併症（麻酔・外科領域・術中体位）における身体への影響を学ぶ。 ・手術中に起こりうる有害事象を把握し、それらを回避するための観察を学ぶ。
5	秋永和之、内田荘平、吉田あや	ユニット4 手術後期の看護（術直後） ・術直後の麻酔および外科的治療による身体の影響を学ぶ。 ・術後の生体情報の各種モニタリングを学ぶ。 ・合併症の早期発見につながるアセスメント方法を学ぶ。 ・術後合併症予防、および、発症時の援助について学ぶ。
6	秋永和之、内田荘平、吉田あや	ユニット4 手術後の看護（離床～回復期） ・術後合併症の主なものについて理解し、その発症の機序を学ぶ。 ・術後合併症予防のため看護の機能と役割について学ぶ。 ・手術侵襲から回復を促す看護を学ぶ。
7	吉田あや、有永麻里、内田荘平、秋永和之	ユニット4 手術後の看護（退院に向けた支援） ・手術を受けた患者に対する退院指導・支援の目的を学ぶ。 ・退院指導・支援の内容を明確にするためのアセスメント方法を学ぶ。 ・退院指導・支援における重要点を学ぶ。
8	内田荘平、秋永和之、吉田あや	ユニット5 摂食機能の再確立（胸部食道垂全摘） ・消化器・内分泌手術を受ける患者の看護（総論） ・食道垂全摘術を受ける患者の事例を通して、摂食機能の再確立が必要な患者の特徴を学ぶ。 ・患者の事例を通して、摂食機能の再確立への看護を学ぶ。
9	内田荘平、吉田あや、秋永和之	ユニット5 摂食機能の再確立（胃全摘出/幽門胃部分切除） ・胃全摘術を受ける患者の事例を通して、摂食機能の再確立が必要な患者の特徴を学ぶ。 ・胃全摘術を受ける患者の事例を通して、摂食機能の再確立への看護を学ぶ。
10	岩本利恵、内田荘平、秋永和之、吉田あや	ユニット6 消化機能の再確立（腹腔鏡下胆嚢摘出/肝臓部分切除） ・胆嚢摘出、肝臓切除術を受ける患者の事例を通して、消化機能の再確立が必要な患者の特徴を学ぶ。 ・腹腔鏡下手術を受ける患者の事例を通して、消化機能の再確立への看護を学ぶ。
11	吉田あや、内田荘平、秋永和之	ユニット6 消化機能の再確立（膵頭十二指腸切除） ・膵頭十二指腸切除を受ける患者の事例を通して、消化機能の再確立が必要な患者の特徴を学ぶ。 ・膵頭十二指腸切除を受ける患者の事例を通して、消化機能の再確立への看護を学ぶ。
12	内田荘平、秋永和之、吉田あや	ユニット7 消化・排泄機能の再確立（大腸切除/直腸切除、直腸切断） ・大腸および直腸切除術を受ける患者の事例を通して、消化・排泄機能の再確立が必要な患者の特徴を学ぶ。 ・事例を通して、消化機能の再確立への看護を学ぶ。
13	秋永和之、内田荘平、吉田あや	ユニット8 運動機能の再確立（THA/TKA） ・人工関節置換術を受ける患者の事例を通して、運動機能の再確立が必要な患者の特徴を学ぶ。 ・事例を通して、運動機能の再確立への看護を学ぶ。
14	秋永和之、吉田あや、内田荘平	ユニット8 運動機能の再確立（脊椎手術） ・脊椎手術を受ける患者の事例を通して、運動機能の再確立が必要な患者の特徴を学ぶ。 ・事例を通して、運動機能の再確立への看護を学ぶ。
15	秋永和之、内田荘平、吉田あや	頭頸部機能の再確立(喉頭全摘/舌/甲状腺/耳下腺摘出) ・喉頭全摘/舌切除/甲状腺摘出/耳下腺摘出術を受ける患者の事例を通して、頭頸部機能の再確立が必要な患者の特徴を学ぶ。 ・事例を通して、頭頸部機能の再確立への看護を学ぶ。

開設年度	2026年度	科目名	慢性期看護論			科目コード	DN121715
評価責任者	岩本 利恵 ※各回の担当教員は授業計画にて確認してください					授業回数	15回
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	2年・前期		
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○	-1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。				
		○	-2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。				
		○	-3 科学的根拠に基づく対象者の個性に応じた最適な生活（well-being）に向けた看護を計画的に実践できる。				
		○	-4 保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実践について説明できる。				
		○	-5 在宅高齢者の健康支援ニーズに対応するために必要な包括的な支援活動を理解し、看護実践への探究心を示すことができる。				
		○	-6 対象者に応じた口腔の援助技術を修得し、QOL向上に向けた口腔を起点とした全身の健康支援のあり方を探求できる。				
		○	-7 看護専門職として研鑽し続けるために必要な課題探究能力を有し、自己の課題を明確にできる。				

授業の目的とねらい

1 年生で学習した、成人看護学概論をもとに、成人看護学慢性期における看護を学修する。成人期は心身ともに成熟し、自立および自律した生活ができ安定した時期である。それと同時に、社会や家庭内での責任も重く、大きな役割を果たしている。一方で加齢に伴う身体的変化、発達課題、生活習慣の影響、個人を取り巻く家族、社会、地域などの生活環境などにより健康問題も生じやすい。成人期の健康障害が本人、家族に与える影響は大きい。また成人期にある人は、自ら学ぶ力をもっている。これらの成人期の特徴も踏まえ、健康障害の慢性期にある成人期の対象者を全人的(身体的・社会的・心理的・スピリチュアル)な側面から総合的に理解し、対象者および家族に応じた看護を学習する。慢性期におけるセルフケア、セルフマネジメントを踏まえた患者教育、患者および家族が病気をもちながらも自分らしく(well-being)生きることの支援をできるように学ぶ。

この科目は、毎回の事前学習を実施する。またポートフォリオを活用し、毎回の講義での目標と今後の課題を明確にし、今後の課題に対して自己学習の成果をまとめる。

〈実務経験を生かした教育内容〉

公立病院や大学付属病院においての成人慢性期・終末期看護の経験を活かし、疾病や障害とともに生きる対象者および家族の最適な生活(well-being)を目指した看護の実践を指導する。セルフマネジメント、セルフケアの自立のため患者教育、指導についても教育する。

〈アクティブラーニング〉グループワーク、ディスカッションなど

到達目標

- 1.全体像の理解 知識
- 1) 慢性疾患、慢性期、慢性疾患をもつ対象者の特徴を説明できる。
 - 2) 慢性疾患をもつ対象者を理解するうえで必要な概念や定義について説明できる。
 - 3) 慢性疾患をもつ対象者の薬物療法とその副作用について説明できる・
 - 4) 慢性疾患をもつ対象者の急性増悪の誘因を理解し、予防的な支援方法を説明できる。
 - 5) 慢性疾患をもつ対象者および家族に必要なセルフマネジメントを説明できる。
 - 6) 慢性疾患の心身への影響や自己管理についてのアセスメントを説明できる。
- 2.態度形成 態度
- 1) グループディスカッションに積極的に参加し、グループメンバーとコミュニケーションをとり、協働できる。
 - 2) 自らが学べるように積極的に学習する。
3. 技術
- 1) 慢性疾患をもつ対象者および家族への教育的関りに必要な資料を作成できる。
 - 2) 慢性疾患をもつ対象者を支援する社会資源と活用する方法について調べることができる。
 - 3) 自己学習の積み重ねを工夫して、ポートフォリオを作成、自己の課題について資料、文献を検索し、調べることができる。

準備学修

毎回、事例を活用した事前レポート課題を課すため、事前学習をして講義、グループディスカッションに週に約1時間を費やすこと。また講義で実施した小テスト、配布資料はポートフォリオとして整理すること。

成績評価基準

筆記試験80点、レポート課題(小テスト、事前学習課題)20点にて評価する。小テストは毎回10点満点として評価する。毎回の事前学習課題は、A～Eの5段階で評価する。全ての小テスト、事前学習の点数を20点満点として換算する。これらの合計で評価する。

課題等に対するフィードバック

事前学習、事後課題、小テスト、小テストのやり直し、ポートフォリオファイルなど、提出物のすべては評価後に返却し、正答の掲示および解説を行う。

教科書・参考書など

(教科書)

鈴木久美 他 編『成人看護学 慢性期看護』 南江堂出版

安酸史子 他 編『成人看護学 (1) 成人看護学概論』 ナーシング・グラフィカ メディカ出版

讃井将満 他 編『疾患と看護 (1) 呼吸器』 ナーシング・グラフィカEX メディカ出版

野原隆司 他 編『疾患と看護 (2) 循環器』 ナーシング・グラフィカEX メディカ出版

三原 弘 他 編『疾患と看護 (3) 消化器』 ナーシング・グラフィカEX メディカ出版

薊隆文 他 編『疾患と看護 (4) 血液/アレルギー/膠原病/感染症』 ナーシング・グラフィカEX メディカ出版

永廣信治 他 編『疾患と看護 (5) 脳・神経』 ナーシング・グラフィカEX メディカ出版

(参考書) 河口てる子 編『慢性看護の患者教育』 MCメディカ出版

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	岩本利恵	ユニット1・成人慢性期の理論と概念 1) 慢性疾患のライフスタイルへの影響について学ぶ。 2) 慢性期にある人々への看護のあり方、生活者としての捉え方について学ぶ。 3) 慢性疾患を有する人が喪失しやすいものについて学ぶ。 4) 慢性期看護の特徴のセルフマネジメントに必要な概念・理論について学ぶ。
2	岩本利恵	ユニット2・がんサバイバーに対する看護 1) がんの動向、がんサバイバーシップの概念について学ぶ。 2) がんサバイバーにおける全人的苦痛、病期に応じた特徴、意思決定、社会支援について学ぶ。
3	岩本利恵	ユニット3・セルフマネジメントを必要とする対象者および家族の支援 1) 慢性心不全の動向・慢性心不全における看護の動向について学ぶ。 2) 慢性心不全のアセスメント、治療・検査に対する看護とアセスメント、心機能の分類および評価指標、セルフマネジメントを促す患者教育について学ぶ。 3) 慢性心不全患者の家族への支援を学ぶ。
4	秋永和之	ユニット3・セルフマネジメントを必要とする対象者および家族の支援 1) 慢性呼吸不全の動向について学ぶ。 2) 慢性呼吸不全のアセスメント、治療・検査に対する看護とアセスメント、換気障害 分類および評価指標について学ぶ。 3) 慢性呼吸不全をもつ対象者のセルフケアを促す患者教育、家族支援を学ぶ。
5	有永麻里	ユニット3・セルフマネジメントを必要とする対象者および家族の支援 1) 糖尿病の動向、糖尿病をもつ対象者のアセスメント、治療、検査に対する看護とアセスメント、糖尿病の分類について学ぶ。 2) 糖尿病をもつ対象者の食事療法、運動療法、薬物療法に対するセルフケアを促す患者教育、社会資源の活用について学ぶ。
6	岩本利恵	ユニット3・セルフマネジメントを必要とする対象者および家族の支援 1) 肝不全の動向、肝不全をもつ対象者のアセスメント、治療・検査に対する看護とアセスメント、肝予備機能スコア、肝不全の分類について学ぶ。 2) 肝性脳症、腹水、門脈圧亢進症状のある対象者への症状コントロールに対する看護について学ぶ。
7	有永麻里	ユニット4・慢性疾患をもちながら自分らしく生きる支援 1) 甲状腺機能障害をもつ対象者のアセスメント、治療、検査に対する看護について学ぶ。 2) 甲状腺機能障害をもつ対象者の疾患や症状への不安、QOLの低下に対する看護についてグループディスカッションを通して学ぶ。
8	岩本利恵	ユニット5・慢性疾患における専門職の連携が必要な対象者および家族の支援 1) 神経難病の動向、筋萎縮性側索硬化症（ALS）をもつ対象者および家族の身体的、心理・社会的特徴と看護について学ぶ。 2) 神経難病をもつ対象者の話を聞き、意思決定、障害（疾病）の受容、自分らしいwell beingな生活について学ぶ。
9	有永麻里	ユニット4・慢性疾患をもちながら自分らしく生きる支援 1) 膠原病の動向、全身性エリテマトーデスをもつ対象者のアセスメント、治療、検査に対するアセスメントと看護について学ぶ。 2) ボディイメージの変化（蝶形紅斑、脱毛、皮疹、関節変形など）に対する看護についてグループディスカッションを通して学ぶ。
10	木下惣太	ユニット3・セルフマネジメントを必要とする対象者および家族の支援 1) 慢性腎臓病の動向、慢性腎臓病をもつ対象者のアセスメント、治療、検査に対する看護とアセスメント、慢性腎臓病の診断基準と分類について学ぶ。 2) 慢性腎臓病をもつ対象者の病期に応じたセルフケアを促す患者教育、社会資源の活用について学ぶ。
11	木下惣太	ユニット3・セルフマネジメントを必要とする対象者および家族の支援 1) 膵臓、胆のう疾患の動向、慢性膵炎をもつ対象者の治療、検査に対する看護とアセスメントについて理解できる。 2) 胆のう疾患のある対象者への治療、検査に対する看護とアセスメントについて理解できる。症状コントロールに対する看護について理解できる。
12	岩本利恵	ユニット5・慢性疾患における専門職の連携が必要な対象者および家族の支援 1) 炎症性腸疾患の動向、炎症性腸疾患を持つ対象者のアセスメント、治療、検査に対する看護とアセスメント、炎症性腸疾患の分類について学ぶ。 2) 炎症性腸疾患をもつ対象者のセルフケアを促す患者教育、社会資源の活用について学ぶ。
13	吉田あや	ユニット5・慢性疾患における専門職の連携が必要な対象者および家族の支援 1) 免疫の仕組みと免疫不全について理解できる。 2) 日和見感染症とその対策について理解できる。 3) 患者、家族への感染予防指導を理解できる。
14	内田荘平	ユニット4・慢性疾患をもちながら自分らしく生きる支援 1) 胃・十二指腸潰瘍の動向、胃・十二指腸潰瘍をもつ対象者のアセスメント、治療・検査に対する看護とアセスメント、分類および評価指標について学ぶ。 2) 吐血・下血時のアセスメントと看護について学ぶ。 3) 胃・十二指腸潰瘍をもつ対象者の社会復帰を促す患者教育について学ぶ。
15	岩本利恵	ユニット5・慢性疾患における専門職の連携が必要な対象者および家族の支援 1) 高次機能障害をもつ対象者のアセスメント、治療、検査に対する看護について学ぶ。 2) 高次機能障害、失語症、摂食嚥下障害、運動障害のある対象者および家族に対する多職種連携、社会資源の活用を含む看護について学ぶ。

《専門分野 精神看護学》

開設年度	2026年度	科目名	精神看護学概論			科目コード	DN121765
評価責任者	原 やよい ※各回の担当教員は授業計画にて確認してください					授業回数	8回
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	2年・前期		
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○ -1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。 ○ -2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。 ○ -3 科学的根拠に基づく対象者の個性に応じた最適な生活（well-being）に向けた看護を計画的に実践できる。 ○ -4 保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実践について説明できる。 ○ -7 看護専門職として研鑽し続けるために必要な課題探究能力を有し、自己の課題を明確にできる。					

授業の目的とねらい

精神の健康について学び、精神看護の役割を理解することを目的とする。脳の仕組みと精神機能、心理学的見地から考える精神的健康、精神の構造や働き、心の発達、精神に影響を与える環境要因について学び、精神の健康を保持・増進・回復する精神看護の役割を理解する。精神保健医療福祉の歴史の変遷を学び、現代社会に求められる精神看護について学習する。精神障害者に対する偏見、身体と精神の関連を学び、ライフサイクルを通して全ての人々の最適な生活（well-being）を目指す精神看護の役割について理解する。

〈実務経験を生かした教育内容〉
教員が持つ精神科病院や精神科デイケアにおける精神看護の実務経験を活かし、さまざまな精神の健康レベルにある対象者の最適な生活（well-being）に向け、精神的健康を保持・増進・回復する看護を教授する。さらに、実務経験を基に、他職種と協調・協働した医療を提供する方法、入院から地域まで継続した看護について教授していく。

到達目標

1. 全体像の理解 知識
- 1) 精神の健康について、概念を説明できる。
- 2) 精神の健康に影響を及ぼす要因を説明できる。
- 3) 現代社会の精神的健康問題について説明できる。
- 4) 精神看護の役割について説明できる。
2. 態度形成 態度
- 1) 精神看護を提供するために必要な倫理観を養う。
- 2) 精神障害者に対して、医療者の立場で対応できる態度を養う。
3. 技能
- 1) 精神看護を実践するためのコミュニケーションを図ることができる。
- 2) 精神看護に対する考え方について、レポートにまとめることができる。

準備学修

授業前にシラバスで該当する部分の教科書に目を通しておく。予習・復習に必要な時間は全体で29時間とする。準備学習に必要な時間は、全体で29時間である。

成績評価基準

筆記試験（70点）、演習への取り組み・精神看護に対する考え方についての課題レポート（30点）など総合して評価する。課題レポートなどは、講義前後の予習・復習課題を提示する。提出物の提出期限に遅れた場合には減点対象とする。

課題等に対するフィードバック

課題レポート等は、評価後に返却し、正答および解説を行う。

教科書・参考書など

（教科書）
出口禎子 他（著）『ナースング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本』メディカ出版
白石弘巳 他（著）『ナースング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践』メディカ出版
（参考書）
萱間真美 他（著）『精神看護学 こころ・からだ・かかわりのプラクティス』南江堂
宇佐美しおり・鈴木啓子（著）『オレムのセルフケアモデル―事例を用いた看護過程の展開―』ヌーヴェルヒロカワ
長谷川浩・藤枝知子（訳）『トラベルビー 人間対人間の看護』医学書院
稲田八重子・小林富美栄 他（訳）『ペプロウ 人間関係の看護論』医学書院

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	原やよい	ユニット1 精神の健康（グループワークでの学習を行う） 1) 精神的健康の定義について学ぶ。 2) 精神看護の対象が、すべてのライフサイクルや健康の段階にある人々であることを学ぶ。
2	原やよい	3) 心理的見地および脳の仕組みから考えて精神的健康を学ぶ。 4) 精神看護で活用する主な理論について学ぶ。
3	原やよい	ユニット2 精神の健康に影響を及ぼす要因 1) 発達にともなう精神の健康危機について学ぶ。 2) 精神的健康に影響する生活上の要因について学ぶ。 3) ストレスとストレスコーピングの概念について学ぶ。
4	原やよい	ユニット3 現代社会の精神的健康問題（ディスカッション） 1) 精神保健医療福祉の歴史的変遷から、現代社会の精神的健康支援の概要を学ぶ。 2) 現代社会が求めている精神看護の概要を学ぶ。
5	原やよい	ユニット4 精神看護の役割 1) 精神の健康を支える主な法制度について学ぶ。 (1) 精神の健康を支える主な法律について学ぶ。 (2) 法律で定められた主な社会資源について学ぶ。
6	原やよい	2) 精神疾患患者の権利擁護について学ぶ。
7	原やよい	3) 家族への支援について学ぶ。 (1) 現代社会における家族の課題 (2) 精神疾患患者と家族との関係
8	原やよい	4) 精神看護の役割を果たすことで得られる効果について学ぶ。 (1) 精神看護の役割について学ぶ。 (2) 精神的な健康問題を持つ事例を通し、精神看護の役割を果たすことで生じる社会生活面の効果を学ぶ（グループワークでの学習を行う）。

開設年度	2026年度	科目名	地域在宅看護概論			科目コード	DN121790
評価責任者	宮園 真美 ※各回の担当教員は授業計画にて確認してください					授業回数	15回
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・前期		
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		☐	-1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。				
		☐	-2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。				
		☐	-3 科学的根拠に基づく対象者の個性に応じた最適な生活（well-being）に向けた看護を計画的に実践できる。				
		☐	-4 保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実際について説明できる。				
		☐	-5 在宅高齢者の健康支援ニーズに対応するために必要な包括的な支援活動を理解し、看護実践への探究心を示すことができる。				
		☐	-6 対象者に応じた口腔の援助技術を修得し、QOL向上に向けた口腔を起点とした全身の健康支援のあり方を探求できる。				

授業の目的とねらい

2年生の前期にあるこの科目では、地域、在宅で生活する様々な発達段階、健康レベルにある人々とその家族が生活の質を高めるために必要な在宅看護の概念と対象、活動、役割の特徴について理解することを目指しています。また、在宅看護に関する社会保障制度、在宅ケアシステム、関連機関との連携と地域包括ケアシステムの考え方を理解できるように学修します。在宅で生活する対象の健康保持増進のための在宅医療・看護支援のあり方を総合的に理解し、これからの地域在宅看護について自分の考えを持てるように授業します。

〈実務経験を生かした教育内容〉
病院における高齢者看護や訪問看護経験を活かし、地域療養する対象者および家族の最適な生活（well-being）を目指した看護実践を指導します。

到達目標

- 1．知識
① 地域・在宅看護学が社会的動向の中で求められている背景を説明できる。
②地域・在宅看護学の対象となる、母子、高齢者、精神障がい者等を含む療養者および家族の健康、生活、環境について説明できる。
③地域・在宅看護の場による看護支援の役割と特徴について説明できる。
④ 介護保険に関連する施設サービス、在宅サービス、地域密着型サービスの提供機関とその特性について概要を説明できる。
⑤ 人々が働く産業の場、児童・生徒が学ぶ学校の場合、国や地方自治体等、行政機関における看護職の役割について公衆衛生看護と関連させて概要を説明できる。
- 2．態度
講義に積極的に参加し自分の意見をレポートにまとめ発表できる
- 3．技能
資料、文献を通して自己学習を深めることができる。

準備学修

毎回の事前課題を実施し講義に臨むこと。事前学習と復習を含めて学習活動に各回4時間程度を費やすこと。また、授業で配布するプリントや返却された小テストなどについても予習、復習に活用すること。

成績評価基準

資料として配布するループリック評価シートにもとづき、各回のレスポンスレポート評価を行い、授業態度・課題内容（20点）とする。筆記試験およびレポート（80点）によって総合100点で評価する。
課題の締め切りに遅れた場合は減点対象となる。

課題等に対するフィードバック

事前学習課題、各レポートは、評価したうえで返却する。

教科書・参考書など

（教科書）
石垣和子 他『看護学テキストNice 地域・在宅看護論Ⅰ 改訂第3版 総論』南江堂

（参考書）
厚生労働統計協会『厚生指針 国民衛生の動向』厚生労働統計協会
河野あゆみ『新体系看護学全書 地域・在宅看護論 地域・在宅看護論』メジカルフレンド

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	宮園真美	地域・在宅看護を取り巻く社会の変化 1) 現在のわが国の少子超高齢社会 2) 医療施策の動向と介護保険の見直し 3) 在宅看護事業拡大の必要性 4) 多様化する在宅看護の目的
2	山中富	地域・在宅看護の場による看護支援の役割と特徴 1) 施設と在宅の移行看護，継続看護の意義と現状について 2) 調整技術，実践援助技術，相談技術，教育支援技術について 3) 在宅におけるケースマネジメントについて ・在宅高齢者看護 ・在宅における看取り
3	宮園真美	地域・在宅看護学の対象となる対象の健康，生活，環境 1) 対象の特徴（年齢，生活，介護状況など）と看護について概要 2) 個人の生き方，（家族，社会）について 3) 我が国の医療と福祉の中で対象が置かれている状況について 4) 在宅看護の担い手の特徴（老々介護や少子化）について
4	宮園真美	地域・在宅看護学におけるケアシステム，法制度・社会資源 1) 介護保険のサービスの概要について 2) コミュニティの概念を知り，地域に密着した各サービスについて
5	飯野英親	地域・在宅看護学の対象となる療養者および家族の看護 ・対象が小児の場合の，対象および家族の特徴について
6	飯野英親	地域・在宅看護学の対象となる療養者および家族の看護 ・対象が小児の場合の，対象および家族の特徴について
7	宮園真美	地域・在宅看護の展開におけるケアマネジメントと家族を含む多職種チーム連携 1) 対象と介護者に対するチームアプローチについて 2) 実際に行われているケアマネジメントの方法 3) 多職種連携の重要性とそれぞれの職種
8	原やよい	地域・在宅看護学の対象となる療養者および家族の看護 ・対象が精神障害者の場合，対象および家族の特徴について
9	原やよい	地域・在宅看護学の対象となる療養者および家族の看護 ・対象が精神障害者の場合，対象および家族の特徴について
10	宮園真美	地域・在宅看護の展開における基本的人間関係 1) 専門職としての対象との人間関係について 2) 専門職としての家族へのアプローチについて 3) コミュニケーション技術，在宅訪問技術，倫理的配慮について
11	宮園真美	地域・在宅看護の展開における基本技術 1) 在宅看護における基本技術と臨床における技術との違い 2) 看護展開と看護師が実践する医療行為，看護援助について ・呼吸管理・栄養管理・注射・検査 ・安全・薬物の取り扱い 3) 難病，ターミナル期，障がい者，認知症などの対象への看護
12	宮園真美	地域・在宅看護の展開における基本技術 1) 日常生活援助技術の中における口腔ケア技術 2) 地域における口腔健康について変遷と現状について
13	田出美紀、緒方裕美	地域・在宅看護学の対象となる療養者および家族の看護 ・母性領域における，対象および家族への看護について 1) 地域で支える周産期について、母子手帳を基に考察できる 2) 地域包括子育て支援に基づく産後ケア事業について 3) 命の大切さについて
14	田出美紀、緒方裕美	地域・在宅看護学の対象となる療養者および家族の看護 ・母性領域における，対象および家族への看護について 1) 地域で支える周産期について、母子手帳を基に考察できる 2) 地域包括子育て支援に基づく産後ケア事業について 3) 命の大切さについて
15	宮園真美	在宅看護における今後の課題 ・現在の我が国における地域在宅看護の現状と課題について

開設年度	2026年度	科目名	看護倫理			科目コード	DN121850
評価責任者	山下 久恵 ※各回の担当教員は授業計画にて確認してください					授業回数	8回
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期		2年・前期	
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○	-1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。				
		○	-2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。				
		○	-3 科学的根拠に基づく対象者の個性に応じた最適な生活（well-being）に向けた看護を計画的に実践できる。				
		○	-4 保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実践について説明できる。				
		○	-7 看護専門職として研鑽し続けるために必要な課題探究能力を有し、自己の課題を明確にできる。				

授業の目的とねらい

〈授業のねらい〉

2年生の前期にあるこの科目では、看護基礎教育の導入として、看護専門職の役割・機能を理解することで、看護学を学ぶ動機づけとなることを目的とする。看護の成立過程とその意義を学び、看護とは何かを考え、看護学の基盤となる「人間」、「環境」、「健康」、「看護」の概念を理論的に理解し、保健・医療・福祉分野における看護専門職として、人々の健康に資することにより最適な生活（well-being）を支援する役割について学習する。

〈実務経験を生かした教育内容〉

大学附属病院・公立病院での成人・高齢者・小児の急性期・回復期病棟および精神科病棟での看護実践、看護管理者としての経験をいかし、臨床現場で遭遇する倫理的問題について事例をあげ、倫理的問題に対する分析およびアプローチを考える教育内容とする。

到達目標

1.全体像の理解 知識

- 1) 基本的人権擁護に必要な倫理学の基礎知識について説明できる。
- 2) 生命倫理の原則・規則について説明できる。
- 3) 看護場面における倫理的問題の分析方法について説明できる。
- 4) 出生前診断・遺伝医療の倫理的問題について説明できる。
- 5) 精神科看護領域における倫理的問題について説明できる。

2.態度形成

- 1) 看護専門職として、個人の権利を尊重し、倫理的態度を身につけることができる。
- 2) 看護専門職としての倫理観を育むことができる。

3.技能

- 1) さまざまな看護場面における倫理的問題について分析することができる。
- 2) 倫理的問題に関する自分の意見を述べ、他者との討議において自己の考えを発展させることができる。

準備学修

講義前にシラバスで学習項目を確認し、該当する部分の教科書に目を通し、事前課題に取り組んでおく。また、新聞や雑誌・インターネット等を活用し、看護や看護職、看護の対象、国際看護等、学習課題に関する資料を入手し、学習内容の理解に活用する。基礎看護学実習での経験をいかし、テキストにさまざまな看護の対象と看護の役割と機能について理解を深める。予習・復習に必要な時間は、全体で29時間である。

成績評価基準

授業態度・課題レポート（20点）および試験（80点）で評価を行う。課題の締め切りに遅れた場合は、減点されるので、締め切り日に注意する。授業態度には、授業に臨む姿勢、プレゼンテーション、グループ討議などのディスカッションが含まれる。

課題等に対するフィードバック

課題レポートなどは、講義前後の予習・復習課題を提示する。提出されたレポートや発表に対するフィードバックは、コメント等、授業の中で行う。

教科書・参考書など

教科書：小西恵美子著 『看護倫理ーよい看護・よい看護師への道しるべ』 南江堂

参考書：WEB 資料：『看護者の倫理綱領（日本看護協会）』

松葉祥一他 著 『系統看護学講座 別冊 看護倫理』 医学書院

松木光子編 『看護倫理学ー看護実践における倫理的基盤ー』 ヌーベルヒロカワ

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	山下久恵	ユニット 1 倫理学の基本的考え方 基本的人権擁護に必要な倫理学の基礎知識を理解する。
2	山下久恵	ユニット 1 倫理学の基本的考え方 基本的人権擁護に必要な倫理学の基礎知識を理解する。
3	山下久恵	ユニット 2 生命倫理 生命倫理の原則・規則について理解する。
4	山下久恵	ユニット 3 看護倫理 看護場面における倫理的問題の分析方法を理解する。 グループワークを行って、さまざまな意見を踏まえながら、分析方法について学ぶ。
5	飯野英親	ユニット 4 出生前診断、遺伝医療の倫理的問題 1) 出生前診断の倫理的問題について理解する。 2) 伝医療の倫理的問題について理解する。
6	飯野英親	ユニット 4 出生前診断、遺伝医療の倫理的問題 1) 出生前診断の倫理的問題について理解する。 2) 伝医療の倫理的問題について理解する。
7	原やよい	ユニット5 精神科看護領域における倫理的問題 精神科看護領域における倫理的問題について理解する。
8	原やよい	ユニット5 精神科看護領域における倫理的問題 精神科看護領域における倫理的問題について理解する。

開設年度	2026年度	科目名	人間の行動心理			科目コード	DN121215
評価責任者	石田 有紀 ※各回の担当教員は授業計画にて確認してください					授業回数	8回
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	2年・後期		
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○ -1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。					
		○ -2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。					
		○ -3 科学的根拠に基づく対象者の個性に応じた最適な生活（well-being）に向けた看護を計画的に実践できる。					

授業の目的とねらい

保健医療等における看護は、患者や家族に加え、他の専門職を含めた多様な価値観を持つ者の行動やその背景となる心理的側面を理解することが重要である。そのためには、自分自身を含めた人間に関する行動を捉えることや、心理的側面を考察することが不可欠である。

そこで本科目では、人間の行動心理について、基礎心理学から臨床心理学まで幅広い視点から学ぶこと、ワークを通して、行動の背景となる心理面の基礎を学ぶことを目的とする。

<アクティブ・ラーニングおよびICTを取り入れた教育>

ペアワークやグループワークを通して、自己理解や他者理解について体験的に学ぶ機会を設ける。

到達目標

（知識）
人間の行動心理について、概要を説明することができる。
架空事例に対して、行動の背景について心理学的な観点から説明することができる。

（知識・技能）
架空事例に対して、具体的な看護方略について調べ、説明することができる。

（態度）
自分自身の行動心理について、ワークに参加することができる

準備学修

配布資料を基に、予習・復習を行う。毎回、予習（90分）、復習（90分）を充てる。これに加え、別途自己学修を300分を充てる。全体で29時間とする。

成績評価基準

授業内ミニテスト（20%）、課題レポート（40%）、グループワークの成果物（40%）で評価を行う。

課題等に対するフィードバック

課題レポートなどは、評価後に解説する。

教科書・参考書など

参考書：長田久雄 著 『看護学生のための心理学』 医学書院

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	石田有紀	ユニット1：人間の心理の基礎 感覚・知覚の心理
2	石田有紀	ユニット1：人間の心理の基礎 学習・記憶の心理
3	石田有紀	ユニット1：人間の心理の基礎 感情・動機の心理
4	石田有紀	ユニット1：人間の心理の基礎 性格・知能の心理
5	石田有紀	ユニット1：人間の心理の基礎 発達心理
6	石田有紀	ユニット2：臨床心理学の基礎 心理アセスメント①
7	石田有紀	ユニット2：臨床心理学の基礎 心理アセスメント②
8	石田有紀	ユニット2：臨床心理学の基礎 心理アセスメント③とまとめ

《専門基礎分野 健康支援と社会保障制度》

開設年度	2026年度	科目名	保健医療福祉行政論			科目コード	DN121510
評価責任者	晴佐久 悟 ※各回の担当教員は授業計画にて確認してください					授業回数	15回
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・後期		
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○ -4 保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実際について説明できる。					

授業の目的とねらい

看護専門職の多様な活動の場、保健医療福祉行政が目指すもの、歴史について学び、国、都道府県、市町村の 行政の仕組み、社会保障制度の仕組みおよびそれらの関連性について理解する。
 地域保健行政と保健活動における地域 保健の体系、健康危機管理と医療安全対策、保健活動における情報管理の重要性について学ぶとともに、保健計画の推進と評価をする調整方法について理解する。
 本科目の担当教員は、歯科医師であり、口腔に関する公衆衛生について、大学病院および地域における保健活動の実務経験、衛生行政を歯学生に対して講義をした経験を生かして社会保障を教授する。また、保健師であり、看護公衆衛生について講義、地域における保健活動の実務経験を生かして、社会福祉、介護保険を教授する。
 この科目では、教科書、配布資料、板書、コンピュータプロジェクションを用いての講義を行う。

到達目標

- 全体像の理解 知識
 - 社会保障制度と社会福祉及び医療保障、所得補償について述べることができる。
 - 公的扶助および介護保障、社会福祉サービスについて述べることができる。
- 態度形成 態度
 - 看護専門職の多様な活動の場、保健医療福祉行政への興味関心を持ち積極的に学習することができる。
- スキル形成
 - 学びを他者へ分かり易く説明することができる。

準備学修

講義前にシラバスの学習項目ならびに行動目標を理解した上で、教科書の指定された項目（予習の項目）に目を通しておくこと。学生は課せられる課題や、その他学習活動に60時間を費やすこと。
 講義後は、教科書の図表を中心に、講義内容を復習すること。

成績評価基準

筆記試験（80％）、授業態度・課題内容（20％）とし、総合100点で評価する。課題の締め切りに遅れた場合は、減点されるので、締め切り日に注意する。授業態度には、授業に臨む姿勢、プレゼンテーション、グループ討議などのディスカッションが含まれる。

課題等に対するフィードバック

評価後に返却し解説を行う。

教科書・参考書など

（教科書）
 福田素生 著『系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度③』 医学書院
 （参考書）
 藤内修二 著 『標準保健師講座 保健医療福祉行政論 別巻1』 医学書院
 小泉俊三他 著 『系統看護学講座 専門基礎分野 総合医療論 健康支援と社会保障制度①』 医学書院
 神馬征峰他 著 『系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 健康支援と社会保障制度②』 医学書院
 国民衛生の動向 厚生労働統計協会

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	晴佐久悟	ユニット1 社会保障制度 1) 社会保障の概念・目的・機能、2) 社会保障の体系について、3) 社会保障給付費について、4) 少子高齢化が社会保障 制度に及ぼす影響、動向について、5) わが国の保険医療の動向
2	晴佐久悟	ユニット2 介護保険制度のしくみ 1) 介護保険制度のしくみ 2) 介護保険制度の概論
3	晴佐久悟	ユニット3 医療保障制度の構造と体系 1) わが国の医療保障制度の特徴 2) 健康保険と国民健康保険 3) 高齢者医療制度について
4	晴佐久悟	ユニット4 医療保障制度の構造と体系 4) 保険医療のしくみについて 5) 公費負担医療について 6) 国民医療費の動向、構造について
5	晴佐久悟	ユニット5 所得保障制度、年金保険制度のしくみ 1) 所得保障制度のしくみ 2) 年金保険制度について説明できる。 3) 社会手当について 4) 労働保険制度について
6	吉田大悟	ユニット6 社会福祉の法制度 1) 社会福祉の法制度の歴史的展開について、2) 社会保障の概念・目的・機能について、3) 社会福祉の財政、4) 社会福祉の組織と実施 体制、従事者と担い手について、5)社会福祉の動向について
7	吉田大悟	ユニット7 公的扶助制度、生活保護制度のしくみ 1) 貧困・低所得問題と公的扶助制度の関係について 2) 生活保護制度の目的・原理・原則について 3) 生活保護の種類と方法について
8	吉田大悟	ユニット8 公的扶助制度、生活保護制度のしくみ 4) 生活保護の基準・費用について 低所得者対策、公的扶助の近年の動向 5) 低所得者対策について。 6) 公的扶助の近年の動向について
9	吉田大悟	ユニット9 高齢者・障害者福祉の施策、事業 1) 高齢者福祉の施策、老人保健事業 2) 障害者の定義と実態について 3) 障害者福祉の理念 4) 障害者福祉の新たな法体系について
10	吉田大悟	ユニット10 高齢者・障害者福祉の施策、事業 児童にかかわる法と施策、少子化・児童虐待・貧困に関する対策 5) 児童にかかわる法と施策について、6) 少子化対策と子育て支援について 7) 児童虐待対策について、8) 子どもの人権と貧困対策について
11	吉田大悟	ユニット11 社会福祉援助に関わる技術 1) 個別援助技術について 2) 集団援助技術について 3) 間接援助技術と関連援助技術について 4) 社会福祉援助の検討課題について
12	吉田大悟	ユニット12 社会福祉援助に関わる技術 社会福祉実践と医療・看護との連携の重要性 5) 社会福祉実践における連携の重要性 6) 社会福祉実践と医療・看護との連携について
13	吉田大悟	ユニット13 前近代～現代までの福祉史 1) 福祉史の 3 段階について 2) 前近代、近代、現代の済の諸相について
14	吉田大悟	ユニット14 介護保険制度の歴史、しくみ、および今後の課題 1) 介護保険制度の保険給付、財政について 2) 介護保険制度の課題と展望について
15	吉田大悟	ユニット15 介護保険制度のシステムと関連法規 1) 介護保険制度のシステムの概要 2) 介護保険制度を利用する施設とその関連法規

開設年度	2026年度	科目名	疫学			科目コード	DN121515
評価責任者	晴佐久 悟 ※各回の担当教員は授業計画にて確認してください					授業回数	15回
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・後期		
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		-3 科学的根拠に基づく対象者の個性に応じた最適な生活（well-being）に向けた看護を計画的に実践できる。 -7 看護専門職として研鑽し続けるために必要な課題探究能力を有し、自己の課題を明確にできる。					

授業の目的とねらい

公衆衛生活動の基礎的方法論である疫学の概念を理解する。社会的健康の実態を評価する疫学研究の技術を習得するとともに、研究デザインや健康指標の理解と、データの収集のための調査方法や調査の際のインフォームドコンセント、個人情報保護などの倫理的配慮も理解する。この教科では、教科書、配布資料、板書、コンピュータープロジェクションを用いての講義を行う。

到達目標

- 1.全体像の理解 知識
- 1) 社会的健康の実態を評価する疫学研究の技術を習得することができる。
- 2) 研究デザインや健康指標を理解することができる。
- 3) データ収集のための調査方法を理解することができる。
- 4) 調査の際のインフォームドコンセント、個人情報保護などの倫理的配慮を理解することができる。
- 2.態度形成 態度
- 1) 積極的にディスカッションへ参加できる
- 2) 疫学への興味関心を持ち、積極的に学ぶことができる。
- 3.スキル形成
- 1) 有病率、累積罹患率、致命率、発症率、相対頻度を説明し、算出することができる。
- 2) 罹患率、死亡率を説明し、算出することができる
- 3) 相対危険度の罹患率比、死亡率比、累積罹患率比（リスク比）、オッズ比を算出することができる。
- 4) 寄与危険度、寄与割合、人口寄与危険度、人口寄与 危険割合を算出することができる。

準備学修

講義前にシラバスの学習項目ならびに行動目標を理解した上で、教科書の指定された項目（予習の項目）に目を通しておくこと。学生は課せられる小テストのための配布プリントの予習、復習に関する課題や、その他学習活動に約60時間を費やすこと。講義後は、教科書の図表を中心に、講義内容を復習すること。

成績評価基準

筆記試験（80％）、授業態度・課題内容（20％）とし、総合100点で評価する。
講義の終了前に小テストを実施し、課題点とする。授業態度には、授業に臨む姿勢、グループ討議などのディスカッションが含まれる。

課題等に対するフィードバック

小テストにおいては、評価後に返却し解説を行う。

教科書・参考書など

（教科書）
牧本清子著 『標準保健師講座<4> 疫学・保健統計学』医学書院
（参考書）
金森雅夫著 『系統看護学講座基礎 統計学』医学書院 基礎から学ぶ楽しい疫学 医学書院

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	晴佐久悟	ユニット1 疫学概念について 1) 疫学の定義、2) ジョン・スノーのコレラの調査 3) わが国における疫学研究の歴史、4) 看護領域における疫学について
2	晴佐久悟	ユニット2 疫病の頻度の指標 1) 有病率、累積罹患率、致命率、発症率、相対頻度の算出法 2) 罹患率、死亡率の算出の算出法
3	晴佐久悟	ユニット2 曝露効果の指標について 1) 相対危険度の罹患率比、死亡率比、累積罹患率比（リスク比）、オッズ比の算出法 2) 寄与危険度、寄与割合、人口寄与危険度、人口寄与危険割合の算出法
4	晴佐久悟	ユニット3 疫学研究における倫理と対象集団の選定 1) ニュルンベルク綱領、2) ヘルシンキ宣言、3) 疫学研究に関する倫理指針 4) 母集団と標本について、5) 標本抽出法について、6) 曝露と危険因子 曝露と疾病発生について
5	晴佐久悟	ユニット3 疫学研究手法 1) 観察研究の研究手法（研究デザイン）について
6	晴佐久悟	ユニット3 疫学研究手法 1) 介入研究の研究手法（研究デザイン）について 2) 研究方法によるエビデンスのレベルについて
7	晴佐久悟	ユニット4 誤差・偏り 1) 誤差について 2) 偏りについて
8	晴佐久悟	ユニット4 誤差・偏り 1) 交絡とその他の制御法について 2) 疫学における因果関係の立証について
9	晴佐久悟	ユニット5 スクリーニング 1) スクリーニングの目的と備えるべき条件 2) スクリーニング検査の評価の妥当性の指標と信頼性の検討
10	晴佐久悟	ユニット5 スクリーニング 1) スクリーニング検査の評価のカットオフポイント、ROC 曲線
11	晴佐久悟	ユニット6 疾病登録 1) 疾病登録の意義と目的、がん登録、循環器疾患の登録について ユニット7 おもな疾患・生活習慣の疫学 A 感染症の疫学 1) 流行、2)アウトブレイク時の流行調査の基本、
12	晴佐久悟	ユニット7 おもな疾患・生活習慣の疫学 3)おもな感染症の疫学 B 非感染性疾患の疫学 1) がん、2)心疾患
13	晴佐久悟	ユニット7 おもな疾患・生活習慣の疫学 3) 脳血管疾患、4)糖尿病、5) 難病、6) 精神疾患 7) 事故、8) 環境要因による疾患、9) その他の重要疾患
14	晴佐久悟	ユニット7 おもな疾患・生活習慣の疫学 C 母子保健、学校・産業保健の疫学 D 生活習慣の疫学 ユニット9 疫学と公衆衛生看護 A社会疫学 B政策疫学 C臨床疫学
15	晴佐久悟	ユニット8 疫学に使用する計算の総復習 1) 疫学研究の種類、相対危険度の罹患率比、オッズ比の算出法 2) 寄与危険度、寄与割合、人口寄与危険度、人口寄与危険割合の算出法 3) 感度、特異度、陽性反応的中度、陰性反応的中度の算出法

《専門基礎分野 健康現象の疫学と統計》

開設年度	2026年度	科目名	保健統計			科目コード	DN121520
評価責任者	晴佐久 悟 ※各回の担当教員は授業計画にて確認してください					授業回数	15回
授業方法	演習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期		2年・後期	
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		☐ -3 科学的根拠に基づく対象者の個性に応じた最適な生活（well-being）に向けた看護を計画的に実践できる。 ☐ -7 看護専門職として研鑽し続けるために必要な課題探究能力を有し、自己の課題を明確にできる。					

授業の目的とねらい

「統計分析法」、「疫学」の概念と方法を基盤とした基礎的知識を活用する。個人・集団の健康問題を明らかにし、要因を探り、健康問題の解決へとつなげるために、健康現象の分析に必要な統計的手法、保健情報などを統計的に処理するための知識を学ぶ。我が国の保健統計調査、保健統計資料の概要、統計指標の意義と統計調査方法を学習し、保健統計情報を統計学的に処理するための方法を理解する。パソコンを利用した統計分析演習では、ICTを活用し、繰り返し視聴できる統計分析法に関する動画をオンデマンドで配信する。

この教科では、教科書、配布資料、スライド、パソコン、インターネットを利用した演習を行う。

到達目標

- | |
|--|
| <p>1.全体像の理解 知識</p> <p>1) 保健統計学の基礎、人口統計、保健医療情報、保健医療調査について理解する</p> <p>2) 保健医療情報の実践、保健医療情報の収集方法について理解する</p> <p>2.態度形成 態度</p> <p>1) 積極的にディスカッションへ参加できる</p> <p>2) 健康現象の分析に必要な統計的手法、保健情報などを統計的に処理することに興味関心を持つ</p> <p>3.スキル形成</p> <p>1) 保健医療情報の最新情報をインターネットで収集できる</p> <p>2) 模擬の保健医療情報をコンピューターに入力、統計解析ができる。</p> <p>3) 統計解析結果を分かり易く発表することができる</p> |
|--|

準備學修

講義前にシラバスの学習項目ならびに行動目標を理解した上で、教科書の指定された項目（予習の項目）に目を通しておくこと。
学生は課せられる課題や、その他学習活動に15時間を費やすこと。
講義後は、教科書の図表を中心に、講義内容を復習すること。

成績評價基準

筆記試験（80％）、課題内容・授業態度（20％）とし、総合100点で評価する。課題の締め切りに遅れた場合は、減点されるので、締め切りに注意する。授業態度には、授業に臨む姿勢、プレゼンテーション、グループ討議などのディスカッションが含まれる。

課題等に対するフィードバック

評価後に返却し解説を行う。

教科書・参考書など

(教科書) 牧本清子著 『標準保健師講座<4> 疫学・保健統計学』 医学書院
(参考書) 金森雅夫著 『系統看護学講座基礎 統計学』 医学書院

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	晴佐久悟	ユニット1 保健統計学の基礎1 1) 保健統計のデータの種類と分布 2) 保健活動における尺度
2	晴佐久悟	ユニット1 保健統計学の基礎1 3) 代表値と散布度 4) 確率分布
3	晴佐久悟	ユニット2 保健統計学の基礎2 1) 相関と回帰について 2) クロス集計
4	晴佐久悟	ユニット2 保健統計学の基礎2 3) 点推定と区間指定を説明できる。 4) 検定, 帰無仮説, 統計学的有意性を説明できる。 5) 割合に関する推定と検定を説明できる。
5	晴佐久悟	ユニット3 保健統計学の関連性の検討方法 1) 平均に関する推定と検定 2) 相関に関する検定 3) ノンパラメトリック検定ユニット2 保健統計学の関連性の検討方法
6	晴佐久悟	ユニット3 保健統計学の関連性の検討方法 4) 多変量解析 5) 統計調査の表現・解釈にあたって気をつけること
7	晴佐久悟	ユニット4 模擬の保健医療情報をコンピューターで統計分析する方法 1) 模擬の保健医療情報をコンピューターに入力。 2) 模擬の保健医療情報をコンピューターでヒストグラム作成 3) 模擬の保健医療情報をコンピューターで統計解析結果から分析 4) 統計解析結果の分析をまとめる
8	晴佐久悟	ユニット4 模擬の保健医療情報をコンピューターで統計分析する方法 1) 模擬の保健医療情報をコンピューターに入力。 2) 模擬の保健医療情報をコンピューターで散布図作成、相関分析 3) 模擬の保健医療情報をコンピューターで相関分析の結果から分析 4) 統計解析結果の分析をまとめる
9	晴佐久悟	ユニット4 模擬の保健医療情報をコンピューターで統計分析する方法 1) 模擬の保健医療情報をコンピューターに入力。 2) 模擬の保健医療情報をコンピューターで対応の無いt検定 3) 模擬の保健医療情報をコンピューターで統計解析結果から分析 4) 統計解析結果の分析をまとめる
10	晴佐久悟	ユニット4 模擬の保健医療情報をコンピューターで統計分析する方法 1) 模擬の保健医療情報をコンピューターに入力。 2) 模擬の保健医療情報をコンピューターで対応のあるt検定 3) 模擬の保健医療情報をコンピューターで統計解析結果から分析 4) 統計解析結果の分析をまとめる
11	晴佐久悟	ユニット5 保健統計調査・保健医療情報の管理や活用 1) 基幹統計について、2) 基幹統計以外の統計調査について、3) 医療経済統計について、4) 疾病・障害の定義分類について、5) 情報処理の基礎、6) 保健医療情報の収集法、7) 保健医療情報に関する法令・指針・原則について、8) 人口統計の基礎
12	晴佐久悟	ユニット5 保健医療情報の収集法 1) Webにある保健統計調査の検索法について 2) 保健統計調査の理解と結果の解釈について
13	晴佐久悟	ユニット6 模擬の保健医療情報をコンピューターで統計分析する方法 1) 模擬の保健医療情報をコンピューターに入力。 2) 模擬の保健医療情報をコンピューターでクロス集計の作成 3) 模擬の保健医療情報をコンピューターで統計解析結果から分析 4) 統計解析結果の分析をまとめる
14	晴佐久悟	ユニット6 模擬の保健医療情報をコンピューターで統計分析する方法 1) 模擬の保健医療情報をコンピューターに入力。 2) 模擬の保健医療情報をコンピューターで χ^2 検定 3) 模擬の保健医療情報をコンピューターで統計解析結果から分析 4) 統計解析結果の分析をまとめる
15	晴佐久悟	ユニット7 保健統計の総復習 1) 統計分析法とその解釈について 2) 保健統計調査の種類とその解釈について

開設年度	2026年度	科目名	well-being care			科目コード	DN121610
評価責任者	松尾 和枝 ※各回の担当教員は授業計画にて確認してください					授業回数	15回
授業方法	演習		単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	2年・後期	
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力			○	-1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。			
			○	-2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。			
			○	-3 科学的根拠に基づく対象者の個性に応じた最適な生活（well-being）に向けた看護を計画的に実践できる。			
			○	-4 保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実践について説明できる。			
			○	-5 在宅高齢者の健康支援ニーズに対応するために必要な包括的な支援活動を理解し、看護実践への探究心を示すことができる。			
			○	-6 在宅高齢者の健康支援ニーズに対応するために必要な包括的な支援活動を理解し、看護実践への探究心を示すことができる。			
			○	-7 看護専門職として研鑽し続けるために必要な課題探究能力を有し、自己の課題を明確にできる。			

授業の目的とねらい

看護の対象の個々のあり方を尊重し、最適な生活（well-being）を支援するための、対象者の理解、看護計画の立案と実践のあり方について探求することを目的とする。本科目では紙上の患者事例をもとに、情報収集、アセスメント、全体像の把握と必要な看護の判断を行い、その説明ができる知識・技術・態度を修得する。またその看護について他者と協議を行うことを通して、より質の高い判断や成果を生み出すこと、看護実践に関するシミュレーションの有益性について体験を通して学ぶ。さらに自己の学びを振り返り、看護実践に循環的に活用できる学習姿勢について学ぶ。

（実務経験を生かした教育内容）

大学附属病院および公立病院等における看護師の実務経験を生かし、患者との援助的人間関係を基盤に、看護過程を展開し、患者の個別性に応じた看護を展開する方法について指導する。

（看護過程実習との関連）

本科目は、看護過程実習に向けた模擬実習型シミュレーションを通して、実習グループの成長を支援する。そのため、看護過程実習の再履修者は、本科目の聴講生として受講することが望ましい。

到達目標

1. 技能：

- 1) 病態関連図にて、事例患者の病態について説明できる。
- 2) 模擬カルテの情報や模擬患者からの情報をもとに、ゴードンの11の機能的健康パターンを用いてアセスメントできる。
- 3) 事例患者の全体像について、病態や活動、価値観、社会的背景等を踏まえ、説明することができる。
- 4) 事例患者の健康上の問題について説明することができる。
- 5) 健康上の問題毎に、根拠を踏まえて看護目標を設定し、説明できる。
- 6) 健康上の問題についての看護計画について、その根拠を明確にしながら、説明することができる。
- 7) 模擬患者の背景を踏まえながら、看護の実施が実践できる。
- 8) 実施した看護の評価・修正ができる。

2. 態度形成 態度

- ・ 看護の対象や看護に対する興味関心を持ち、文献からの情報を得ることができる。
- ・ 授業全般の学びについて、自己を振り返り、課題や教訓を抽出することができる。

準備学修

「看護過程論」「フィジカルアセスメント演習」「ヘルスアセスメント演習」の講義・演習資料、レポート、および「疾病論」で得た知識を最大限に生かして、各時間の事前準備を行う。必要に応じて、グループで準備する。予習・復習に必要な時間は全体で15時間以上とする。

成績評価基準

看護過程展開での提出課題（70点：課題ごとの配点はガイダンスで提示）、プレゼンテーション（30点：課題ごとの配点はガイダンスで提示）課題の提出率が80%未満のものは、10点減点する。

課題等に対するフィードバック

提出された課題は評価後、コメントを付して担当教員が返却する。また、必要時講義の中で解説を行う。

教科書・参考書など

教科書：『看護過程実習 実習要項』『実習要項（共通）』『看護技術経験録』
三上れつ・小松万喜子・小林正弘 編『ヘルスアセスメント 臨床実践能力を高める』南江堂
阿部俊子監修 山本則子編『エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図』中央法規
池西静江 小山敦代 西山ゆかり 編『アセスメントに使える疾患と看護の知識』照林社

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	松尾和枝、荒川満枝、門司真由美、橋本真弥、加峯奈々	ユニット1 演習ガイダンス ・記録用紙の説明 ・事例の概要説明 ・病態関連図作成
2	松尾和枝、荒川満枝、門司真由美、橋本真弥、加峯奈々	ユニット2 情報収集とアセスメント1 ・模擬カルテからの情報収集と情報整理 ・模擬患者からの情報収集のためのグループワーク
3	松尾和枝、荒川満枝、門司真由美、橋本真弥、加峯奈々	ユニット2 情報収集とアセスメント2 ・模擬患者からの情報収集 ・情報整理とアセスメント
4	松尾和枝、荒川満枝、門司真由美、橋本真弥、加峯奈々	ユニット2 情報収集とアセスメント3 ・アセスメント（グループワーク）
5	松尾和枝、荒川満枝、門司真由美、橋本真弥、加峯奈々	ユニット2 情報収集とアセスメント4 ・アセスメント（グループワーク）
6	松尾和枝、荒川満枝、門司真由美、橋本真弥、加峯奈々	ユニット3 全体像と健康上の問題の明確化1 ・アセスメントの統合と全体像の記述（グループワーク） ・健康上の問題の明確化（グループワーク）
7	松尾和枝、荒川満枝、門司真由美、橋本真弥、加峯奈々	ユニット3 全体像と健康上の問題の明確化2 ・健康上の問題（プレゼン） ユニット4 看護計画立案 ・健康上の問題の優先順位の決定（グループワーク）
8	松尾和枝、荒川満枝、門司真由美、橋本真弥、加峯奈々	ユニット4 看護計画立案1 ・看護計画を立案する（個人ワーク）
9	松尾和枝、荒川満枝、門司真由美、橋本真弥、加峯奈々	ユニット4 看護計画立案2 ・看護計画を立案する（グループワーク）
10	松尾和枝、荒川満枝、門司真由美、橋本真弥、加峯奈々	ユニット4 看護計画立案4 ・立案した看護計画を錬成する（グループワーク）
11	松尾和枝、荒川満枝、門司真由美、橋本真弥、加峯奈々	ユニット5 看護実践1 ・模擬患者さんに看護実践する
12	松尾和枝、荒川満枝、門司真由美、橋本真弥、加峯奈々	ユニット6 看護計画の評価と修正1 ・看護計画の有効性の評価と計画の修正（個人ワーク）
13	松尾和枝、荒川満枝、門司真由美、橋本真弥、加峯奈々	ユニット6 看護計画の評価と修正2 ・看護計画の有効性の評価と計画の修正（グループワーク） ・プレゼン準備
14	松尾和枝、荒川満枝、門司真由美、橋本真弥、加峯奈々	ユニット7 今後の課題の明確化1 ・計画と実践のプレゼンテーション1 ・他グループの評価
15	松尾和枝、荒川満枝、門司真由美、橋本真弥、加峯奈々	ユニット7 今後の課題の明確化2 ・計画と実践のプレゼンテーション2 ・実践の講評と授業のまとめ

開設年度	2026年度	科目名	看護過程実習			科目コード	DN121625
評価責任者	松尾 和枝 ※各回の担当教員は授業計画にて確認してください					授業回数	45回
授業方法	実習		単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・後期	
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力			○	-1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。			
			○	-2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。			
			○	-3 科学的根拠に基づく対象者の個性に応じた最適な生活（well-being）に向けた看護を計画的に実践できる。			
			○	-4 保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実際について説明できる。			
			○	-5 在宅高齢者の健康支援ニーズに対応するために必要な包括的な支援活動を理解し、看護実践への探究心を示すことができる。			
			○	-6 対象者に応じた口腔の援助技術を修得し、QOL向上に向けた口腔を起点とした全身の健康支援のあり方を探求できる。			
			○	-7 看護専門職として研鑽し続けるために必要な課題探究能力を有し、自己の課題を明確にできる。			

授業の目的とねらい

〈授業のねらい〉
看護の対象者の健康上の問題を解決するために、対象者との援助的人間関係を発展させながら、看護過程を展開し、看護の実践ができる。科学的根拠に基づいた看護アセスメントを行い、全体像をとらえ、対象者の健康に関わる能力が発揮されるように、最適な生活（well-being）を目指し、対象者の状況に合わせた看護介入ができる。また援助を通して対象者との相互的な関係性および最適な生活（well-being）について考察する。

（実務経験を生かした教育内容）
大学附属病院や公立病院等における看護師の実務経験を生かし、患者との援助的人間関係を基盤に、看護過程を展開し、患者の個別性に応じた看護を展開する方法について指導する。患者への直接看護の際には、当該病院の看護師である実習指導者の指導の下、患者の個別性に応じた安全・安楽な看護が実施できるよう支援する。

到達目標

- 1．対象者を理解することができる
 - 1) 対象者の思い、健康状態や治療を踏まえ、ゴードンの11の機能的健康パターンに基づいてアセスメントすることができる。
 - 2) 対象者の全体像について、病態関連図や文章で説明することができる。
 - 3) 対象者が入院中及び退院後に最適な生活(well-being)を送るために解決すべき健康上の問題について、説明することができる。
- 2．対象者の健康上の問題の解決に向け、対象者やその家族に応じた援助の在り方を考え、看護を実践することができる
 - 1) 健康上の問題について、対象者および家族の対処能力・強みを説明することができる。
 - 2) 健康上の問題について、優先順位を説明することができる。
 - 3) 健康上の問題について、実現可能な看護目標を立て、看護計画を立案できる。
 - 4) 看護計画を踏まえて看護実践をし、その評価・修正をすることができる。
- 3．看護専門職者として責務を認識し、行動することができる

準備学修

1. 実習オリエンテーションには必ず出席する
2. 看護過程論、ヘルスアセスメント演習、well-being care で修得した看護過程の展開に関する振り返るを行う
3. アセスメントガイドを十分に修得しておく
4. 日常生活援助に関する技術、フィジカルアセスメント技術は、十分に修得しておく
5. 自身で実習のスケジュール管理ができるよう、要項を読み込んでおく

成績評価基準

実習評価表に基づき実習目標の達成度について、実習担当教員が実習指導者と協議し、総合的に評価する。

課題等に対するフィードバック

日々の実習の中で、実習指導者および実習担当教員の助言を受ける。実習要項の実習進度をもとに日々のスケジュールを立案し、翌日の計画は前日の実習時間内に見通しをつけられるよう、積極的に取り組む必要がある。

実習終了時には実習担当教員による面接を実施し、フィードバックを受ける。

教科書・参考書など

<教科書>
福岡看護大学 『看護過程実習要項』『共通編実習要項』『技術経験録』

<参考書>
日本看護協会監修 『看護者の基本的責務（新版）』、日本看護協会出版会
池西静江 小山敦代 西山ゆかり 編 『アセスメントに使える疾患と看護の知識』照林社
阿部俊子監修 山本則子編 『エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図』中央法規

《授業計画》

授業内容及び担当教員

（授業内容）

1. 対象者を理解することができる
 - 1) 対象者の思い、健康状態や治療を踏まえ、ゴードンの11の機能的健康パターンに基づいてアセスメントすることができる。
 - 2) 対象者の全体像について、病態関連図や文章で説明することができる。
 - 3) 対象者が入院中及び退院後に最適な生活(well-being)を送るために解決すべき健康上の問題について、説明することができる。
2. 対象者の健康上の問題の解決に向け、対象者やその家族に応じた援助の在り方を考え、看護を実践することができる
 - 1) 健康上の問題について、対象者および家族の対処能力・強みを説明することができる。
 - 2) 健康上の問題について、優先順位を説明することができる。
 - 3) 健康上の問題について、実現可能な看護目標を立て、看護計画を立案できる。
 - 4) 看護計画を踏まえて看護実践をし、その評価・修正をすることができる。
3. 看護専門職者として責務を認識し、行動することができる
 - 1) 人権を尊重し、援助的人間関係を構築できるように関わることができる。
 - 2) 個人情報の保護に努めるとともに、医療安全の観点で行動することができる。
 - 3) 自分の考えを他者にわかりやすく要点を整理して表現することができる。
 - 4) 時宜を得た報告・連絡・相談・確認をすることができる。
 - 5) 実習指導者や担当教員からの指導に対して、真摯な態度で指導内容を理解し、考えや行動・態度を改善しようと努力することができる。
 - 6) 実習期間を通して、学びや気づき、看護に対する考え、今後の課題について述べることができる。

（教育方法・学修方法）

入院療養中の患者1名を受け持ち、一連の看護過程を展開することにより、看護過程と看護実践について体験的に学習する。さらに、自らの看護実践の評価を通して、看護専門職者の役割を学習する。

「詳細は実習要項へ記載」

（担当教員）

松尾和枝、荒川満枝、門司真由美、加峯奈々、橋本真弥、秋永和之、中西真美子、山中富、小島美里、石田有紀、寒水章納、吉田あや、木下惣太、深川知栄、緒方裕美、宮園直人、黒岩千翔、近松裕子、村上直子

開設年度	2026年度	科目名	小児看護論			科目コード	DN121660
評価責任者	飯野 英親 ※各回の担当教員は授業計画にて確認してください					授業回数	15回
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・後期		
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○	-2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。				
		○	-3 科学的根拠に基づく対象者の個性に応じた最適な生活（well-being）に向けた看護を計画的に実践できる。				
		○	-4 保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実際について説明できる。				
		○	-6 対象者に応じた口腔の援助技術を修得し、QOL向上に向けた口腔を起点とした全身の健康支援のあり方を探求できる。				

授業の目的とねらい

この科目では、小児看護学概論で学んだ子どもと家族への看護に関する基本的知識が必要です。その知識を踏まえ、健康障害をもつ子どもと家族を対象とした、疾病を有する罹患状況における具体的な看護を学び、子どもと家族の最適な生活（well-being）を目指すことができる小児看護の知識・考え方を修得することを目指します。

子どもは成長発達が目覚ましい時期であり、その子どもの成長発達段階に応じた関わり方を重要視するとともに、子どもの成長・発達を促すことができる看護と家族に対する看護の方法について学びます。健康障害をもつ子どもとその家族は、特有の健康課題をもっている場合があり、様々な子どもの事例を通し、子どもと家族を身体的・精神的・社会的な視点から捉え、ケア・支援する方法を学びます。本科目の学修成果は、主に筆記試験で確認します。

〈実務経験を生かした教育内容〉

大学附属病院等での小児臨床看護経験をいかし、子どもの療養生活支援と診療介助技術に関する知識・技術を、こどもの発達に応じて、臨床で経験した事例を基に教授する。また、家族・親族・学校との対応等、医療者間の連携に関しても実務で経験した事例を基に教授する。

到達目標

- 対象の子どもの全体像の理解（知識）
 - 健康障害をもつ子どもと家族の特徴と看護について説明することができる。
 - 日常生活における制限と看護（個室隔離、活動制限、食事制限）について説明することができる。
 - 子どもへのプレパレーションの方法と効果について説明することができる。
 - 小児看護における多職種連携について説明することができる。
 - 重症心身障害児、医療的ケア児が必要な子どもと家族の特徴と必要な看護について説明することができる。
 - 災害が子どもと家族に及ぼす影響と必要な看護について説明することができる。
 - 小児科外来における看護、小児看護における倫理的課題、小児の虐待事例と病院での対応について説明することができる。
- 態度形成（態度）
 - 各授業に関連する予習を行ったうえで、小児看護を学ぶ積極的な学修態度を養う。
 - 講義後は、講義中の指定した教科書の項目や図、キーワードを中心に、講義内容を復習する。
- スキル形成（技能）
 - 小児看護における事例や話題を基に、課題探求力を身につけることができる。
 - 与えられた課題に対し、適切な引用文献を用いてレポートを作成することができる。

準備学修

小児、家族に関する既習の科目について復習を行っておく。授業前にシラバスの該当する部分の教科書を読んでおく。予習・復習に必要な時間は全体で60時間とする。

成績評価基準

筆記試験（80％）、授業で提示する課題に対する回答内容（20％）を総合して評価する。提出物の期限が守れなかった場合は減点対象とする。

課題等に対するフィードバック

復習を兼ねた課題等がある。課題に対する評価、必要時はコメント記入後に返却し、復習と今後の発展学習に生かすことができるよう解説を行う。

教科書・参考書など

教科書：
 中野綾美他 『ナーシング・グラフィカ 小児看護学（1）小児の発達と看護』メディカ出版
 中野綾美他 『ナーシング・グラフィカ 小児看護学（2）小児看護技術』メディカ出版
 中野綾美他 『ナーシング・グラフィカ 小児看護学（3）小児の疾患と看護ⅴ』メディカ出版
 参考書：
 筒井真優美監修 『パーフェクト臨床実習ガイド小児看護』 照林社
 山元恵子監修 『写真でわかる小児看護技術アドバンス』 インターメディアカ

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	飯野英親	ユニット1 さまざまな症状を示す子どもと家族の看護1 発熱、頭痛、脱水、嘔吐下痢、呼吸困難、腹痛の子どもと家族へのケアについて学ぶ。
2	青野広子	ユニット1 さまざまな症状を示す子どもと家族の看護2 浮腫、黄疸、けいれん、疼痛、出血傾向、易感染の子どもと家族へのケアについて学ぶ。
3	青野広子	ユニット2 小児看護技術（プレパレーション、ディストラクション、フィジカルアセスメント） 1) プレパレーション、ディストラクションについて学ぶ。 2) フィジカルアセスメント、バイタルサイン測定について学ぶ。
4	飯野英親	ユニット3 医療状況と日常生活制限に応じた子どもと家族の看護 1) 障害やそれに伴う治療・検査・処置が子どもと家族に与える影響と看護について学ぶ。 2) 生活における制限（個室隔離、活動制限、食事制限）と看護について学ぶ。
5	飯野英親	ユニット4 先天性疾患を有する子どもと家族の看護 1) 先天性疾患を有する子どもを養育する家族の心理変化と家族の生活を支える看護の役割について学ぶ。 2) 退院支援、病院・保健所・保健センター・地域・学校との連携内容について学ぶ。
6	宮園直人	ユニット5 新生児および周産期疾患を有する子どもと家族の看護 1) 新生児および周産期疾患を有する子どもと家族を理解する視点について学ぶ。 2) 子どもの集中治療に関する看護について学ぶ。
7	飯野英親	ユニット6 代謝性疾患・内分泌疾患を有する子どもと家族の看護 1) 代謝性疾患・内分泌疾患を有する子どもと家族を理解する視点について学ぶ。 2) 代謝性疾患・内分泌疾患を有する子どもと家族の看護について学ぶ。
8	宮園直人	ユニット7 感染症・免疫・アレルギー疾患を有する子どもと家族の看護 1) 子どもに多い感染症疾患の特徴、予防接種の種類、接種時期について学ぶ。 2) 感染症・免疫・アレルギー性疾患を有する子どもと家族の看護について学ぶ。 3) アナフィラキシーショック時の対応について学ぶ。
9	青野広子	ユニット8 神経系疾患を有する子どもと家族の看護 1) 神経系疾患を有する子どもと家族を理解する視点について学ぶ。 2) 神経系疾患を有する子どもと家族の看護について学ぶ。
10	飯野英親	ユニット9 消化器疾患（口腔・食道・腸）を有する子どもと家族の看護 消化器疾患（口腔・食道・腸）を有する子どもと家族に及ぼす影響と、看護の役割について学ぶ。
11	青野広子	ユニット10 腎疾患を有する子どもと家族の看護 腎疾患（糸球体・尿路系疾患を含む）を有する子どもと家族に及ぼす影響と、看護の役割について学ぶ。
12	宮園直人	ユニット11 先天性心疾患を有する子どもと家族の看護 1) 先天性心疾患の概要を学ぶ。 2) 先天性心疾患を有する子どもと家族の心理変化と看護の役割について学ぶ。
13	飯野英親	ユニット12 小児がんを有する子どもと家族の看護 1) 小児がんの種類と好発年齢等の概要を学ぶ。 2) 化学療法を受ける子どもと家族の看護について学ぶ。
14	青野広子	ユニット13 外来における子どもと家族の看護 外来通院や入院が必要な子どもと家族への看護について学ぶ。
15	飯野英親	ユニット14 災害を受けた子どもと家族の看護、残された時間を生きる子どもと家族への看護（小児期ターミナルケア） 災害を受けた子どもと家族への影響と、看護の役割について学ぶ。 残された時間を生きる子どもと家族への看護について学ぶ。

担当教員：飯野英親、青野広子、宮園直人

開設年度	2026年度	科目名	母性看護論			科目コード	DN121680
評価責任者	田出 美紀 ※各回の担当教員は授業計画にて確認してください					授業回数	15回
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期		2年・後期	
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○	-1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。				
		○	-2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。				
		○	-3 科学的根拠に基づく対象者の個性に応じた最適な生活（well-being）に向けた看護を計画的に実践できる。				
		○	-4 保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実践について説明できる。				
		○	-6 対象者に応じた口腔の援助技術を修得し、QOL向上に向けた口腔を起点とした全身の健康支援のあり方を探求できる。				
		○	-7 看護専門職として研鑽し続けるために必要な課題探究能力を有し、自己の課題を明確にできる。				
		○					

授業の目的とねらい

母性看護学の対象である妊娠期・分娩期・産褥期の身体的、心理・社会的変化および胎児の成長発達と新生児の生理的特徴ならびにそれらの正常からの逸脱について理解できる。また、妊産褥婦・新生児とその家族への看護の方法について考察できることを目的とする。授業形態は一部TBL(チーム基盤型学習)を取り入れて行う。その際、iRAT(個人テスト)はMoodleを用いて実施する。

<実務経験を生かした教育内容>

本科目の担当教員は、母性看護学分野において大学附属病院・国立病院機構・総合病院での助産師としての職務経験、開業助産師として育児支援、行政での母子保健事業経験、中学校等への性教育の経験を有している。母性看護の対象である妊産褥婦および新生児とその家族への看護や子育て世代包括支援による切れ目のない支援と多職種連携、特殊な状況下にある対象の看護について実務経験を通して得た知見についても教授し、母性看護における多様な対象者の個性を踏まえた最適な生活（well-being）について考察でき、実践するための基盤となる知識を教授する。

到達目標

1. 知識
1) 妊娠期の母体と心理・社会的特性、胎児の成長発達、マイナートラブルやハイリスク妊娠および正常からの逸脱について説明できる。
2) 分娩機序と分娩経過、産婦の身体的、心理・社会的変化やハイリスク分娩および正常からの逸脱について説明できる。
3) 褥婦の身体的、心理・社会的変化とハイリスク褥婦、母乳栄養、乳汁分泌のメカニズムおよび正常からの逸脱について説明できる。
4) 新生児の生理的特徴と母体外生活適応過程および正常からの逸脱について説明できる。
5) 妊産褥婦・新生児がwell-beingな経過をたどるための看護について説明できる。
6) ハイリスク・正常から逸脱した妊産褥婦や新生児に対する看護について説明できる。
7) 母子関係確立および家族役割構築のための看護について説明できる。
2. 態度
1) 指定された事前学修課題を行って授業に臨むことができる。
3. 技能
1) 講義に積極的に参加し、チームディスカッションの内容や自分の意見を発表することができる。
2) さまざまな特性を持つ妊産褥婦とその家族に対する支援および多職種連携について考えを述べるることができる。
3) 課題に対して自分の考えを述べながらチームで協働して看護を導き出し、課題を作成することができる。

準備学修

病態疾病論Ⅴ、母性看護学概論で課題学習した内容やポートフォリオ、レポート、配布資料等を再度確認しておくこと。授業開始前に課題を提示し、事前学習課題やシラバスの講義内容を踏まえたMoodleによるiRAT(個人テスト)を行う。各自学修して授業に臨むこと。予習・復習に必要な時間は、全体で60時間とする。

成績評価基準

定期試験60%、小テスト10%、事前事後学修課題20%、授業の参加状況10%
Moodleを用いたiRAT(個人テスト)とグループワークによるtRAT(グループテスト)は小テストの評価となる。事前事後学習課題は、実習の事前学習課題にもなるので授業内容などを適宜書き込むこと。授業の参加状況はチームでのグループワークやディスカッションへの参加態度、発表、Googleフォームによるリアクションペーパーの提出状況からも総合的に評価する。
提出物の提出期限に遅れた場合には減点対象とする。

課題等に対するフィードバック

提出された課題やレポートについては授業内で全体にコメントし、フィードバックする。

教科書・参考書など

教科書：小林康江他『ナースンググラフィカ 母性看護学②母性看護の実践 第3版』メディカ出版
荒木奈緒他『ナースンググラフィカ 母性看護学③母性看護技術 第6版』メディカ出版

参考書：太田操『ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第4版』医歯薬出版株式会社
医療情報科学研究所『病気がみえるvol.10 産科 第4版』メディックメディア
武谷雄二他『プリンシプル産科婦人科学2 産科編 第3版』メジカルビュー社

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	中西真美子、田出美紀	ガイダンス 妊娠期の看護① 1) 妊娠期の母体の変化と胎児の成長発達 2) 周産期の口腔衛生の特徴 3) 順調な妊娠経過を保つためのセルフマネジメントと看護
2	中西真美子	妊娠期の看護② 4) 妊婦の心理・社会的特性 5) マイナートラブルと看護
3	中西真美子、田出美紀	妊娠期の看護③ 6) ハイリスク妊娠(母体・胎児) 7) 妊娠期の正常からの逸脱と看護 8) 妊娠期から始まる切れ目のない支援
4	緒方裕美、田出美紀	分娩期の看護① 1) 分娩の3要素、分娩機序と分娩経過 2) 分娩期の身体的変化と心理・社会的変化 3) 胎児におよぼす影響
5	緒方裕美、田出美紀	分娩期の看護② 4) 順調な分娩経過のための看護 (1) 分娩第1期～第4期までの産婦と家族への看護 (2) 出産体験が肯定的になるための看護
6	田出美紀、緒方裕美	分娩期の看護③ (TBL) 5) ハイリスク分娩 6) 分娩期の正常からの逸脱と看護 7) 分娩誘発時の看護 8) 帝王切開時の看護
7	緒方裕美、田出美紀	産褥期の看護① 1) 褥婦の生理的变化・生殖器復古、全身状態の回復 2) 退行性変化を促進するセルフケアと看護 3) 身体的なハイリスク産褥、身体的変化の正常からの逸脱と看護
8	緒方裕美、田出美紀	産褥期の看護② 4) 母乳栄養と人工栄養 5) 母乳育児の特性 6) 妊娠期から産褥期にかけての乳房ケアとトラブル、正常からの逸脱と看護
9	中西真美子	新生児の看護① 1) 新生児の生理的特徴
10	中西真美子	新生児の看護② 2) 新生児の母体外生活適応過程とフィジカルアセスメント
11	中西真美子	新生児の看護③ 3) 順調な胎外生活適応のための看護 (2) 出生後24時間内の看護 (3) 出生後24時間以降から退院に向けた看護 4) ハイリスク新生児と新生児期の正常からの逸脱とその看護
12	田出美紀、緒方裕美	産褥期の看護③ (TBL) 7) 産褥期の心理・社会的変化 8) エモーションナルサポートとエンパワーメント 9) 母子・家族関係の確立(母子・父子相互作用、愛着形成) 10) 家族役割機能への援助
13	田出美紀、緒方裕美	産褥期の看護④ (TBL) 11) 退院後の生活支援 12) 精神的なハイリスク産褥、精神状態の正常からの逸脱と看護 13) こども家庭センターと多職種連携
14	田出美紀、中西真美子、緒方裕美	災害時の外国人妊産褥婦の支援 (ワールドカフェ)
15	田出美紀、中西真美子	ペリネイタルロスを体験した女性と家族と看護 (グループワーク) 先天異常・障がいをもつ児を出産した母親と家族と看護

《専門分野 成人・高齢者看護学》

開設年度	2026年度	科目名	急性期・クリティカル看護論			科目コード	DN121720
評価責任者	秋永 和之 ※各回の担当教員は授業計画にて確認してください					授業回数	15回
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	2年・後期		
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	○	-1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。					
	○	-2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。					
	○	-3 科学的根拠に基づく対象者の個性に応じた最適な生活（well-being）に向けた看護を計画的に実践できる。					
	○	-4 保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実践について説明できる。					
	○	-5 在宅高齢者の健康支援ニーズに対応するために必要な包括的な支援活動を理解し、看護実践への探究心を示すことができる。					
	○	-6 対象者に応じた口腔の援助技術を修得し、QOL向上に向けた口腔を起点とした全身の健康支援のあり方を探求できる。					
	○	-7 看護専門職として研鑽し続けるために必要な課題探究能力を有し、自己の課題を明確にできる。					

授業の目的とねらい

急性期・クリティカル看護論では、急性期・クリティカルな状態にある対象者の身体的・心理的・社会的特徴を学び、実践するための基礎的知識を養うことを目的としている。

1年後期に病態疾病論・成人看護学概論で学んだことを基盤とし、身体侵襲に対する生体反応と生体調節機構について学ぶ。

急性期・クリティカル看護の基礎的知識を教授したのち、事例を用いた急性期・クリティカル看護について教授する。

事例を用いて教授する際は、イメージ化できるように発症から特徴的な症状、診断のための侵襲性の高い検査・治療、集中治療における合併症を予防する看護について、動画などの視覚的教材を用いて教授する。既習の知識を用いながら急性期・クリティカル看護について学習を深めて欲しい。

また、この科目では学生の理解を促進するために、アウトプットを重要視することから、グループディスカッション、発表による学習を積極的に取り入れるため、積極的な学習態度が求められる。

〈実務経験を生かした教育内容〉

大学付属病院や急性期病院においての急性期・クリティカル看護の経験を持つ教員が多いことから、疾病や障害とともに生きる対象者および家族の最適な生活（well-being）を目指した看護の実践を具体例を用いて指導する。

到達目標

1. 知識
- 1) クリティカル看護の基本概念を説明できる。
- 2) クリティカルな状態にある対象の特徴を説明できる。
- 3) 事例を通して、急性期とクリティカルな状態にある人の看護を説明できる。
- 4) クリティカルな治療に対する対象の反応、安全・安楽を守る看護について説明できる。
2. 態度
- 1)急性期看護・クリティカル看護について学ぶ力を身につける。
- 2)急性期看護・クリティカル看護への積極的な学修態度を養う。
- 3)積極的な学習態度を養う。
3. 技能
- 1)急性期・クリティカルな患者の講義や事例に取り組み、学びをレポート記載の方法に従い記載できる。
- 2)急性期・クリティカルにおける医療の課題について発表することができる。

準備学修

予習に必要な時間は全体で15時間とする。

1年後期に学んだ病態疾病論・成人看護学概論、2年前期の周術期看護で学んだことを整理しておく。

また、授業で配布するプリントやレポート課題についても予習、復習に活用すること。

成績評価基準

筆記試験による期末テスト70%、課題点30%、総合100点で評価する。

課題等に対するフィードバック

レポート課題等は評価後に、内容のフィードバックを行う。

教科書・参考書など

（教科書）

林直子・佐藤まゆみ 著『看護学テキスト 成人看護学急性期看護Ⅱ クリティカルケア改訂第3版』南江堂

林直子・佐藤まゆみ 著『看護学テキスト 成人看護学 急性期看護Ⅰ 概論・周術期看護 改訂第3版』南江堂

（参考書）

讀井 将満、他著『ナースিং・グラフィカ 疾患と看護(1)：呼吸器 第2版』メディカ出版

野原 隆二、他著『ナースিং・グラフィカ 疾患と看護(2)：循環器 第2版』メディカ出版

竹内登美子 著『高齢者と成人の周術期看護（脳血管疾患で手術を受ける患者の看護）第2版』医歯薬出版

繪本 正憲、他著『ナースিং・グラフィカ 疾患と看護(8)：腎/泌尿器/内分泌・代謝 第2版』メディカ出版

渡邊 浩子、他著『ナースিং・グラフィカ 疾患と看護(9)：女性生殖器 第2版』メディカ出版

竹内登美子、編著『高齢者と成人の周手術期看護 脳神経疾患で手術を受ける患者の看護第2版』

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	秋永和之	ユニット1 呼吸機能の再確立（呼吸不全） ・呼吸困難を訴える対象者の病態、治療、検査、看護、アセスメント方法を学ぶ ・呼吸困難を訴える対象者の集中治療までの看護を学ぶ ・酸素療法における治療、看護、アセスメント方法を学ぶ
2	秋永和之	ユニット1 呼吸機能の再確立（胸腔鏡下肺葉切除） ・肺がんにより肺下葉切除術を受ける患者の事例を通して、呼吸機能の再確立が必要な患者の特徴を学ぶ ・肺がんにより肺葉切除術を受ける患者の事例を通して、呼吸機能の再確立への看護を学ぶ
3	秋永和之	ユニット2 循環機能の再確立（狭心症、心筋梗塞） ・急性冠症候群（狭心症、心筋梗塞）の事例を通して、循環機能の再確立が必要な患者の病態、集中治療、看護、アセスメント方法を学ぶ ・患者の事例を通して、術前から術後の看護を学ぶ
4	秋永和之	ユニット2 循環機能の再確立（解離性大動脈瘤） ・大動脈解離（解離性大動脈瘤）の事例を通して、循環機能の再確立が必要な患者の特徴を学ぶ ・患者の病態、集中治療、看護、アセスメント方法を学ぶ ・患者の事例を通して、術前から術後の看護を学ぶ
5	内田荘平	ユニット3 脳・神経疾患（脳血管障害/頭部外傷） ・脳血管障害/頭部外傷の事例を通じて、病態、治療および手術による影響と合併症について学ぶ ・患者の事例を通して、術前から術後の看護を学ぶ ・意識評価（コーマスケール）
6	内田荘平	ユニット3 脳・神経疾患（脳腫瘍/脳脊髄液異常） ・脳腫瘍/脳脊髄液異常の事例を通じて、病態、治療および手術による影響と合併症について学ぶ ・患者の事例を通して、術前から術後の看護を学ぶ
7	木下惣太 秋永和之	ユニット4 排泄機能の再確立（腎臓・尿管摘出） ・腎臓・尿管摘出術を受ける患者の事例を通して、排泄機能の再確立が必要な患者の特徴を学ぶ ・事例を通して、排泄機能の再確立への看護を学ぶ
8	内田荘平	ユニット4 排泄機能の再確立（前立腺摘出/膀胱切除/回腸導管） ・経尿道的手術および開腹事例を通して、排泄機能の再確立が必要な患者の特徴を学ぶ ・事例を通して、排泄機能の再確立への看護を学ぶ
9	吉田あや	ユニット5 生殖機能の再確立（広汎子宮全摘 / 乳房切除） ・広汎子宮全摘 / 乳房切除術を受ける患者の事例を通して、生殖機能の再確立が必要な患者の特徴を学ぶ ・事例を通して、生殖機能の再確立への看護を学ぶ
10	岩本利恵	ユニット6 クリティカルケア看護の概要 ・集中治療と救急医療の現状と特徴を学ぶ ・プレホスピタルケアと市民が担う役割、多職種連携について学ぶ ・救急医療と関連法令、集中治療、救急医療における倫理について学ぶ
11	秋永和之	ユニット6 クリティカルケア看護の実際 ・急変した入院患者への看護を学ぶ ・院内システムとSBARについて学ぶ ・救命救急処置について学ぶ
12	秋永和之	ユニット6 クリティカルケアの実際 ・クリティカルケアにおけるターミナルケアを学ぶ ・脳死状態患者と臓器移植、アドバンス・ケア・プランニングについて学ぶ ・グリーフケアについて学ぶ
13	有永麻里 秋永和之	ユニット7 クリティカルケアの実際（体温異常/感染制御/医療機器） ・体温異常のある対象者の病態、治療、看護、アセスメント方法を学ぶ ・生体防御・内部環境に障害を持つ対象者の感染管理を学ぶ ・急性期医療で使用する治療用医療機器の取り扱い方と注意点について学ぶ ・人工呼吸器療法における治療、看護、アセスメント方法を学ぶ
14	吉田あや 秋永和之	ユニット7 クリティカルケアの実際（外傷/熱傷/中毒/感覚器） ・胸部外傷/広範囲熱傷/中毒/感覚器異常のある対象者の病態、治療、看護、アセスメント方法を学ぶ ・胸部外傷/広範囲熱傷/中毒のある対象者の集中治療までの看護を学ぶ
15	吉田あや 内田荘平	ユニット7 クリティカルケアの実際（ショック/低血糖） ・ショック/低血糖異常のある対象者の病態、治療、看護、アセスメント方法を学ぶ ・ショック/低血糖異常のある対象者の集中治療までの看護を学ぶ

開設年度	2026年度	科目名	緩和ケア看護論			科目コード	DN121725
評価責任者	岩本 利恵 ※各回の担当教員は授業計画にて確認してください					授業回数	15回
授業方法	講義		単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	2年・後期	
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力			○	-1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。			
			○	-2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。			
			○	-3 科学的根拠に基づく対象者の個性性に応じた最適な生活（well-being）に向けた看護を計画的に実践できる。			
			○	-4 保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実践について説明できる。			
			○	-5 在宅高齢者の健康支援ニーズに対応するために必要な包括的な支援活動を理解し、看護実践への探究心を示すことができる。			
			○	-6 対象者に応じた口腔の援助技術を修得し、QOL向上に向けた口腔を起点とした全身の健康支援のあり方を探求できる。			
			○	-7 看護専門職として研鑽し続けるために必要な課題探究能力を有し、自己の課題を明確にできる。			

授業の目的とねらい

1 年生で学習した成人看護学概論、周術期・回復期看護論、慢性期看護論をもとに、緩和ケアにおける看護を学修する。成人期は社会や家庭内での責任も重く、大きな役割を果たしており、その時期に緩和ケアが必要な終末期にあることは、対象となる人およびその家族にとっては、とても大きな苦痛と苦悩を抱える。これら成人期の終末期における特徴も踏まえ、対象者およびその家族を全人的(身体的・社会的・心理的・スピリチュアル)な側面から総合的に理解し、対象者および家族に応じた看護を学習する。最期まで自分らしく(well-being)生きることの支援をできることを目指している。

この科目は、毎回の事例を使用した事前学習を実施する。またポートフォリオを活用し、毎回の講義での目標と今後の課題を明確にし、今後の課題に対して自己学習の成果をまとめ、学習の成果が得られるように校正されている。

この科目では、事例を用いたグループディスカッション、発表による学習を実施するので、積極的な学習態度が求められる。

〈実務経験を生かした教育内容〉

公立病院や大学付属病院においての成人慢性期・終末期看護の経験を活かし、疾病や障害とともに生きる対象者および家族の最適な生活(well-being)を目指した看護の実践を指導する。セルフマネジメント、セルフケアの自立のため患者教育、指導についても教育する。

〈アクティブラーニング〉グループワーク、ディスカッションなど

到達目標

1. 知識
- 1) 緩和ケアの歴史と概念について説明できる。
 - 2) 緩和ケアにおけるチーム医療と多職種連携、社会資源の活用について説明できる。
 - 3) 終末期にある対象者の全人的な変化と苦痛の特徴を理解し、グループディスカッションを通して学ぶことができる。
 - 4) 自分らしく最後まで生きる対象者へのケアについて事例を基に、個別性を考えたケアを説明できる。
 - 5) 緩和ケアにおける意思決定支援、倫理的配慮が必要なケアについて説明できる。
 - 6) 看取りのケア(死の受容、死への身体的・心理的变化、死後の処置)について説明できる。
 - 7) 対象者およびその家族のグリーフケアについて説明できる。
2. 態度
- 1) グループディスカッションに積極的に参加し、コミュニケーションをとり、協働する。
 - 2) 自ら学べるように積極的に学習する。
3. 技能
- 1) 自己の課題について資料、文献を検索など学習し、自己学習の積み重ねを工夫して、ポートフォリオにできる。
 - 2) グループディスカッションしたことまとめ、発表することができる。

準備学修

毎回、事例を活用した事前レポート課題を課すため、事前学習をして講義、グループディスカッションに週に1時間を費やすこと。また講義で実施した小テスト、配布資料はポートフォリオとして整理すること。

成績評価基準

筆記試験80点、レポート課題(小テスト、事前学習課題)20点にて評価する。小テストは毎回10点満点として評価する。毎回の事前学習課題は、A～Eの5段階で評価する。全ての小テスト、事前学習の点数を20点満点として換算する。これらの合計で評価する。

課題等に対するフィードバック

すべての小テスト、小テストやり直しシート、事前学習課題、ポートフォリオは、評価し返却する。

教科書・参考書など

宮下光令 編 『成人看護学⑥ 緩和ケア』ナースিং・グラフィカ メディカ出版

黒江ゆり子 他 編 『新体系 看護学全書 専門分野 経過別成人看護学3 慢性期看護』メチカルフレンド社出版

安酸史子 他 編 『成人看護学 (1) 成人看護学概論』ナースিং・グラフィカ メディカ出版

讃井将満 他 編 『疾患と看護 (1) 呼吸器』ナースিং・グラフィカEX メディカ出版

野原隆司 他 編 『疾患と看護 (2) 循環器』ナースিং・グラフィカEX メディカ出版

三原弘 他 編 『疾患と看護(3): 消化器』ナースিং・グラフィカEX メディカ出版

薊隆文 他 編 『疾患と看護 (4) 血液/アレルギー/膠原病/感染症』ナースিং・グラフィカEX メディカ出版

永廣信治 他 編 『疾患と看護 (5) 脳・神経』ナースিং・グラフィカEX メディカ出版

苛原 稔 他 編 『疾患と看護(9): 女性生殖器』ナースিং・グラフィカEX メディカ出版

(参考書) 林 章敏 『これならわかる！はじめての緩和ケア』ナツメ社

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	岩本利恵	ユニット1・緩和ケアの歴史と概念 1) 緩和ケアの歴史、概念、動向について学ぶ。 2) 緩和ケアの対象となる人について学ぶ。 3) 緩和ケアの特徴的な病棟等について学ぶ。
2	内田荘平	ユニット2・緩和ケアにおけるチーム医療と多職種連携 事例(肺がん) 1) 緩和ケアにおけるチーム医療、多職種連携について学ぶ。 2) 緩和ケアにおける行政を含む専門職者との連携、社会資源の活用について学ぶ。
3	岩本利恵	ユニット3・終末期にある対象者の全人的ケア 1) 身体的な変化および身体的苦痛の特徴について学ぶ。 2) 身体的苦痛のアセスメントおよび症状コントロールの看護について学ぶ。
4	岩本利恵	ユニット3・終末期にある対象者の全人的ケア 1) 身体的苦痛のアセスメントおよび症状コントロールの看護について学ぶ。 2) 身体的苦痛に対するチーム医療、多職種連携について学ぶ。
5	有永麻里	ユニット3・終末期にある対象者の全人的ケア 1) 対象者および家族の心理的な変化および心理的苦痛の特徴について学ぶ。 2) 心理的苦痛に対するチーム医療、多職種連携について学ぶ。
6	木下惣太	ユニット3・終末期にある対象者の全人的ケア 1) 対象者および家族の役割変化および社会的苦痛の特徴について学ぶ。 2) 社会的苦痛に対するチーム医療、多職種連携、行政を含む専門職者との連携、社会資源の活用について学ぶ。
7	岩本利恵	ユニット3・終末期にある対象者の全人的ケア 1) 対象者および家族のスピリチュアル的な変化およびスピリチュアル的苦痛の特徴について学ぶ。 2) スピリチュアル的苦痛に対するチーム医療、多職種連携、専門職者との連携、社会資源の活用について学ぶ。
8	有永麻里	ユニット4・自分らしく最後まで生きる対象者へのケア 事例(心不全) 1) 対象者および家族が自分らしく生きることへの支援を学ぶ。 2) 対象者および家族が自分らしく生きるためのチーム医療、多職種連携、専門職者との連携、社会資源の活用について学ぶ。 3) 対象者および家族の死の受容をキューブラ・ロスの理論を用いて学ぶ。
9	岩本利恵	ユニット5・緩和ケアにおける意思決定支援 事例(脳腫瘍) 1) 終末期、緩和期における対象者およびその家族の意思決定の支援を学ぶ。 2) 終末期、緩和期における対象者およびその家族の意思決定におけるチーム医療について学ぶ。
10	木下惣太	ユニット6・緩和ケアにおける倫理的配慮が必要なケア 事例(脳腫瘍) 1) 事例を基に、倫理的配慮(告知(病名、余命)、セデーション、個人情報、本人の希望、家族の希望等)から考える倫理的問題について学ぶ。 2) 緩和ケアにおける倫理的問題に対する看護師の役割、チーム医療、多職種連携について学ぶ。
11	岩本利恵	ユニット7・喪失に対するケア 事例(脳腫瘍) 1) 自らが脳腫瘍になる設定から、自身の喪失していくものの特徴について学ぶ。 2) 様々なものを喪失していく対象者およびその家族に対する看護について学ぶ。
12	秋永和之	ユニット8・看取りのケア 1) 死が近い対象者およびその家族に対する身体的苦痛に対する緩和に対する看護について学ぶ。 3) 死が近い対象者およびその家族に対する緩和ケアにおけるチーム医療、多職種連携を学ぶ。
13	有永麻里	ユニット8・看取りのケア 1) 事例を基に、死への心理的变化、死への恐怖を「死ぬ瞬間」から学ぶ。 2) 死への恐怖のある対象者およびその家族に対する看護を学ぶ。 3) 死への全人的な苦痛の緩和について学ぶ。
14	吉田あや	ユニット8・看取りのケア 事例(肺がん) 1) 死を迎えた対象者の尊厳を理解し、死後の処置の方法、看護師の役割を学ぶ。 2) 死後の処置時の家族への看護について事例(肺がん)を基に学ぶ。
15	岩本利恵	ユニット8・グリーフケア 1) 患者および家族の予期的悲嘆について考え、状況の変化と予期的悲嘆について学ぶ。 2) 死後の家族のグリーフケア時の看護師の役割、チーム医療、多職種連携、社会資源の活用について学ぶ。

開設年度	2026年度	科目名	高齢者看護論			科目コード	DN121730
評価責任者	宮園 真美 ※各回の担当教員は授業計画にて確認してください					授業回数	15回
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・後期		
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		☐ -1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。 ☐ -2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。 ☐ -3 科学的根拠に基づく対象者の個性に応じた最適な生活（well-being）に向けた看護を計画的に実践できる。 ☐ -4 保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実践について説明できる。 ☐ -5 在宅高齢者の健康支援ニーズに対応するために必要な包括的な支援活動を理解し、看護実践への探究心を示すことができる。 ☐ -6 対象者に応じた口腔の援助技術を修得し、QOL向上に向けた口腔を起点とした全身の健康支援のあり方を探求できる。					

授業の目的とねらい

2年後期にあるこの科目では、ライフサイクルにおける老年期に生きる意味や価値を理解し、対象およびその家族がよりよい生活（well-being）を送る上で必要な老年看護の基盤となる知識・技術、および社会保障制度を活用した援助方法について学修します。高齢者の生活機能を保持・増進・回復するために必要な口腔を起点とした全身の健康支援の方法を含め学習します。特に、加齢とともに高齢者に多く見られる疾患と看護についてアセスメントできる力を身に付けることができるように、事前学習をして講義に臨み、積極的に学修してください。

〈実務経験を生かした教育内容〉
病院勤務における様々な疾患を持つ高齢者への看護経験を活かし、高齢者の最適な生活（well-being）を目指した看護実践を指導する。

到達目標

1. 理解 知識
- 1) 老化のメカニズムと起こりやすい疾患の特徴について説明できる。
 - 2) 高齢者に起こりやすい疾患の機序および症状について説明できる。
 - 3) 加齢変化と身体的諸機能・精神的諸機能のアセスメントの方法が説明できる。
 - 4) 高齢者に生じやすい主な障害とアセスメントの方法が説明できる。
 - 5) 高齢者の経過別看護について事例を基に説明できる。
 - 6) 高齢者および家族看護の重要性を説明できる。
 - 8) 高齢者および家族を取り巻く、地域社会や保健医療介護のシステムの動向について説明できる。
2. 態度形成 態度
- 1) 高齢者を理解し尊重する態度を養う。
 - 2) 高齢者の安全を守るという意識を高める。
3. スキル形成
- 1) テーマ毎に自分の考えを表現できる。
 - 2) 疑問を持って調べることができる。

準備学修

学生は、必須または推奨される読書、課題、プレゼンテーション準備やその他学習活動に各回 4 時間程度を費やすこと。また、授業で配布するプリントや返却された小テストなどについても予習、復習に活用すること。

成績評価基準

資料として配布する評価シートにもとづき、各回のレスポンスレポート評価を行い、授業態度・課題内容（20点）とする。
筆記試験およびレポート（80点）によって総合100点で評価する。
課題の締め切りに遅れた場合は減点対象となる。

課題等に対するフィードバック

課題レポートなどは、評価後に解説し返却する。

教科書・参考書など

- （教科書）
- 1) 堀内ふき他『ナースিং・グラフィカ 老年看護学(1) 高齢者の健康と障害 第8版』メディカ出版
 - 2) 堀内ふき他『ナースিং・グラフィカ 老年看護学(2) 高齢者看護の実践 第7版』メディカ出版
- （参考書）
- 1) 山田律子他『生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図 第4版』医学書院
 - 2) 安村誠司他『高齢者保健福祉マニュアル』南山堂

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	宮園真美	老年期にある対象者の老化の過程とメカニズム 1) 生理的な老化, 病的な老化と健康障害との違い 2) 主要な機能における老化のメカニズム 3) 老化が与える高齢者の生活への影響
2	宮園真美	老年医学と高齢者に関連する疾患 1) 老年期の疫学的データの特徴について 2) 死因に挙がっている主な疾患と高齢者の健康状態について 3) 高齢者医療を取り巻く現状と問題点について
3	深川知栄	高齢者に起こりやすい主な症状と看護 1) 高齢者によく見られる身体症状のなりたちと看護 (脱水・感染) 2) 加齢による廃用症候群とメカニズム 3) 皮膚粘膜の加齢による変化と看護 (ドライスキン・老人性皮膚瘙癢症・褥瘡)
4	宮園真美	高齢者の加齢変化と心身のアセスメント (1) 1) ~7) の器質的機能的変化とアセスメントの視点 1) 脳神経系 2) 循環器系 3) 呼吸器系 4) 口腔・消化器系 5) 腎泌尿器系 6) 感覚器系 7) 運動器系
5	小島美里	高齢者の加齢変化と心身のアセスメント (2) 1) 加齢に伴う脳血管疾患のメカニズムと看護 2) 加齢に伴う循環器疾患のメカニズムと看護 3) 加齢に伴う呼吸器疾患のメカニズムと看護 4) 加齢に伴う口腔・消化器系のメカニズムと看護
6	小島美里	高齢者の加齢変化と心身のアセスメント (3) 1) 加齢に伴う腎泌尿器系の疾患のメカニズムと看護 2) 加齢に伴う感覚器の疾患のメカニズムと看護 3) 加齢に伴う運動器系疾患のメカニズムと看護 4) ロコモティブ症候群・サルコペニア・フレイルと老化・機能障害との関連
7	近松裕子	高齢者に生じやすい主な障害とアセスメント 1) 言語機能の障害のメカニズムとアセスメント 2) 摂食・嚥下過程と障害のアセスメント (摂食・嚥下過程の分類、客観的評価法) 3) 排泄機能障害のメカニズムとアセスメント (尿失禁・便秘・便失禁)
8	村上直子	高齢者の加齢変化と精神的諸機能のアセスメント 1) 精神的な側面の変化 (知能・知恵・感情・高齢者の情緒・人格・喪失体験・意欲・意思) 2) 高齢者抑うつ尺度 (GDS) などを用いて、心理的な側面を含めた包括的なアセスメントの方法
9	山中富	急性期における高齢者看護 1) 手術を受ける高齢者への看護 (術前管理・術後合併症予防) 2) 入院環境とせん妄の予防 3) 術後合併症予防と口腔ケア
10	山中富	慢性期における高齢者看護 1) 薬物療法と高齢者に起こりやすい有害反応 2) 高齢者が適切な服薬管理を行うための方法 3) 放射線療法や化学療法を受ける高齢者への看護 4) 高齢者の口腔の状態に応じた生活指導
11	山中富	終末期における高齢者看護 1) ターミナルケア, 緩和ケア, エンドオブライフケア 2) 終末期医療と意思決定の現状と問題点 3) 苦痛を緩和する方法 (疼痛緩和・不顕性誤嚥・口腔の管理)
12	小島美里	高齢者および家族を取り巻く, 地域社会や保健医療介護のシステムの動向 1) 高齢者の生活を支えるヘルスプロモーション 2) 介護・医療ニーズの高い高齢者への社会資源 (地域包括支援・介護サービス・訪問看護)
13	小島美里	生活支援を必要とする高齢者および家族への看護 1) 介護予防のしくみと方法 2) 療養生活を支えるための他職種連携・日常生活支援・リハビリテーション 3) 介護家族の健康を守るための支援の方法 (レスパイト含む)
14	山中富	高齢者の健康づくりのために必要な口腔ケア 1) 口腔と全身の健康を保持・増進するための保健活動 「口腔関連疾患予防」「感染予防 (口腔内清浄)」「円滑なコミュニケーション」「咀嚼機能の向上」「栄養状態の向上」「豊かな表情, 容姿」 2) 口腔を評価する指標 3) 高齢者の口腔ケア (義歯の取り扱い)
15	宮園真美	看護専門職として, 高齢者の口腔の管理に必要な方法 1) 高齢者の口腔の機能を維持・向上するための具体的な方法とその効果 齦蝕・歯周病・口腔乾燥・肺炎予防 2) 高齢者への口腔ケアを通じた健康支援と看護職の役割

開設年度	2026年度	科目名	成人・高齢者看護論演習Ⅰ			科目コード	DN121735
評価責任者	宮園 真美 ※各回の担当教員は授業計画にて確認してください					授業回数	15回
授業方法	演習		単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	2年・後期	
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力			○	-1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。			
			○	-2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。			
			○	-3 科学的根拠に基づく対象者の個性に応じた最適な生活（well-being）に向けた看護を計画的に実践できる。			
			○	-4 保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実践について説明できる。			
			○	-5 在宅高齢者の健康支援ニーズに対応するために必要な包括的な支援活動を理解し、看護実践への探究心を示すことができる。			
			○	-6 対象者に応じた口腔の援助技術を修得し、QOL向上に向けた口腔を起点とした全身の健康支援のあり方を探求できる。			

授業の目的とねらい

2年生の後期にあるこの科目では、既習の成人看護学、高齢者看護学で学習した「身体的・心理的・社会的加齢変化とアセスメント方法」に基づき、実際のアセスメント方法や実践技術を理解できることを目指しています。

精神機能、摂食・嚥下機能、栄養代謝機能、運動機能、皮膚粘膜機能、排泄機能などの老化による機能障害をきたしやすい機能に対して、適切な評価尺度を用いたアセスメントを行うとともに具体的な支援方法が理解できるようにします。また、個々のユニットで学習した内容を活用し、紙上事例で挙げられた情報の分析・アセスメント・看護計画の立案ができるように、グループワークやディスカッションを通して学習内容が深まるようにします。さらに、実施した内容を看護記録として、整理・分析・評価できる視点を持ち思考を深めるために、体験型学習を多く取り入れます。最終的には、3年後期に実施する、成人・高齢者看護学実習Ⅱ・Ⅲ、高齢者生活支援看護学実習で受け持つ様々な健康レベルにある患者や生活行動障害を有する対象者への看護が実践できるように必要な方法を修得することを目指します。

〈実務経験を生かした教育内容〉

病院勤務における様々な疾患を持つ高齢者への看護経験を活かし、高齢者の最適な生活（well-being）を目指した看護実践を指導する。

到達目標

1. 知識
- 1) 成人期・老年期の看護過程に必要な身体的・心理的・社会的加齢変化とアセスメント方法について述べることができる。
- 2) 認知症者への対応について重要なポイントを説明できる。
- 3) 口腔から高齢者の全身の健康を守るための看護アセスメントについて説明できる。
- 4) 栄養から高齢者の活動を維持するための看護アセスメントについて説明できる。
2. 態度
- 1) 高齢者とのコミュニケーション能力を身につける。
- 2) 高齢者を尊重する態度で接する姿勢を持つ。
3. 技術
- 1) 模擬高齢者へ安全で効果的な技術を提供できる。
- 2) 紙上事例を用いて高齢者の最適な生活（well-being）を目指した看護計画を立案できる。

準備学修

学生は、必須または推奨される読書、課題、プレゼンテーション準備やその他学習活動に各回4時間以上を費やすこと。また、授業で配布するプリントや返却された小テストなどについても予習や復習に活用すること。

成績評価基準

授業態度・課題内容（20点）とレポート評価（80点）によって総合100点で評価する。

レポートは毎回提出する。

課題の締め切りに遅れた場合は減点対象となる。

課題等に対するフィードバック

課題レポートなどは、評価後に解説し返却する。

教科書・参考書など

- （教科書）
- 1) 堀内ふき他『ナースング・グラフィカ 老年看護学(1) 高齢者の健康と障害 第8版』メディカ出版
- 2) 堀内ふき他『ナースング・グラフィカ 老年看護学(2) 高齢者看護の実践 第7版』メディカ出版
- （参考書）
- 1) 山田律子他『生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図 第4版』医学書院
- 2) 泉キヨ子他『看護実践のための根拠がわかる老年看護技術 第4版』メヂカルフレンド社
- 3) 亀井智子『根拠と事故防止からみた老年看護技術 第3版』医学書院
- 4) 安村誠司他『高齢者保健福祉マニュアル』南山堂

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	宮園真美	ユニット1 認知機能障害のある高齢者の理解 1. 認知症高齢者の身体的・精神的・社会的特徴 1) 認知症の中核症状と周辺症状 2) 認知症の4大疾患とその特徴
2	小島美里	ユニット1 認知機能障害のある高齢者の理解 2. スケールを用いた高齢者の心身の理解と評価の視点 1) 認知症の中核症状と周辺症状がもたらす生活行動への影響 2) 評価スケールの評価方法と活用方法（CGA、MMSE、GDSなど）
3	近松裕子	ユニット1 認知機能障害のある高齢者の理解 認知機能障害のある高齢者への介入 1) 認知症の中核症状と周辺症状がもたらす生活行動への影響 2) 認知症者への日常生活ケアの基本とユマニチュード技法 3) 認知症高齢者、家族および介護者への社会的支援と地域での啓蒙活動
4	山中富	ユニット2 低栄養状態や摂食嚥下障害がある高齢者の理解 1. 低栄養と高齢者の健康 1) 高齢者の栄養状態評価と全身のアセスメント 2) 食物認知・摂食能力を評価 3) 骨格筋量・体脂肪量・血液生化学データ評価
5	深川知栄	ユニット2 低栄養状態や摂食嚥下障害がある高齢者の理解 2. 誤嚥予防と摂食嚥下障害のある高齢者への食事介助と口腔ケア 1) 誤嚥・窒息に関する管理方法と摂食嚥下障害に対するアセスメント方法 2) 誤嚥予防のためのポジショニング 3) 機能的口腔ケアの方法と多職種連携による口腔ケア（義歯の管理含む）
6	山中富	ユニット3 高齢者の生活機能を支える排泄ケア 1. 排尿機能を整えるためのケアおよび排尿障害への援助 1) 排尿困難、尿失禁のアセスメント 2) 高齢者の尊厳を考慮した排尿機能を維持するための援助
7	村上直子	ユニット3 高齢者の生活機能を支える排泄ケア 2. 排便機能を整えるためのケアおよび排便障害への援助 1) 排便状況の観察と、排便パターンについてアセスメント 2) 高齢者の尊厳を考慮し、排便パターンに合った排便管理
8	宮園真美	ユニット4 高齢者の生活機能を支える活動支援 1. 転倒・転落アセスメントに必要な評価指標と評価方法 1) 日常生活動作の評価指標 2) 転倒・転落アセスメント評価
9	小島美里	ユニット4 高齢者の生活機能を支える活動支援 2. 移動・歩行の能力や機能の評価方法 1) 歩行速度、移動能力、バランス力 2) 歩行動作時に必要な機能
10	深川知栄	ユニット4 高齢者の生活機能を支える活動支援 3. 移動・歩行動作への援助 1) 残存機能、潜在的・顕在的能力（できる力ともてる力）のアセスメント 2) 安全で自立を考慮した移動や歩行の支援
11	小島美里	ユニット5 高齢者の生活機能を支える酸素管理 1. 高齢者の呼吸機能を理解する 1) 呼吸機能を評価するための観察や検査 2) 呼吸状態のアセスメント
12	近松裕子	ユニット5 高齢者の生活機能を支える酸素管理 2. 地域で生活する高齢者の酸素管理① 1) 在宅酸素療法を理解する 2) 酸素ボンベの取り扱い方法について
13	村上直子	ユニット5 高齢者の生活機能を支える酸素管理 2. 地域で生活する高齢者の酸素管理② 1) 在宅酸素療法を理解する 2) 酸素ボンベの取り扱い方法について
14	山中富	ユニット6 高齢者の生活機能を支えるスキンケア 1) 高齢者の皮膚の特徴 2) スキンテアや褥瘡発生リスクのアセスメント 3) その他
15	宮園真美	科目のまとめ 成人期・老年期にある対象の看護過程、看護援助方法の実践を通して実習に活かす課題について考察する

開設年度	2026年度	科目名	精神看護論			科目コード	DN121770
評価責任者	原 やよい ※各回の担当教員は授業計画にて確認してください					授業回数	15回
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・後期		
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○	-1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。				
		○	-2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。				
		○	-3 科学的根拠に基づく対象者の個性に応じた最適な生活（well-being）に向けた看護を計画的に実践できる。				
		○	-4 保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実践について説明できる。				
		○	-5 在宅高齢者の健康支援ニーズに対応するために必要な包括的な支援活動を理解し、看護実践への探究心を示すことができる。				
		○	-6 対象者に応じた口腔の援助技術を修得し、QOL向上に向けた口腔を起点とした全身の健康支援のあり方を探求できる。				
		○	-7 看護専門職として研鑽し続けるために必要な課題探究能力を有し、自己の課題を明確にできる。				

授業の目的とねらい

2年生後期にあるこの科目では、対象者に応じた最適な生活（well-being）を目指し、精神的健康を保持・増進・回復する精神看護の修得を目的とする。2年生前期の精神看護学概論で得た精神看護の概要を具体的に学んでいく。精神看護の基盤となる援助的人間関係の構築について理解し、コミュニケーションスキルを高める方法を修得する。事例を使い看護を展開する中で、精神的健康の保持・増進・回復に向けた精神看護の方法を修得する。さらに入院から地域生活における継続した精神看護について学ぶ。精神看護に必要なセルフケア能力を高める支援、認知行動療法、法律や社会資源の活用方法、他職種との協調・協働方法などについて学ぶ。グループワーク、ロールプレイなどを取り入れ、理解を深める。この科目では、精神看護論演習につながる内容を学び、精神看護学実習で実践できるようにしておく必要がある。

〈実務経験を生かした教育内容〉
教員が持つ精神科病院や精神科デイケアにおける精神看護の実務経験を活かし、さまざまな精神の健康レベルにある対象者の最適な生活（well-being）に向け、精神的健康を保持・増進・回復する看護を教授する。さらに、実務経験を基に、他職種と協調・協働した医療を提供する方法、入院から地域まで継続した看護について教授していく。

到達目標

1. 全体像の理解 知識
 - 1) 精神看護の基盤となる援助的人間関係構築に向けた効果的なコミュニケーション方法を説明できる。
 - 2) 看護理論を精神看護に活用する方法について説明できる。
 - 3) 対象者の最適な生活（well-being）を考え、精神的健康の保持・増進に向けた看護について説明できる。
 - 4) 対象者の最適な生活（well-being）を考え、精神障害者の精神的健康回復に向けた看護について説明できる。
 - 5) 他職種と協調・協働した精神的健康支援方法を説明できる。
 - 6) 精神的健康支援のための社会資源活用方法について説明できる。
2. 態度形成 態度
 - 1) 精神看護を提供するために必要な倫理観を養う。
 - 2) 精神障害者に対して、医療者の立場で対応できる態度を養う。
3. 技能
 - 1) 精神看護を実践するためのコミュニケーションを図ることができる。
 - 2) 精神看護に対する考え方について、レポートにまとめることができる。

準備学修

授業前にシラバスで該当する部分の教科書に目を通しておく。既習学習の精神看護学概論で学んだ精神看護の概要について復習しておく。予習・復習に必要な時間は全体で60時間とする。

成績評価基準

筆記試験（70点）、演習への取り組み・精神看護に対する考え方についての課題レポート（30点）など総合して評価する。課題レポートなどは、講義前後の予習・復習課題を提示する。提出物の提出期限に遅れた場合には減点対象とする。

課題等に対するフィードバック

課題レポート等は、講義前後の予習・復習課題を提示する。課題レポート等は評価後に返却し、正答および解説を行う。

教科書・参考書など

（教科書）
出口禎子 他（著）『ナースング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本』メディカ出版
白石弘巳 他（著）『ナースング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践』メディカ出版
（参考書）
萱間真美 他（著）『精神看護学 こころ・からだ・かかわりのプラクティス』南江堂

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	原やよい	ユニット1 効果的なコミュニケーション 1) 精神看護に必要な効果的なコミュニケーション方法について学ぶ。 2) 精神看護の基盤となる援助的人間関係構築について学ぶ。
2	原やよい	ユニット2 看護理論 1) 精神看護に活用できる主な看護理論について学ぶ。 (1) アンダーウッド「オレムアンダーウッド理論」(2) ペプロウ「人間関係の看護論」(3) トラベルビー「人間対人間の看護」 2) 看護理論を精神看護に活用する方法について学ぶ。
3	原やよい	ユニット3 精神障害者の精神的健康回復に向けた看護 1) 精神症状のある患者に対して、最適な生活（well-being）を目指し実践される看護を学ぶ（グループワーク、ロールプレイを行う）。 (1) 最適な生活（well-being）に精神症状が及ぼす影響を学ぶ。
4	原やよい	(2) 精神症状のある患者に合わせ実践する最適な生活（well-being）を目指した看護について学ぶ。 (3) セルフケア行動の維持・向上への精神看護を学ぶ。 (4) 入院から地域生活における継続した精神看護について学ぶ。
5	原やよい	2) 統合失調症患者の最適な生活（well-being）を目指す看護について学ぶ。 (1) 統合失調症患者に対して、最適な生活（well-being）を目指し実践する看護について学ぶ。 (2) 地域の関係機関と協働関係を形成する方法について学ぶ。
6	原やよい	3) 気分障害患者の最適な生活（well-being）を目指す看護について学ぶ。 (1) 入院治療を受ける気分障害患者に対して、最適な生活（well-being）を目指し実践する看護について学ぶ。 (2) 地域生活を送る気分障害患者に対して、最適な生活（well-being）を目指し実践する看護について学ぶ。
7	原やよい	4) 不安障害患者および強迫性障害患者の最適な生活（well-being）を目指す看護について学ぶ。 (1) 入院治療を受ける患者や地域生活を送る不安障害患者および強迫性障害患者に対して、最適な生活（well-being）を目指し実践する看護について学ぶ。
8	原やよい	5) 物質関連障害患者および嗜癖性障害患者の最適な生活（well-being）を目指す看護について学ぶ。 (1) 入院治療を受ける患者や地域生活を送る物質関連障害患者および嗜癖性障害患者に対して、最適な生活（well-being）を目指し実践する看護について学ぶ。
9	黒岩千翔	6) 摂食障害患者の最適な生活（well-being）を目指す看護について学ぶ。 (1) 入院治療を受ける患者や地域生活を送る摂食障害患者に対して、最適な生活（well-being）を目指し実践する看護について学ぶ。
10	黒岩千翔	7) ストレス関連障害患者の最適な生活（well-being）を目指す看護について学ぶ。 (1) 災害・事故などによる心的外傷後ストレス障害（PTSD）を持つ対象者の健康支援方法について学ぶ。
11	原やよい	8) パーソナリティ障害患者の最適な生活（well-being）を目指す看護について学ぶ。 9) 医療観察法病棟に入院する対象者の最適な生活（well-being）を目指す看護について学ぶ。
12	原やよい	10) 神経発達症患者の最適な生活（well-being）を目指す看護について学ぶ。 11) 精神障害者に対する 口腔を起点とする全身の健康支援について学ぶ。 (1) 精神障害者の口腔を起点とした全身の健康支援の必要性を学ぶ。 (2) 精神障害者の口腔を起点とした全身の健康支援方法を学ぶ。
13	原やよい	ユニット4 精神的健康の保持・増進に向けた看護 1) 地域社会において、対象者に応じた最適な生活（well-being）を目指す精神的健康支援方法を学ぶ。
14	原やよい	2) 精神的健康支援のための社会資源活用方法について学ぶ。 (1) 精神的健康に必要な社会資源について学ぶ。 (2) 精神的健康に向けた社会資源活用の支援について学ぶ。
15	原やよい	ユニット5 他職種との協調・協働（グループワークを行う） 1) 他職種と協調・協働した精神的健康支援方法を学ぶ。 (1) 精神的健康支援を行うため、他職種や関連機関などとの協調・協働方法を学ぶ。 (2) 精神保健医療福祉チーム員の機能と専門性、看護の役割を学ぶ。

開設年度	2026年度	科目名	公衆衛生看護活動論Ⅰ（個人・家族・グループ健康教育）			科目コード	DN121815
評価責任者	石田 有紀 ※各回の担当教員は授業計画にて確認してください					授業回数	15回
授業方法	演習		単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	2年・後期	
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力			○	-1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。			
			○	-2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。			
			○	-3 科学的根拠に基づく対象者の個性に応じた最適な生活（well-being）に向けた看護を計画的に実践できる。			
			○	-4 保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実践について説明できる。			
			○	-7 看護専門職として研鑽し続けるために必要な課題探究能力を有し、自己の課題を明確にできる。			

授業の目的とねらい

本演習では、保健行動理論と個人・集団への保健活動支援方法についてグループワークを通して学ぶ。個人を対象とした支援では、疾病予防や健康増進のための保健指導の方法について学習する。事例についてグループで健康課題のアセスメントを行い、その課題を改善するために必要な保健指導内容について考え、ロールプレイを通して保健指導方法と行動変容理論について理解する。また、行動変容に繋がるコミュニケーション技術について理解することを目指す。集団を対象とした支援では、個人ではなく特定の集団に対する健康教育を実施する上で必要な知識と技術について理解することを目指す。グループで健康に関するテーマに合わせた健康教育を考え、教育で使用する媒体を作成し、プレゼンテーションを実施し、学生間でピア評価を行うことで、学びをより深めていく。

<アクティブ・ラーニングおよびICTを取り入れた教育>

本演習では、個人の健康課題についてロールプレイを行いながら具体的な保健指導方法について学ぶ。また集団を対象とした健康教育についてグループディスカッションを行い、実際の場面を想定したプレゼンテーションを通して学びを深める。

<実務経験を生かした教育内容>

演習は地域住民に対する保健指導および健康教育の実務経験を有した教員が具体的な事例を紹介しながら実践的教育を行う。

到達目標

- 1.全体像の理解 知識
- 1) 保健行動理論のモデルについて理解し、説明できる。

2) 対象者に応じた健康課題を抽出できる。

3) 健康課題に対する保健指導の方法について理解し、説明できる。

4) 個人・集団への保健指導・健康教育の内容について理解し、説明できる。

5) 保健指導内容に応じた媒体について理解し、説明できる。
- 2.態度形成 態度
- 1) 資料作成、ロールプレイや発表など積極的に参加できる。

2) グループメンバーと協力してグループワークを行うことができる。
- 3.スキル形成
- 1) 対象者に合わせた企画書・指導案・媒体の作成を行い、保健指導および健康教育を実施できる。

2) 行動変容理論を活用したコミュニケーションをとることができる。

3) 行動変容理論を活用した健康教育を考えることができる。

準備学修

講義前にシラバスの到達目標を理解した上で、教科書の項目に目を通しておくこと。
学生は課せられる課題や、その他の学習活動に60時間を費やすこと。
講義後は、配布資料と教科書を用いて講義内容を復習すること。

成績評価基準

筆記試験(40%)、演習レポート等および授業態度（60%）として総合100点で評価する。

課題等に対するフィードバック

演習で作成するレポート等は教員が確認し、適宜助言を行う。
全演習終了後、提出されたレポートについて成績評価を実施する。

教科書・参考書など

（教科書）
鳩野洋子 他 編集 『公衆衛生看護学.jp 第6版』 インターメディカル

（参考書）
宮坂忠夫 編著 『最新保健学講座 別巻1 健康教育論』 メヂカルフレンド社
曾根 智史 他 訳 『健康行動と健康教育 理論・研究・実践』 医学書院
金川克子 『効果的な面接技術と事業展開から学ぶ保健指導』 中央法規
田中逸 著 『セミナー生活習慣病』 日本医事新報社

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	吉田大悟	ユニット1 保健指導の基本 ・公衆衛生看護活動の技術としての保健指導の基本について
2	吉田大悟、寒水草納、石田有紀	ユニット1 保健指導の基本 ・公衆衛生看護活動の技術としての保健指導の実践について ・公衆衛生看護学実習の報告会
3	寒水草納	ユニット2 保健指導に関する理論 ・保健行動理論と保健指導で活用できる理論について
4	吉田大悟	ユニット2 保健指導の展開 ・健康相談や健康診査から派生する保健指導の方法や内容について ・特定健診・特定保健指導について
5	吉田大悟、寒水草納、石田有紀	ユニット2 対象者の目的に沿った保健指導の準備[3人組演習①] ・対象者の健康課題のアセスメント ・保健指導案の作成 グループワークによる実施
6	吉田大悟、寒水草納、石田有紀	ユニット2 個人に対する保健指導の媒体作成[3人組演習②] ・保健指導案の作成 ・保健指導媒体の作成 グループワークによる実施
7	吉田大悟、寒水草納、石田有紀	ユニット2 個人に対する保健指導の実施[3人組演習③] ・保健指導のロールプレイの実施 ・ロールプレイの振り返りと学びの共有 グループワークによる実施
8	寒水草納	ユニット3 健康教育の展開 ・健康教育の目的について ・健康境域の対象者について ・健康教育の実践方法について
9	吉田大悟、寒水草納、石田有紀	ユニット3 集団に対する健康教育 (1) [グループ演習①] ・対象者と疾患についての学習・アセスメント ・健康教育の企画書と指導案の作成 グループワークによる実施
10	吉田大悟、寒水草納、石田有紀	ユニット3 集団に対する健康教育 (2) [グループ演習②] ・対象者と疾患についての学習・アセスメント ・健康教育の企画書と指導案の作成 グループワークによる実施
11	吉田大悟、寒水草納、石田有紀	ユニット3 集団に対する健康教育 (3) [グループ演習③] ・健康教育の企画書と指導案の作成 ・健康教育の媒体作成 グループワークによる実施
12	吉田大悟、寒水草納、石田有紀	ユニット3 集団に対する健康教育(4)[グループ演習④] ・健康教育の媒体作成 ・健康教育の実践練習 グループワークによる実施
13	吉田大悟、寒水草納、石田有紀	ユニット3 健康教育発表会 (1) 各グループの発表と評価 ・健康教育の実施 ・発表内容に関するピア評価の実施 グループワークによる実施
14	吉田大悟、寒水草納、石田有紀	ユニット3 健康教育発表会 (2) 各グループの発表と評価 ・健康教育の実施 ・発表内容に関するピア評価の実施 グループワークによる実施
15	吉田大悟、寒水草納、石田有紀	ユニット3 健康教育発表会 (3) 各グループの発表、全体評価とまとめ ・健康教育の実施 ・発表内容に関するピア評価の実施 ・全体の評価と演習のまとめ グループワークによる実施

開設年度	2026年度	科目名	口腔健康科学論			科目コード	DN121855
評価責任者	晴佐久 悟 ※各回の担当教員は授業計画にて確認してください					授業回数	15回
授業方法	演習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	2年・後期		
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		-3 科学的根拠に基づく対象者の個性に応じた最適な生活（well-being）に向けた看護を計画的に実践できる。 -4 保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実際について説明できる。 -6 対象者に応じた口腔の援助技術を修得し、QOL向上に向けた口腔を起点とした全身の健康支援のあり方を探求できる。					

授業の目的とねらい

〈授業のねらい〉
本科目では、将来、口腔の健康保持・増進の実施を支える看護師として対象者に応じた口腔の援助技術を修得し、QOL向上に向けた口腔を起点とした全身の健康支援のあり方を多職種間連携で探求できる。」という方針に従って口腔健康科学論を学ぶ。
〈実務経験を生かした教育内容〉
福岡歯科大学高齢者歯科学分野に歯科医師として勤務し、成人・高齢患者への歯科診療、高齢歯科学の講義・実習教育の実務経験を生かし、口腔アセスメント法と多職種連携についてICT（Teams）を利用してを2施設同時に教授する。看護大学で歯科医師として勤務し、口腔ケア・口腔アセスメントの教育・研究の実務経験を活かし、アクティブラーニングを取り入れた多職種連携教育を指導する。福岡医療短期大学歯科衛生学科に歯科衛生士として勤務し、歯科衛生士学生への講義、基礎実習、臨床実習教育の実務経験を生かし、器質的口腔ケア法を指導する。大学病院で言語聴覚士として勤務し、患者への摂食・嚥下訓練の実務経験を活かし、成人の言語機能、摂食・嚥下機能障害の評価、訓練法について指導する。大学病院で、摂食嚥下認定看護師として勤務し、病院での摂食・嚥下機能療法の実施の実務経験を生かし、摂食・嚥下機能療法を教授する。国立病院、大学病院等において、看護師としての実務経験を生かし、患者の特徴に応じた口腔を含めた看護について教授し、アクティブラーニングを取り入れた多職種連携教育を指導する。これらの指導により、摂食、嚥下、咀嚼、言語など口腔のもつ様々な機能の評価、改善法についての方法を学び、身に付けさせる。この教科では、教科書、配布資料、スライド、模型、口腔ケア器具、バイタルサイン測定器具、救急蘇生法訓練で使用する器具等を使用した演習を行う。

到達目標

- 1.全体像の理解知識
- 1) 正常な口腔の形態、解剖を理解し、その機能を説明できる。
- 2) 口腔に発生するおもな疾患であるう蝕と歯周病、およびおもな粘膜疾患について説明できる。
- 3) 口腔の健康状態を把握するためのアセスメントの活用ができる。
- 4) 他者の口腔内を観察し、口腔の健康を保つための管理法について支援できる。
- 5) 言語聴覚士の役割、言語、聴覚、摂食・嚥下機能の回復や発達支援方法を説明できる。
- 6) 食事援助技術を説明できる。
- 7) 多職種間連携で、口腔ケア、バイタルサイン、救急蘇生法を学び、互いに説明できる。
- 8) チーム医療・多職種連携の中での看護の役割について説明できる。
- 2.態度形成 態度
- 1) 口腔医学を知り、口腔アセスメント・口腔ケアへの積極的な態度を養うことができる。
- 3.スキル形成
- 1) 基礎的な口腔のアセスメントを実施でき、歯科受診の必要性について説明できる能力を身につけることができる。
- 2) チーム医療の中での基礎的な口腔ケア、食事援助技術、多職種連携を実施できる能力を身につけることができる。

準備学修

予習・復習に必要な時間は全体で 15 時間とする。
福岡看護大学のホームページで公開されている「福岡看護大学 『看護で教える 最新の口腔ケア』紹介動画①～③」を事前学習として視聴すること（下記：URL参照）。
URL：https://www.fdcnet.ac.jp/ncol/about/movie

成績評価基準

知識、技術に関する試験（80 点）、授業態度・課題（20点）、総合100 点で評価する。。課題の締め切りに遅れた場合は、減点されるので、締め切り日に注意する。授業態度には、授業に臨む姿勢、プレゼンテーション、グループ討議などのディスカッションが含まれる。

課題等に対するフィードバック

課題レポート等は、評価後に返却し、正答の掲示および解説を行う。

教科書・参考書など

【マニュアル】
多職種連携 看護・口腔演習 要項(看護学生・歯科衛生士学生)

【教科書】
水田祥代・窪田恵子監修 『授業・演習、臨床・在宅現場でも、すぐに使える！看護で教える最新口腔ケア』 大道学館出版部

【参考書】
仁和子 井川順子 編 『根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術』 医学書院
深井喜代子著 『新体系 看護学全書 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ』 メヂカルフレンド社
深井喜代子著 『新体系 看護学全書 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ』 メヂカルフレンド社

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	内藤徹	ユニット1 1) 正常な口腔の形態、解剖を理解し、その機能、2) 口腔に発生するおもな疾患であるう蝕と歯周病、およびおもな粘膜疾患、3) 口腔の健康状態を把握するためのアセスメント法を理解し、口腔乾燥や口臭などの口腔関連の徴候について学ぶ。
2	内藤徹	ユニット1 1) 正常な口腔の形態、解剖を理解し、その機能、2) 口腔に発生するおもな疾患であるう蝕と歯周病、およびおもな粘膜疾患、3) 口腔の健康状態を把握するためのアセスメント法を理解し、口腔乾燥や口臭などの口腔関連の徴候について学ぶ。
3	晴佐久悟	ユニット2 1) 看護師の口腔ケア・口腔アセスメント・歯科との連携の重要性、看護師が必要とする口腔ケアの基礎的知識について学ぶ。
4	非常勤講師	ユニット3 1) 言語聴覚士の役割、言語、聴覚、摂食・嚥下機能の回復や発達支援方法を学習する。 2) 成人の摂食・嚥下機能障害に対し、言語聴覚士が行う評価・訓練について学ぶ。
5	非常勤講師	ユニット4 1) 言語聴覚士が嚥下障害者に対し、行う評価・訓練について実際の症例が回復するまでの過程を確認しながら学ぶ。
6	非常勤講師	ユニット5 1) 小児の言語・聴覚・摂食・嚥下機能の発達支援に対し、言語聴覚士が行う評価・訓練について学ぶ。
7	田中美穂	ユニット6 1) チーム医療の中での摂食嚥下認定看護師の役割について学ぶ。 2) チーム医療の中で効果的な話し合いをするための方法について学ぶ。
8	田中美穂	ユニット7 1) 食事援助技術を学ぶ。 2) 看護師による摂食嚥下障害患者へのアプローチについて学ぶ。
9	内藤徹	ユニット8 1) 多職種連携の意義 歯科・看護の連携について学ぶ。 2) 歯科衛生士と看護の連携について学ぶ。
10	内田荘平、秋永和之、吉田あや、山下久恵、門司真由美	ユニット9（多職種連携演習1） 1) 口腔ケア管理時のバイタルサインについて 2) 口腔ケア実施時において、患者が心肺停止した場合の救急蘇生法について
11	内田荘平、秋永和之、吉田あや、山下久恵、門司真由美	ユニット9（多職種連携演習1） 1) 口腔ケア管理時のバイタルサインについて 2) 口腔ケア実施時において、患者が心肺停止した場合の救急蘇生法について
12	内田荘平、秋永和之、吉田あや、山下久恵、門司真由美	ユニット9（多職種連携演習1） 1) 口腔ケア管理時のバイタルサインについて 2) 口腔ケア実施時において、患者が心肺停止した場合の救急蘇生法について
13	晴佐久悟、山下久恵、門司真由美	ユニット10（多職種連携演習2） 1) 口腔ケアの定義と意義、全身疾患との関連、他職種連携の重要性を説明できる。 2) 口腔ケア用品の選択をセルフで実施し、体験することにより、それらの器具を使用した口腔ケア法を学習する。
14	晴佐久悟、山下久恵、門司真由美	ユニット10（多職種連携演習2） 3) 患者座位で行う口腔ケアについて学ぶ。 4) 口腔の健康状態を把握するためのアセスメントの活用について学習する。
15	晴佐久悟、山下久恵、門司真由美	ユニット10（多職種連携演習2） 5) 口腔内の汚れの理解と口腔の健康を保つための管理法について学ぶ。 6) 他者の口腔内を観察し、口腔の健康を保つための管理法についての支援を学習する。

開設年度	2026年度	科目名	リハビリテーション看護			科目コード	DN122860
評価責任者	秋永 和之 ※各回の担当教員は授業計画にて確認してください					授業回数	8回
授業方法	講義		単位・必選	1・選択必修	開講年次・開講期	2年・後期	
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力			☐	-1 生命の尊厳を重んじる高い倫理観を基盤に対象者を理解し、援助的人間関係を構築できる。			
			☐	-2 多様な価値観を持つ対象者の健康問題に、創造的思考力を活用して柔軟な対応ができる。			
			☐	-3 科学的根拠に基づく対象者の個性に応じた最適な生活（well-being）に向けた看護を計画的に実践できる。			
			☐	-4 保健・医療・福祉チームの様々な職種が果たす役割を理解し、協調・協働方法の実践について説明できる。			
			☐	-5 在宅高齢者の健康支援ニーズに対応するために必要な包括的な支援活動を理解し、看護実践への探究心を示すことができる。			
			☐	-6 対象者に応じた口腔の援助技術を修得し、QOL向上に向けた口腔を起点とした全身の健康支援のあり方を探求できる。			
			☐	-7 看護専門職として研鑽し続けるために必要な課題探究能力を有し、自己の課題を明確にできる。			

授業の目的とねらい

リハビリテーションや障害の概念、障害者に関わる社会保障制度とリハビリテーション医療システムについての基本的知識を学ぶことで、リハビリテーションを必要とするすべての対象者のための、身体的・心理的・社会的特徴について理解することができる。さらに、機能障害別に代表的な事例を挙げて、セルフケアの再獲得に向けてのリハビリテーション看護の方法を修得することができる。

〈実務経験を生かした教育内容〉
大学付属病院や慢性期・急性期病院における臨床看護実践経験を活かし、疾病や障害とともに生きる対象者および家族の最適な生活（well-being）を目指した看護の実践を指導する。

到達目標

- 知識・理解
- 1) リハビリテーションの定義と目標を説明することができる。
 - 2) リハビリテーションの対象と制度、概要について説明できる。
 - 3) リハビリテーション看護の定義と専門化について説明できる。
 - 4) 運動器系、中枢神経系、呼吸器・循環器系、感覚器系リハビリテーションの対象について説明できる。
 - 5) 運動器系、中枢神経系、呼吸器・循環器系、感覚器系リハビリテーションの看護について説明できる。
- 態度
- 1) 看護者としての視点や態度を身につける。
 - 2) 専門職者として学び続ける態度を身につける。
- 技能
- 1) リハビリテーションについてディスカッションできる。
 - 2) リハビリテーションの必要な対象者にある人の健康課題について、発達課題を踏まえ、身体的・心理的・社会的情報から、包括的にアセスメントできる。

準備学修

事前学習：事前にシラバスの学習項目について予習を行い、講義を受ける。
自己学習ノートを作成しておくことが望ましい。
各授業前後には予習復習として3時間程度の学習（課題）を行う。

成績評価基準

筆記試験(70点)
事後学習（レポート・小テスト等）課題（30点）、これらの合計で評価する。

課題等に対するフィードバック

小テスト、小テストやり直しなどは、評価後に返却し、正答の掲示および解説を行う。

教科書・参考書など

教科書
原 三紀子『系統看護学講座・別巻.リハビリテーション看護』医学書院

《授業計画》

回	担当教員名	学修内容
1	岩本利恵、秋永和之、有永麻里、吉田あや	リハビリテーションの概論を学ぶ 1)リハビリテーションの定義と目標を理解することができる 2)リハビリテーションの対象と制度、概要について理解できる
2	岩本利恵、秋永和之、有永麻里、吉田あや	リハビリテーション看護概論について理解する 1)リハビリテーション看護の定義と専門化について説明できる 2)リハビリテーションの対象と看護について説明できる
3	秋永和之、岩本利恵、有永麻里、吉田あや	運動器系障害リハビリテーションの対象と看護について理解する 1)運動器系リハビリテーションの対象について説明できる 2)運動器系リハビリテーションの看護について理解できる ※杖歩行などの体験学習やアクティブラーニングによる学習
4	有永麻里、秋永和之、岩本利恵、吉田あや	中枢神経系リハビリテーションの対象と看護について理解する 1)中枢神経系リハビリテーションの対象について説明できる 2)中枢神経系リハビリテーションの看護について理解できる ※動画やアクティブラーニングによる学習
5	秋永和之、岩本利恵、有永麻里、吉田あや	中枢神経系リハビリテーションの対象と看護について理解する 1)中枢神経系リハビリテーションの対象について説明できる 2)中枢神経系リハビリテーションの看護について理解できる ※動画やアクティブラーニングによる学習
6	秋永和之、岩本利恵、有永麻里、吉田あや	呼吸器系リハビリテーションの対象と看護について理解する 1)呼吸器系リハビリテーションの対象について説明できる 2)呼吸器系リハビリテーションの看護について理解できる ※動画やグループワーク、アクティブラーニングによる学習
7	吉田あや、秋永和之、岩本利恵、有永麻里	循環器系リハビリテーションの対象と看護について理解する 1)循環器系リハビリテーションの対象について説明できる 2)循環器系リハビリテーションの看護について理解できる ※動画やアクティブラーニングによる学習
8	秋永和之、岩本利恵、有永麻里、吉田あや	感覚器系リハビリテーションの対象と看護について理解する 1)感覚器系リハビリテーションの対象について説明できる 2)感覚器系リハビリテーションの看護について理解できる ※視覚障害のための、白杖の使用や歩行介助体験 アクティブラーニングによる学習